

當方面の各國が今尙、未開の域を脱しないのは云ふ迄もない。併し貿易の年々の進歩は實に顯著なものであつて、最近のケニヤ、ウガンダ及タンガニイカ三國の輸入合計は約二千萬磅に達して居る。尤も是等の諸國の産業は殆ど農業と、牧畜とに限られて居り、其豊凶盛衰が直に外國貿易に多大な影響を及ぼすことは、吾等の最も注意すべき所である。現にウガンダに於ては其主たる産業が棉花の栽培であつて、其成績如何は、直に輸出の振不振となり、輸出の振不振は、同時に輸入の振不振となるのである。然し是等の事情に拘はらず、大體に於て土人の生活状態が、年一年改良進歩しつゝ、あることも、亦否み難い事實であつて、外國貿易の近年の進歩の根本的原因は實に此點にあるのである。

### 日本品の輸入は第二位

輸入品は殆ど總て製造品であつて、其内最も優勢なものは、土人の衣服の材料となるべき木綿である。之に次ぐものは農具、並にセメント及亞鉛張り薄鐵等の建築材料であつて、莫大小陶磁器、エナメル器、硝子器、藥品、燐寸等の日用品、寶石及其模造品、自轉車、自動車、燃料油等の輸入も亦尠くない。但し最近に於ける、木綿の輸入額は總輸入額の約二割に上り、其供給國は英國を第一、日本を第二とし、他は和蘭、印度、獨逸等順次之に次ぎ、主として英國より加工品、日本より生木綿、和蘭より綿毛布を輸入して居るのであつて、日本からの最近の輸入額は大凡七百萬圓位と認められて居る。

### 日本綿布輸入は印度人の功績

元來當方面に於ける日本綿布の輸入は印度人に依つて、開かれたのであつて、最初は孰も彼等の思惑により、一旦孟買に輸入し、同地より東阿市場の注文に應じ、或は直接に、或は亞丁又はザンジバル等の如き仲繼地を経由し、各地に再輸出したるものなるが、商業の發展するに連れ、漸次日本との直接取引をも生ずる様に成つたのである。蓋し東阿に於ける土人相手の商



業は、殆ど總て印度人に依つて、支配せられて居るのであつて、彼等は古き時代より此地方に入込み、沿岸地方は勿論、遠僻の奥地に於ても到る處に於て、深く土人の間に喰ひ入り、上は主要市場に於ける問屋より、下は微々たる小賣商業に至る迄、殆ど總て之を獨占し、土人の間に牢乎として拔くべからざる勢力を扶植して居る。然るに我に取り最も都合なりし事は、我國に於ける第一流の綿布賣込商社が、豫てより孟買に入り込み、印度人に對し盛に我綿布を賣込みつゝ、ある爲め、印度商人は我綿布が東阿市場に於て土人向需要品として好箇の商品なる事を発見したのである。是れ即ち我綿布が東阿に入り込んだ所以であつて、印度商人の功績の偉大なることは云ふ迄もなく、同時に孟買に於ける、我賣込商の努力も亦決して尠からざることを認めねばなむぬのである。然し當初は日本と東阿沿岸との間に、直接の航路がなかつた爲め、日本より輸出の貨物は一旦日本より、直航地たる孟買又は亞丁に送り、同地にて東阿行船便を待ち、之に積替を爲さねばならぬので、不便尠からざりしも、一九二六年(大正十五年)大阪商船會社に於て、東阿に直航路を開始した爲め、東阿に於て從來孟買經由にて、買付た日本商品は、直接東阿の指定地に廻送せられる事と成り、次に我日本と東阿弗利加との貿易を、

圓滑ならしめたのみならず、右航路の開始と共に、大阪の喜田又藏君を社長とする日本棉花株式會社に於て、モムバサ及びダレサラームに支店を設け、大に日本綿布の直賣輸入を開始したるにより、爾來東阿に對する我貿易は一躍進歩の道程に上つたのである。

### 無限なる綿布の需要

綿布の需要者は云ふ迄もなく土人であつて、彼等は從來裸體又は獸皮、草木の葉若くは織經製の編物等を身に纏ひ、又は夫を以て腰部を掩ふ位に過ぎざりしが、近年文化の輸入と共に漸次衣服を用ゆる事を覚え、其材料に木綿を使用する様に成り、モムバサ、ナイロビ、ダレサラーム等の大都市及ウガンダの棉産地杯では最早裸體の土人を見ない位に成つてゐる。然し遠僻の地方に於ては、今も尙昔の儘の裸體計りであつて、綿布の前途の大に有望な事は之を想像するに難からぬのである。



## 注目せらるる高級綿布

翻て最近數年間に於ける、綿布輸入の趨勢を觀察するに、最も優勢なものは粗布であつて、糸染綿布、反染綿布、綿毛布、奈染綿布、晒綿布、順次之に次ぐも、各地の需要が概して高級品に向ひつゝある事は、争ひ難き事實であつて、一方に於て加工品の需要が、漸増の傾向を有すると共に、粗布の内に於ても、一般の嗜好が次第に重目物より軽目物に向ひつゝある事は、大に注意すべき所である。但し今尙多數の裸體土人多き現狀と、購買力の極めて低い事實とに鑑み、粗布の前途に對し、必ずしも悲觀すべき必要なきも、餘りに樂觀し現在の狀態が永久に持續すべしと思はゞ、夫は大なる誤である。現に輕目物の需要は年々急速の進歩を爲しつゝありて、英國及米國が此方面の輸入に於て、大に成功しつゝある事は、吾人の大に注意せねばならぬ所である。恨むらくは日本の技術は、尙遙に英國其他の諸國に及ぶ能はず。然し茲に注意を要する事は、此地方の需要者が孰も嗜好の向上するに拘らず、其の購買力の甚だ乏しい事であつて、商品製造上の技術の足らざる所は、値段で競争する餘地が無いではない。是れ近時

印度及和蘭の加工品が可なり多く、輸入せられつゝある所以であつて、是等兩國の工業家が克く過般の消息を解し、安物を以て、英國の技工に對抗するに外ならぬのである。本邦當業者に於ても宜しく此呼吸を呑み込み、我加工綿布の爲に、一新路を開く事を努むべきである。因に此方面に於て需要せらるゝ加工品は、大抵四十六インチ巾なるに依り、本邦の四四インチ機を以てしては、之が製作の可能性なし、従て英國其他の加工品と競争せんとせば、先づ先決問題として此種の廣巾織物の機械を用意せねばならぬのである。此點に付當業者の研究を望む。最後に注意すべき事は、此方面に於て綿毛布の需要の極めて盛なるに拘らず、其供給は殆ど和蘭に依りて、獨占せられ、我國は全然其利益に均霑して居ない事である。然も本品は當方面に於て到る處に需要があり、將來非常に有望な貿易品なるに依り、前段の事項と共に切に我國當業者の研究を望む所以である。

## 綿布以外の日本輸入品

東阿に於ける我輸入品は獨り綿布のみならず、土人の生活の向上と共にメリヤス、陶器、



硝子器、エナメル器、鐵器、家具、各種小間物等の需要も亦極めて多いのである。然るに是等の商品を取扱ふ者は全然印度人であつて、日本人自ら之を取扱つて居ないのである。是れ吾貿易上の大なる缺點であつて、一番當業者の奮起を煩はさねばならぬ所である。勿論吾人は印度人が我日本品を取扱ふのに對し、何等異議を唱へるものではない、否寧ろ大に之を歓迎するものである。然し吾人は同時に吾商品を賣込み、其販路を擴張する爲に、最も其必要とするものは、我商品に對する同情と特種の熱心なる努力とである事を忘れてはならぬ。然も此同情と熱心とを外國人に需むる事は不可能なれば、吾人は我商人が自ら出で、其局に當り、以て吾新天地開拓の勞を取らん事を望まねばならぬのである。然し綿布以外の商品は、其取引高孰れも小額なるに依り、之を萬屋式に取扱はざるべからざる事は云ふ迄もない事である。

## 重なる輸出品

輸出品は産業の項に於て述べた通り、主としてウガンダの綿花、ケニヤ及タンガニカの珈琲、及サイザル麻、ウガンダ、ケニヤ及タンガニカの玉蜀黍、落花生、胡麻及皮革、ザンジバルの丁字及コブラ並にケニヤのワツトルパーク及び曹達等の天然物であつて、日本への輸額に年により變動あるも大體に於て綿花は、約一千万圓曹達は二百萬圓位と認められ、外に靱皮用ワツトル樹皮及び東阿弗利加の特産品たる、象牙も日本に向け相當輸出せられて居る、聞く所に依れば玉蜀黍、落花生、胡麻等の如き土人の生産品は、産地と輸出港との間に於ける價格の相違甚だしき由なれば、深く内地に入り込み詮索する時は、野蠻地丈けに、存外種々な巨利を見出すことも多かるべしと察せらる。



## 貿易に關する意見一束

一五

最近外務省より發表せる英領東阿弗利加事情と題する著者の報告書中、外國貿易と題する項に、著者の意見として當局者の注意を仰ぎたる頁あり参考の爲め其要領を左に適録する。

英領東阿の將來は極めて豊富である。約九十萬平方哩の地積の外に擴大な背後地を控へ、一千萬人餘の土人を有し、然かも其過半は今尙裸體の生活を營み、今後外部よりの刺戟と共に、次第に文明の道程に上らんとしつゝ、あるのであつて、貿易の前途は極めて有望である。試みに地圖を開いて之を見るに、神戸と東阿の主要港モムバサとは距離七千哩であつて、倫敦モムバサ間の六千六百哩に比し、地理上不利だと云ひ難い、又從來は彼我の間に直接の航路がなかつた爲め、途中貨物積替の不便ありたるも幸ひ大阪商船會社に於て、一九二六年東阿沿岸の主要港と、神戸との間に直接航路を開始したるに依り、爾來繼替航路の不便が一掃せられ、且つ航海日數が短縮せられたことは、彼我の貿易上大に慶賀すべきことである。

然し幼稚な日阿貿易の前途には、尙幾多の難關が横はつて居る。曰く金融機關の不備、曰く取引相手に對する信用上の不安、曰く帝國領事館の設立せられざる事、曰く市況其他に關する情報機關の備はらざる事、曰く激甚なる賣込競争と、長期信用賣等の如きは一度足を東阿に容るゝ者の大に當惑する重大問題であつて、是等は我東阿貿易進展の必要條件として、是非共近き將來進んで解決せねばならぬものである。

## 金融機關の不備

現在東阿の重要地には The National Bank of India, Ltd. The Standard Bank of South Africa, Ltd. Barclay's Bank, Ltd. の三大銀行があつて東阿の金融を掌握するも、我一流貿易業者にあらざる限り、其便利を享くる事決して容易でない。殊に本邦と東阿との貿易は、從來孟買を経由した關係上、爲替の決済は倫敦若くは孟買に於て行はれ、直航路開始の今日に於ても、荷物と爲替とが尙依然として別個の方向を、辿りつゝ、あるが如き極めて不便な状態にあるのであつて、我貿易の前途の爲め、頗る遺憾に堪へざる次第であ

一五



る。勿論我爲替銀行を東阿に設置する場合には、目下の貿易額が未だ多大ならざる故、當分の内多少の損失は免れざるべきも、吾對外貿易上の大局から見て大に必要なる以上は、横濱正金銀行の如き特殊銀行に對し、暫く犠牲に服する事を求むるのは、決して不當の要求にあらざると共に、貿易の進展は總て之に酬ゆるに充分なることを疑はない、茲に此問題に關し國家的見地より、切に當局者の考慮を仰ぐ次第である。

### 取引相手に對する信用上の不安

未知の地方に貿易關係を促進するに當り、最も苦痛とする所は、取引相手の信用を、精査する事の極めて困難なる事である。況や輸出業者に取ては、事情に不慣なる地に於て、外國人を相手とするものなれば、充分注意するとも不慮の災難にて、意外の損失を招くが如きことが、決して少なくないのである。當業者をして斯る危険に對し、逡巡する所なく勇往邁進せしむる爲には、是非共英國に於て現に行はるる制度に倣ひ、輸出信用保證の制度を設けることが刻下の大急務であると思はれる。

### 帝國領事館設立の必要

東阿地方は南阿ケーブタウン、帝國領事館の管轄に屬するも、斯る遠隔の地に於て然も、我帝國の領土に數倍する地域に對し、其職務を行ふ事の不可能な事は、殊更説明する迄もないことである。政府は宜しく東阿に於ける吾貿易上の重要性に鑑み、適當の地に對し速に領事館を設置すべきである。惟ふに廣き東阿全體に對しては、少くともアジスアババ、モムバサ、ダレサラーム、ロレンソマルケスの四ヶ處位の重要地に領事館を設置する必要があるも、差當り第一の候補地としては中央の重要地たる、英領ケニヤのモムバサ港を選定するを可とすと思はる。

### 商況其他に關する情報機關の不備

情報機關としては領事館を設置するを最も適當と認むるも、其迄の處臨時所轄領事館員を派遣し、調査報告の任に當らしむることが、最も必要である。又別に商工省の練習生を派遣



し、之に生活費の最低額程度の費用を給し、商業上の命令事項に對し、報告せしむると共に、自ら營業に従事する自由を認むることも、亦最も可能性ある方法の一つである。殊に東阿の如き幼稚な地方に對しては、此種の方法は存外有効なるべしと思考せらる。

又陶磁器、硝子器、エナメル器、莫大小、其他雜貨品等の如き、最も有望なる商品に對しては、當業者の團體を組織し、重要地巡視の上取引開始、又は擴張を試むこと極めて必要である。

### 激甚なる賣込競争と長期信用賣

最近東阿市場に於て最も顯著なる現象は、獨逸商人の割込運動であつて、從來此地方の習慣が、三十日乃至六十日の延賣なりしに對し、彼等は九十日乃至百二十日の信用を與へて居る。然かも和蘭人も亦之に倣ひ、動もすれば英吉利人、及白耳義人等も亦之に倣はんとする有様であつて、其結果所謂現金賣の方針を、維持する事が極めて困難と成り、目下の處六十日の延賣は實際上避け難いと云はれて居る。此の風潮に對抗する爲め、輸出信用保證制度と

共に、低利資金融通法等に付研究すべき必要があると考へる。



市 場 雜 聞

金 融

ケニヤ、ウガンダ及タンガニカに於ては、同一の貨幣制度を有し英國磅貨の二十分の一を本位とし、之をシルリングと稱し其百分の一をセントと名けて居る、其貨幣の種類は左の通り

銀 貨、一志 (支拂高制限なし)、五十仙 (支拂制限二〇志)

銅 貨、十仙、五仙、一仙、(支拂制限高一志)

紙 幣、一〇〇〇志、二〇〇志、一〇〇志、二〇志、一〇志、五志、(支拂高制限なし)。

銀行業者は印度ナショナル・バンク、南阿スタンダード・バンク、パークレイス・バンクの三銀行であつて、孰もロンドンに本店を有し、東阿の重なる都市に支店を設けて居り、東阿弗利加の金融は此三銀行により支配せられて居る。

又ザンジバルにては一九〇八年以來印度留比を法貨と定め、左の貨幣を用ひて居る。

印度銀貨留比 (仕拂高制限なし)

同 二分の一留比 (仕舞制限高五留比)

同 四分の一 (同 同)

銅貨六四個を一留比に換算す (仕拂制限高一留比)

紙幣五、一〇、二〇、五〇、一〇〇、五〇〇留比の六種。

他の英領地がシルリングを單位とするに拘はらず、之と異なる貨幣を使用することは不便なるに相違なきも、當領にて經濟上勢力を有する者は印度人なるが爲め、印度人との取引關係上之を改むる能はざるものなりと云ふ。但し金融は印度ナショナル・バンク及南阿スタンダード・バンクの二銀行に依り支配せられて居る。

關 稅 制 度

ケニヤ及ウガンダは一九一七年以來關稅同盟を組織し、タンガニカは之に加盟せざるも同一



の稅率を適用し、一九二七年八月一日以來相互に、内國產貨物の無稅輸入を承認し、更に一九二八年八月一日より此主義を輸入品の再輸出に及ぼし、三國相互間に自由貿易主義を實行して居る。

目下の關稅率は五種に分かれたれ、第一種は個數、容積又は重量に依つて課稅率を定め、第二種は從價三割、第三種は從價一割、第四種は從價二割、第五種は無稅と成つて居る。右の内本邦より最も多く輸入する粗布は、第一種に屬し包装の儘にて一封度四十仙、寶石又は其模造品工藝品等は第二種、玩具類は第三種、加工品綿布は第四種、藥品、治療、衛生用品、見本等は第五種に屬して居る。

又ザンジバルにては之と全然異つたる關稅制度を有し、輸入稅は酒精を一ガロンに付二五留比とする外、他は若干の特定せられた無稅品を除き從價一割五分、輸出稅は丁字に對しては、現品の二割五分、丁字莖は現品一割と定めて居る。

度 量 衡

ケニヤ、ウガンダザンジバルでは英本國の度量衡を用ひ、タンガニイカでは獨逸時代にメートル法を用ひたのを其儘引續き用ひて居る。但し土人は何れの地方に於ても、自己の習慣を守り、彼等特獨のものを用ひて居る。(以上詳細は外務省より公表せる著者の東阿弗利加報告書参照ありたし)。

入 國 の 手 續

此地方に於ける外國人の入國手續は極めて容易であつて何等面倒な事はない、尤も規則としては、ケニヤも、タンガニイカも又ザンジバルも大同小異であつて、何れも相當の所持金を有すること、重罪の刑に處せられた者にあらざること、傳染病患者にあらざること、醜業婦又は其關係者にあらざること、必要とするも、是は世界何れの國に於ても行はれるものであつて何等苛酷と云ふべきではない。尤も移民官に依り好ましからざる者と認められたものは入國を許されざること、成つて居り、移民官の手加減次第で如何様にも取扱はれると云ふ危險がない



ではないが、實際上此規定は極めて寛大に取扱はれて居ると云ふことである。但し右に規定せる相當の所持金とは、ケニヤ及びザンジバルは三十七磅十志、タンガニイカは四十磅と云ふ内規に成つて居る。又ウカンダとケニヤとは共通の移民規則を適要して居り、其何れかに入國を許されたものは、他の國にも自由に入國し得ることに成つて居る。

## モンバサ港より奥地ウガンタへ

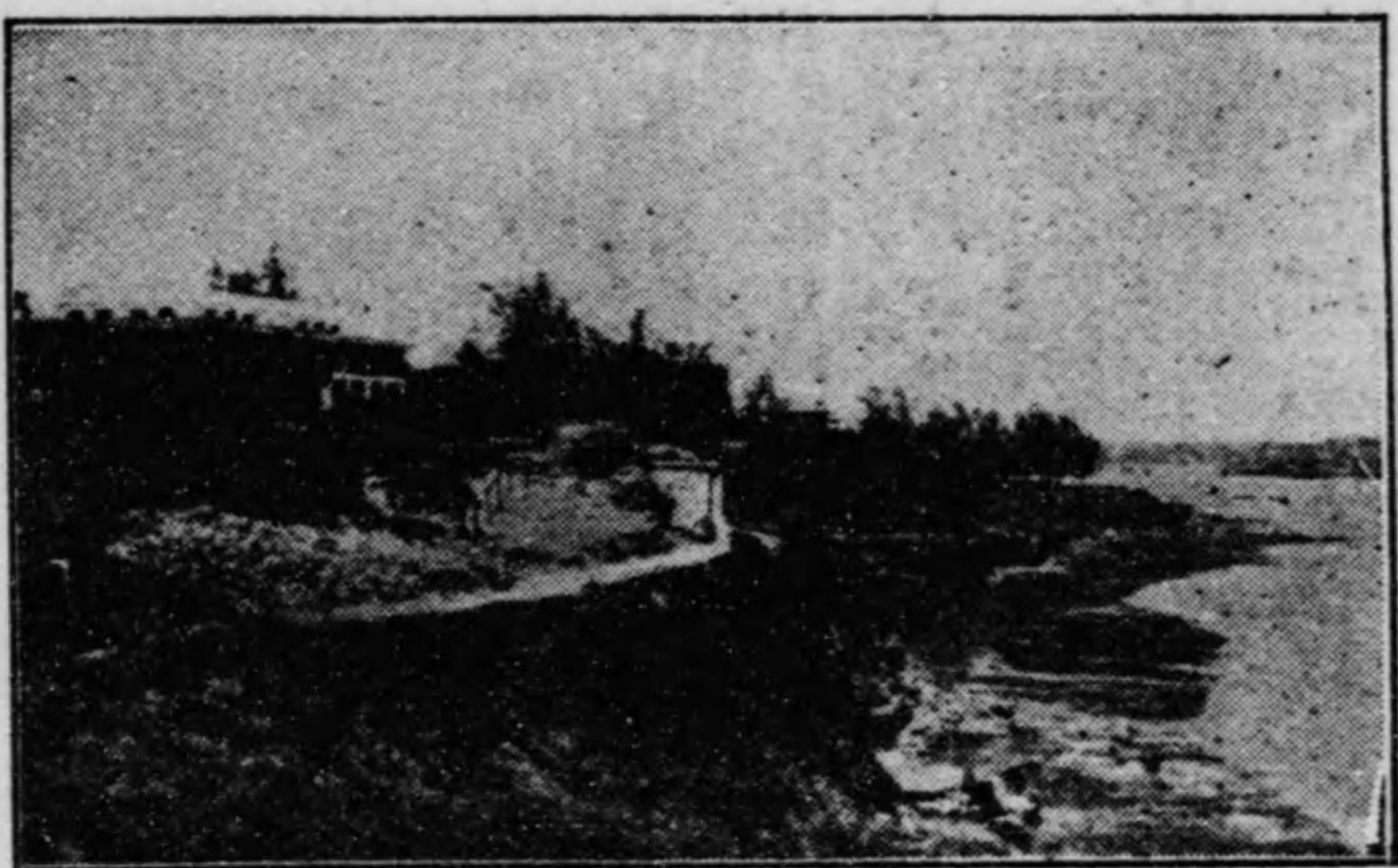
### 東阿の第一關門モンバサ港

モムバサ港はケニヤの主要港であると同時に、ウガンダ鐵道の起點であつて、ウガンダの爲にも其吞吐港と成つて居り、同時に東阿弗利加の門戸として最も重要な地位を占めて居る。又日本に取り此所は東阿弗利加の第一關門であつて、大阪商船會社の東阿弗利加行定期船で行くと、神戸からの航程約七・〇〇四哩、其航海日數約三十三日である。

此港は大陸から一寸離れた、同じ名前の小さな島の東北岸にある、是をモムバサと云ふのは此島が中世紀以來絶えず葡萄牙人と、アラビヤ人との争鬭の場所であつた爲に、戦亂の島と云ふ意味で斯く呼び慣らしたものである。此港の缺點は水底が甚だ淺いが、陸上二哩計り離れた反對側の、キリンジニ港の方は遙に水底深く便利が良い。但しキリンジニと云ふのは土語で「水



の深い處」と云ふ意味である。其處でモムバサ港は沿岸航路船の寄港地と成り、遠洋航路の大



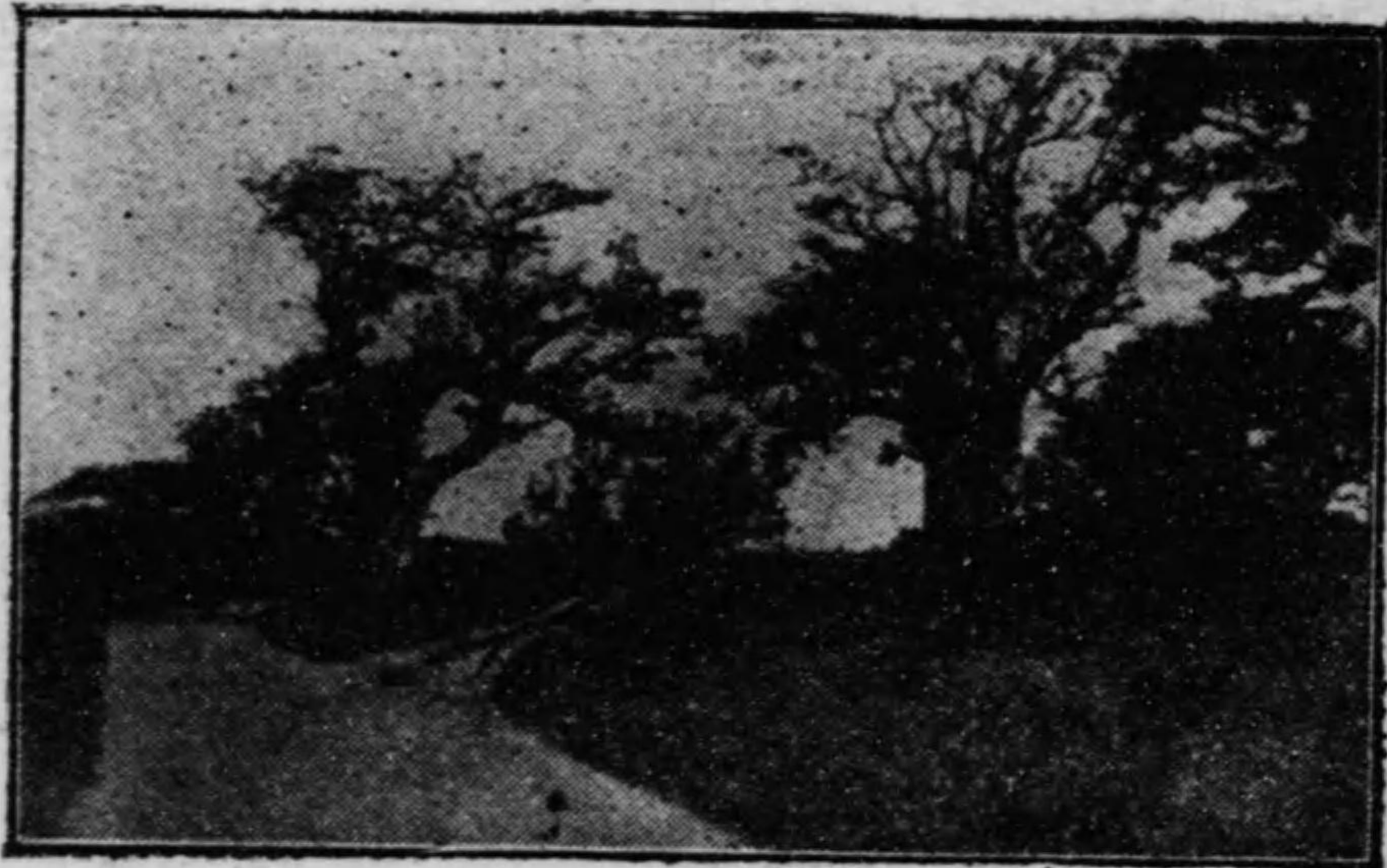
登光の口入港「サバムモ」  
を合官督總に上丘 島「サバムモ」は左 陸大は右  
可てめ極望眺の邊此。む望

船は、皆キリンジニ港に寄港することに成つて居る。併しモムバサの名が昔から、廣く知られて居る關係上世人はキリンジニ港の事を、便宜上矢張りモムバサ港と云ふて居る。

### 小川の如き静なキリンジニ港

吾等が此港に着いたのは此地方の春、十月二十七日の朝であつた。船は大阪商船會社のメキシコ丸、船尾に日章旗を翻しながら、堂々と茲に入港した時の光景は、著者の忘れんとして忘る能はざる愉快な、印象の一つであつた。港口の水路は狭い處が約四分の一哩、其静かさは恰も清い小川の様である。

る。然も左は大陸、右はモムバサ島であつて、大陸側は滴る様な緑の椰子で掩はれ、其間に土人の小屋が三々五々と見へ隠れに並んで居る、眞つ裸な黒ん坊の小供が氣笛の音に馳け出して來る、隊商が駱駝の群を追つて居るなど、總てが阿弗利加氣分に漲つて居る。更に島の側を振り返つて眺めると、岸頭に古るほけた葡萄牙時代の城塞が今も尙昔の雄姿を残し、其椰子の木立が聳へて居る。



景風一の島「サバムモ」  
樹「アバヲバ」の有特加利弗阿東は樹大の傍路  
道歩遊民市は道し多に地底の處る至てしに

彼方には緑と織り雜せた白亜赤屋根のバンガローが點々と並んで居る。



る有様は恰も米國南部の新開地其儘の光景を呈し、港内には幾多の大船巨船が碇泊し孰も荷役に多忘を極めて居る。其内で灰色の優秀船は云ふ迄もなく、新造の獨逸船、黒色の巨船が和蘭船、英國のビーアイ船も二隻か三隻は居たと思はれる、白色の浦酒なのは馬島通ひの佛國エムエム船であつたが、同社の船は碇泊時間が最も短く、入港後二時間にして早や出帆の煙を吐いて居た。此外此處に寄港する船舶には英國のユニオンカツスル、クラン、ハリソン、伊太利船等があり、吾等の一行は今回の旅行に於て佛國船には四回、英國船には三回、日本船には二回乗込みの機会を得たが、歐洲船は孰も客船として、極めて優秀なるに反し、本邦船が未だ割込み早々の際として貨物積を本位とし、船足遅く遙に彼等の下風に立つ感あるは吾等の甚だ物足らずと思ふ所であつた。

### 異人種雜居東阿一の殖民地

モムバサの人口は約五萬人であつて、其内土人が三萬人、印度人が一萬人、アラビヤ人が五千五百人、歐洲人が一千人、其他はゴア人等の雜種であつて、異人種雜居の有様は流石に、東

阿第一の殖民地であると思はせた。當地では商業地も、居住地も、人種により區別せられて居り、歐洲人は此島の新市街である、キリンジニ港とモムバサ港とを接續する、キリンジニ・ロードに店舗を構へ、海岸の小高い處に綺麗な、バンガローを建て、瀟洒な屋敷町を造つて居る。然も彼等は俱樂部を組織し、ゴルフリンクスを設け、テニスコートを造り、運動又は音樂等に趣味的生活を求め、野蠻地に於ても悠々として迫まらざるところは、流石に英國人を先頭にする歐洲人である。然るに印度人、アラビヤ人等の亞細亞人の居る處は、舊モムバサ港附近の舊市街であつて、所謂アラビヤ街其儘の石造であるが、街路が狭く且つ不規則な上に衛生上の事は殆どお構ひ無しと云ふ状態である。更に又



街人土の市「サバムモ」  
家の人土は家葺草てに端一の街「ニジンリキ」  
店商の人國英は館洋西るゆ見に後背



此外町外れの椰子林の中に掘つ立て小屋の部落があるが、夫は無論土人の居住地であつて、其生活状態の原始的な事は云ふ迄もない。

### 設備のステキな野蠻地ホテル

當地の一等旅館はマノア・ホテルとイムベリアル・ホテルの二つであつて、其設備も食事も申分なく、阿弗利加蠻土のホテルとしては、實に豫想外であつたのみならず、吾等一行は彼等一同より非常に好遇せられた爲め不慣な初旅であつたに拘らず、聊かも不自由を感じざりしは、吾等の甚だ満足する所であつた。但し英領東阿弗利加一般の習慣として、一等旅館の宿泊は白人に限る事に成つて居り、有色人は絶対に拒絶せられ、日本人も嘗て同し浮き目に遇はされたとの事であるが、現在は日本人に限り、歐洲人と同様の待遇を與へられて居る。汽車も亦同様であつて、印度人、ゴア人等は一等車に乗ることを許されないのである。停車場の待合所、便所杯も歐洲人専用のもので設けてあるが、日本人には總て歐洲人同様の便宜を與へて居る。當港から世界重要港への距離は左の如くである。

倫敦、(スエス經由)

六、六一六哩

マルセーユ (スエス經由)

四、五七九哩

神戸

七、〇〇四哩

ダレサラーム

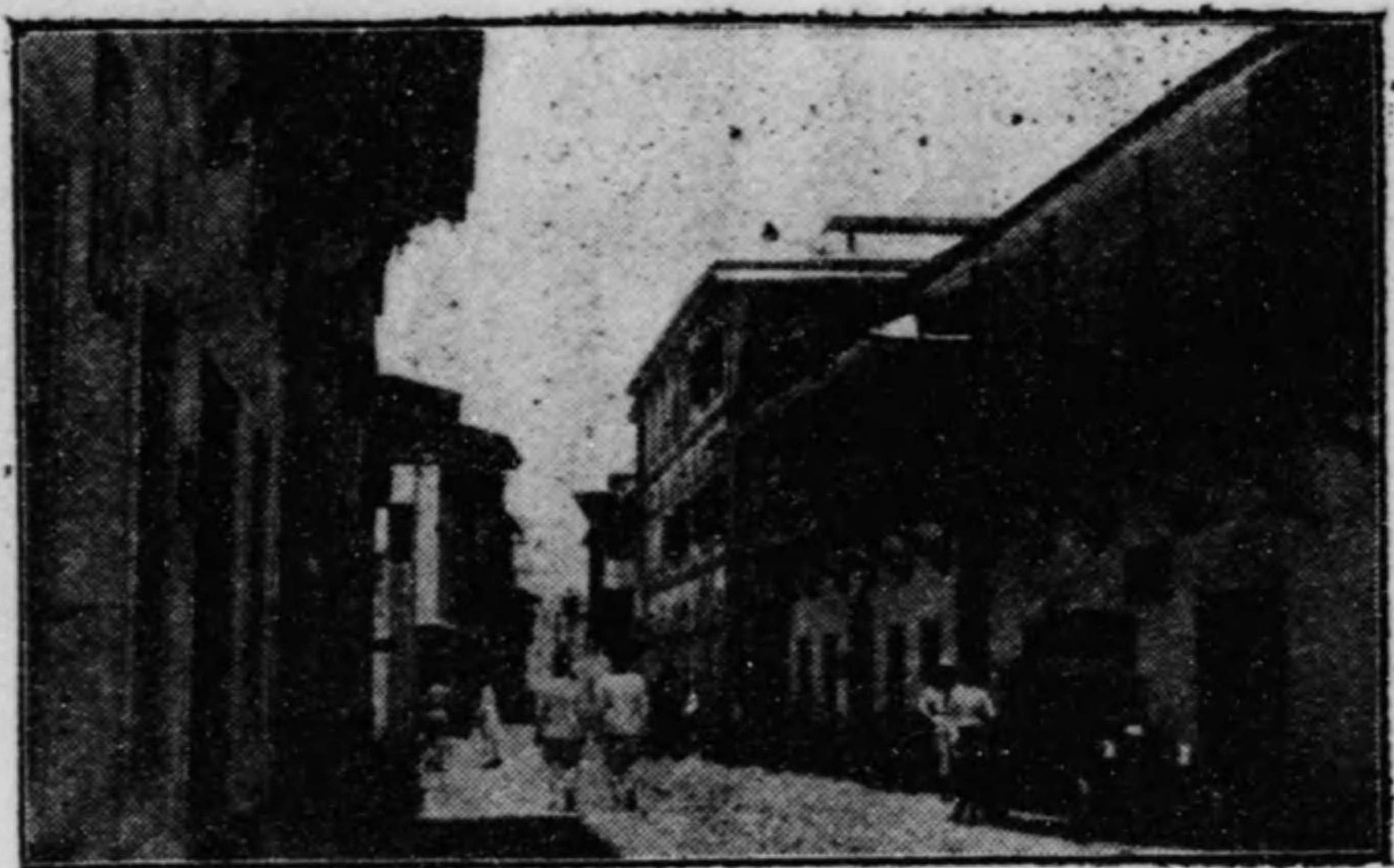
、二〇三哩

ダーバン

一、九八一哩

### 蠻土に奮闘する日本人

當地には大阪の喜多又藏君を社長とする日本綿花株式會社の支店があつて、日本人の店員が六人、他に日本人の雜貨商が二人在留して居り、孰れも炎熱の氣候及險惡な風土と戦ひ、我が商品の賣込み並に土産品買入の爲めに奮闘して居る。吾等は、是等諸君の努力を多とし、其健康及び成功を祈ると共に、吾等滞在中、是等諸君から與へられた無上の好意と助力とに對し



モパンサ港「コスバダマ」の街光景



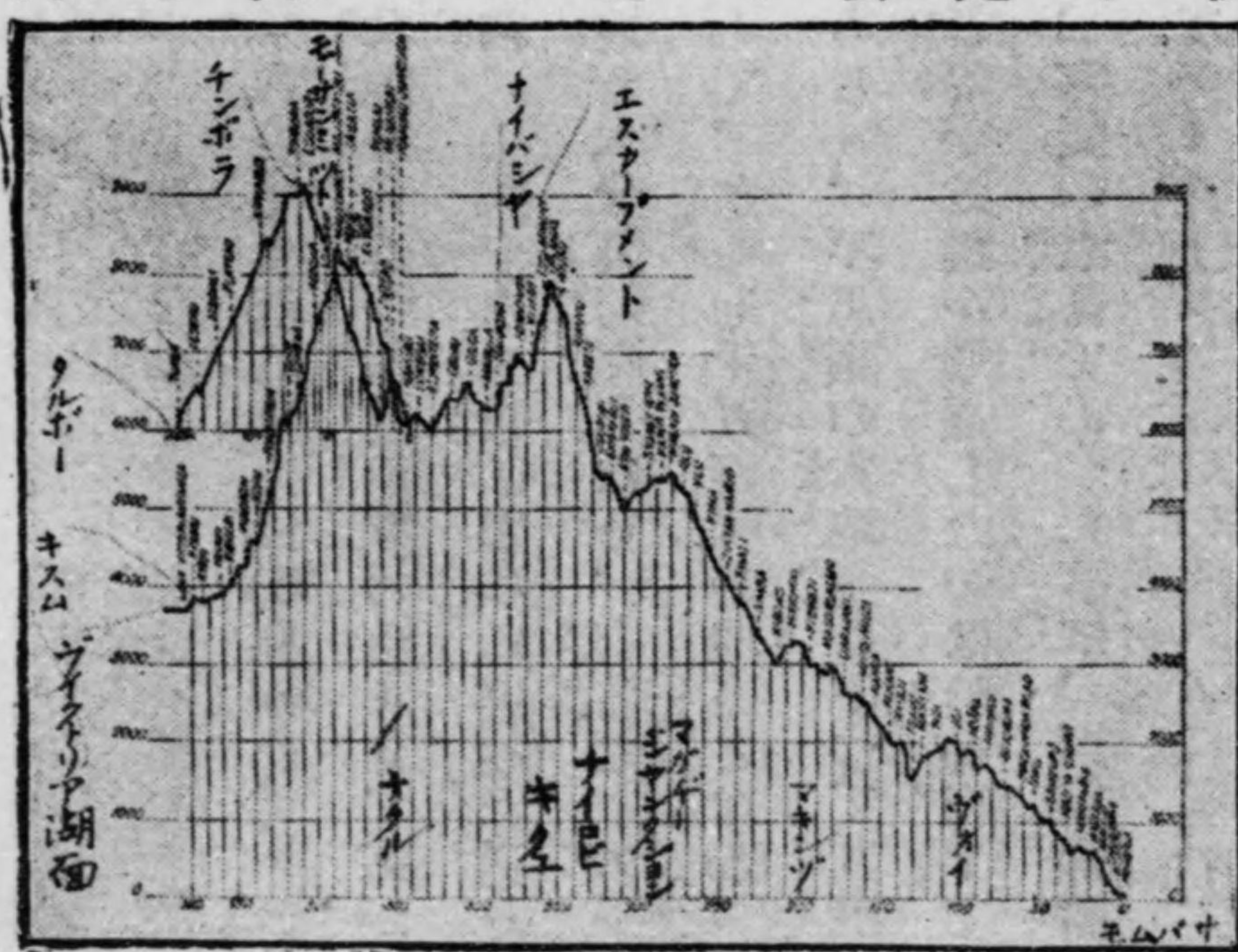
衷心より厚く感謝の意を表するものである。

### 雄大なウガンダ鐵道旅行

モムバサから西方の奥地、グイクトリア湖畔のキムス迄五八七哩の間に、ウガンダ鐵道が敷かれ、モムバサ島と大陸との間は、所謂一葦帯水と云ふ有様であつて、其處には鐵橋が架つて居る。夫を渡ると満目皆椰子の森林であるが、程なく、急勾配の坂道となり、印度洋を指顧の間に眺めつゝ、山又山を上つて行くと、風景の美にして雄大な事は畫も亦及ばざるの感がある。併し夫よりは次第に緩慢な傾斜となり、始は茨の様な灌木の粗林を見るも、後には夫が極めて單調な草原と成るのであつて、何れを見ても甚だ殺風景である。一體東阿弗利加は概して平坦な荒れ野原の様な高原地であつて、土地の起伏が非常に少く、水の流も亦甚だ乏しい、ケニヤがさうでありダンガニカも亦さうである。殊にケニヤは樹木が少くないから特に其感がある。

### 花のない原野と雄大な山脈

吾等一行が此處を通過したのは、十月五日、恰も此國の春正に酣な時であつたが、然し乾燥季の爲か、四方は只枯草を見るのみであつた。或英國人の旅行記に若しケニヤに行くならば十一月が最も善い、汽車の窓から見る限り野原は總て、花で掩はれて居ると云ふ事であつたが、今十一月にケニヤへ来て見れば野には殆ど花がないと云ふ記事があつた。吾等は如何なる國に往つても、花の咲かない野原があるとは思はぬが、ケニヤの殺風景なのを見て此英國人と稍其感を同じうするものである。勿論多少の例外はあるが、タンガニカの東北部には海拔一萬九千七百呎のキリマンジャロ山と、一萬四千九百呎のメル山とがあり、ケニヤの奥地には一萬七



五約りよ「サバムモ」・圖低高の道鐵「ダンガウ」  
キは一り成と線二てれか分りよ「ルクナ」の哩〇  
モ」は線「ムスキ」ふ向に「ダンガウ」は他に「ムス  
ガウ」り成と呎〇〇三八高地て於に「トツミンサ・一  
るなと呎餘〇〇〇九て於に「ラボムゲ」は線「ダン



千四十呎のケニヤ山、一萬四千百四十呎のエルゴン山、一萬三千呎のセツマ山杯が、互に雄大な景色を競ふて居る。又モムバサの周圍、ナイロビ以西の奥地、殊にナクルを中心とした方面は世界に稀な景色に富み。更に又ヴィクトリア湖畔のウガンダ、海上から見た、サンジバル杯は實に世界の絶景とも云ひ得べく、阿弗利加に於ても眞に別天地の感がある。此鐵道を二百十二哩乗ると海拔三千呎のマキンヅに着く、其處から百十八哩西方のナイロビ迄が、有名な野獸群の居る處であつて、各種の動物が車窓の前に去來する光景は別項に述べた通り、實に天下の偉觀である。ナイロビを出て西に進むと土地が大分急勾配となり、有名なウアシン・ギシユキク等の沃野を過ぎ、大凡二十五哩程にして、忽ち七千五百呎の地高となる。更に數哩の西に於てグレート、リフトヴァレーとして知らるゝ、不思議の大地溝を下つて其對岸に出て、又々高原を上るとモー・サンミットに達し。吾等が此邊を通過したのは恰も夜半であつたが、一行の者孰れも數枚の毛布を用ひたに拘らず、寒氣の激甚であつた事は、到底熱帶地の旅行とは思はれず、此より急轉直下百二十五哩にしてヴィクトリア湖畔のキスムに着いた。此旅行中最も不快に感じた事は、全線行く所として赤土色の塵埃の多い事であつて、衣服は勿論目も鼻も

殆ど夫れで埋れる様であつた。

### 荒野から生れた首都ナイロビ

ナイロビはケニヤの首府である。東方モムバサ迄三百三十哩、西方ヴィクトリア湖畔のキスム迄、二百五十七哩、地高が海拔五千五百呎であるから。丁度赤道直下であるが、暑氣は決して酷烈でない。夜間は寧ろ寒冷で外出するには外套が必要である。

人口は約三萬人、其内土人が約一萬六千人、歐洲人が三千五百人、印度人が八千人、其餘がゴア人、其他の雜種である。

當地には公園あり、劇場あり、新聞社、俱樂部、ホテル、病院、電氣、水道、其他各種の公共機關が悉く備はつて居り、東阿弗利加に於ける歐洲文明の中心地と成つて居る。勿論完全とは云へないが、僅か二十餘年の間に荒野から生れ出た都會としては、其進歩の迅速になる驚かざるを得ないのである。

ナイロビが外國人に對し特に興味を惹くことは、夫が猛獸狩の策源地である事で、獸獵に就



ては別に述べてあるから、此處には其記事を省略するも、當地で第一に吾々の目に着く事は旅館の宿泊人に遊獵趣味の人の多い事である。勿論其多くは猛獸狩の爲に態々英國邊りから來て居る閑人達であつて、孰も其爲に萬金を惜まない連中である。

當地には英國人の經營する相當の旅館が幾つもある。其内で最も善く知られて居るのはニュースタンレーで、建物は木造の三階建であつて、總ての設備は可なり善く整頓して居り、食事も亦申分がない。殊に吾等一行は此處でも善く待遇され、何等の不自由がなかつた事は一同の最も満足する所であつた。

### ヴィクトリア湖畔のキスム港

キスムはケニヤ奥地の小市街で、ウガンダ鐵道の終驛地であり、ヴィクトリア湖上汽船の發着地であると云ふ點に於いて重要地である。尤も街には二十軒計の印度人の雜貨店があり、外觀は甚だ振はないが、土人相手に可なりの商業を營んで居る。歐洲人の人口は約百五十人であつて、孰も稍小高い丘上にバンガローを構へ、可成の屋敷町を作つて居るが、其多くは地方廳

鐵道、郵便局等の吏員であつて、商業上には差したる勢力が無いやうである。地高は海拔三千七百六十呎、大陸奥地の盆地である爲か、日中の暑氣は極めて猛烈であるのみならず、年中マラリヤ其他の悪疫が絶へず流行して居り、ケニヤに於ては最も不健康地と見做されて居る。其他のケニヤの都市には海岸にマリンジ、内地にナクル、エルドレット等の諸市があり、孰も其地方の中央市場として貨物集散の中心となつて居る。

### ヴィクトリア湖横斷の記

吾等が汽車でケニヤの高原を下り、ヴィクトリア湖畔のキムスに着くと其處にクレメントヒルと云ふ、ウガンダ行の汽船が待つて居て直に夫と接続した。此汽船は湖上通ひの渡船とは云へ、一千噸級の大型な客船であつて、其設備の贅澤なことは、流石に英國人の經營であると思はれた。然も吾等一行は嘗て前米國大統領ルーズヴェルト、英國ヨーク親王殿下及其一行が、使用せられたと云ふ歴史附の特等室を與へられ、是等貴顯の餘香に接すると共に、文明國に於てさへ、容易に得難い各種の便宜を受くることを得た。斯くして正午一聲の汽笛と共に船は靜



に棧橋を離れ、頓て港外に出ると船は忽ち波を蹴立て、刻一刻と其速力を増す、顧みればケニヤの連山は次第に煙の様に消へて行く、湖水とは云へ吾四國と九州とを併せたよりも更に大きいのである。凡そ一時間もすると船はもう大洋の真中にあるかの如く、見渡す限り只大空と大海とのみであつた。併し時折は白帆を揚げた、土人の漁船が見へたが、其れに使用してゐる帆は日本から輸入せられた、吾紡績會社製造の粗布であつた。土人の着物も亦我が日本から輸入したものである。黑人の世界とて馬鹿にされぬのは云ふ迄も無い。此日天氣晴朗水面は恰も鏡の様であつたが、流石に赤道直下だけに晝間の日光は烈しく其猛威をあらはして居る。併し湖面を吹く微風は靜に來つて吾等の面を打ち、神氣の爽快であつた事は實に譬へ様が無い。

### 斯んな呑氣な旅行では相濟まぬ

『此の邊の阿弗利加旅行は恰も遊山の様である』と甲が云ふ、『今頃は日本の親戚故舊等は吾等が獅子や鰐魚に食はれはせぬか、又は黒魚けの様に成つて暑さに惱んで居よう杯と、大に同情して居るであらうが、斯ふ呑氣にして居ては聊か相濟まぬ』杯と乙が答へる、一同快心の笑み

を湛へ同感の意を表した杯は眞に罪なしと云ふべきである。聽て目映しい日輪が段々と西に傾き、グリーンンの海が紺色に染まつて、サンセットの金波が消えると、何時の間にか瑠璃の様な満月が大空に輝き初めた。時は恰も陰曆八月十五日所謂中秋明月の夜である。幸なる哉阿弗利加奥地の湖上で、一年一度の明月を賞せんとは、日本ならば觀月の催しもあらう、團子や芒の供へもしよう、茲には團子芒なしと雖も月は矢張り同じ月である。否赤道直下の湖上の月には格別の風情がある。吾等一杯のコニヤツクに微薰を帯びながら船端に寄れば、明月が大空に輝き涼風が靜に湖面を吹いて居る。澄み渡る大空の明月が遠波近波に金光を漂はして居る様は、品川の月夜と雖も、今宵の風景には到底比較にならないであらう。一行中の年若な兩君はホームシツクと迄は行かぬが大分感慨無量と見へ、悲哀らしい月の情歌を口荒んで居た、然し誰やらが傍から、阿弗利加の眞ん中で、斯ふ云ふ月を觀るのは又とあるまい。心細い事を云はぬが善い」と擲擲したので先生忽ち氣を入れ替へ、「否々さう云ふ意味では決して無い」杯と取り消したのは時に取つての愛嬌と云ふべきか、明くれば十月十日の午前六時、船は早やウガンダの首府エンテベの岸頭に着いて居た。



## ウイクトリア湖畔に榮へるウガンダ國

一六

ウガンダの土人が非常に伶俐であつて、英國人は此土人を阿弗利加日本人と、云ふて居る事は前に述べた通りなるが、此のウガンダは印度洋の海岸から、約七百哩の奥地に在つて海は遠いが、其實東にはヴィクトリア湖、西にはエドワード湖、アルバート湖杯の大湖水があるのみならず、國の中央には蜘蛛が手を張つた様なキラガ湖があつて、恰も水國の觀がある。殊に此國は降雨が潤澤で、樹木が良く繁茂し、且つ丘陵が多いので、景色が非常に美しい。

今しも船の着いたエンテベはウガンダの首府であつて、英國の統監府の在る處、茲に上陸して第一に感じた事は、其景色の如何にも豊かで、然も雅趣に富んで居ることである。ケニヤが多く殺風景な草原であるのに反し、ウガンダは見渡す限り、野も山も皆滴る様な濃い緑で包まれて居り、一見目が醒める様である。殊に統監府はヴィクトリア湖上の岸頭に立ち、其直下に波靜かなる湖水を眺め、後はユーカリプタスの粗林を背ひ、其間から白雲、赤屋根のバンガローが隠見する杯は眞に畫も亦及び難い風情がある。更に感心したのは道路の立派な事で、行く

處に補裝した自動車路が通じて居る事である。併し此處は單に政治の中心地と云ふのみであつて旅館もなく、商店もなく、商取引は皆無なるも、町全體が恰も公園の様で何となく落付がある。此處から湖水に沿ふて、美しい自動車道を北に向つて二十四哩を走らすと、カムバラと云ふウガンダ第一の繁華な都會に着く。

## タツター一人の日本人農業者

カムバラはウガンダ王國の首府であり、且つヴィクトリア湖の彼岸に於て商業の最も盛んな處である。勿論小さな田舎町であるが、面白いことは全市が五つの丘陵から成り立ち、夫が小さな平地を中央に置き、其周圍に鼎の足の如く立ち並んで居る。其第一丘をカムバラ、第二丘をメンゴ、第三丘をナクシラ、第四丘をナミレムベ、第五丘をルバカと云ひ、カムバラには英國地方廳、英國人及印度人の商社、メンゴにはブガンダ王の宮城、ナクシラには兵營、ナミレムベには英吉利教會、ルバカには佛蘭西のカソリック教會があつて、互に雄を争ふが如き觀を呈して居る。但し市全體としては特別の名稱がなく、或は第一丘の名を取つてカムバラと

一七



云ひ、或ば第二丘の名に依りメンゴと呼びたるも、近年はカムバラが英國政廳の所在地なるに依り、専ら其名を用ゆる様に成つて居る。此町から最も近いヴィクトリア湖上の寄港地はポートベルと云ひ、其距離六哩、其間に鐵道が敷かれて居る、吾等が當地に來て最も驚いたのは東京府人山邊義昭と云ふ人が、多年當地で農業に従事して居る事である。同氏は嘗て東京駒澤の農科大學に學び、後米國に渡り農業を研究した人の由、吾等一行は同氏より色々と教を受け又便宜を與へられたことを特筆し、深く謝意を表す。

### ジンジャは第二の商業地

ジンジャはヴィクトリア湖の北岸にある汽船の寄港地であつて、此國に於ける第二の商業地である。カムバラから北の方に五十哩を距り、自動車にて約二時間を要することに成つて居る。當地は從來キラガ湖畔のナマサガリ迄、六十一哩間ブソガ鐵道に依り、連接せられて居た所、一九二八年一月ウガンダ鐵道の支線ウアシン、ギシュー線が之と接続した爲、爾來同鐵道に依りモムバサ港と直通すること、成り、當國通商上其面目を一新したのである。

### ブガンダ王國と土人の議會

阿弗利加には幾多の土人王國があり、其或者は英國政府から今尙從來の榮譽、及び格式を認められ、大局の利害に關係の無い其地方限りの、土人の事件を支配することを許されて居る。其内で最も著名なのはウガンダの四王國の一つである、ブガンダ王國であつて、其王を土語でカバカと云ふ。現在の所カムバラはブカンダ王國の首府として知らるゝも、其實王宮のある處はメンゴと云ふ丘陵の頂であつて、カムバラとは一つの小さな谷を隔て、居る。併し王宮とは云ふもの、外壁は約一丈位の葦矢來であつて、外から見れば恰も米國西部の新開地に於て屢々散見するサーカス小屋か又は日本でならば田舎の相撲小屋かと云ふ位のものであるが、内に入れば見渡す限り芝生の廣庭があつて其中央には青地にライオンと楯とを染め出したブガンダの國旗が高く風に翻つて居る。庭内の様子は甚だ殺風景であるが、嘗てムワンガ、ムテサ杯の諸王が大に猛威を振つたのは、正に此の櫺内からであり、今は英國の保護國とは云へ、阿



弗利加第一の進歩國と云はれる、土人王國の策源地が此處であると思へば、自ら襟を正すの感が



英國保領ダンガウに於けるダンガブ國王  
下殿ヲニチ・ジウド

と會議室の廣さは約百坪位と思はれたが、阿弗利加土人の建物としては實に堂々たるもので、

無いではない。其處で政廳、宮殿杯は何處か  
と見廻はしたが建物らしい建物はなく、併し  
克く見ると芝生の先の方に一軒の亞鉛張りの  
小屋と、其奥に又一軒の葦矢來に圍まれた茅  
葺家が目に付くのみである。説明に依ると、  
亞鉛張りの小屋がルキコと云ふ土人議會の議  
事堂で、後のカバカの宮殿であると云ふこ  
とであつた。そこで取り敢へず受付を尋ね總  
理大臣に來意を告げると、東洋の珍客だと云  
ふので大變な歡迎である。聽て彼我的挨拶が  
濟むと、先づ議事堂に案内せられたが、見る

正面の壁には黒、白、赤の三色の幕を張り、其中央に英國皇帝及皇后、左右に先代、及先々  
代のブガンダ國王の寫眞  
を掲げ、其上方に大きく

God Save The king

の文字を現はし、下方に  
國王の王座を設けて居る  
其前方に一段下つて議長  
席其下段の左吉に各大臣  
の席を置き、其前面一帯  
に議員七八十名の席を設  
けて居る。只だ感心すべ  
き事は、議場の非常に靜  
れも八疊又は十疊位かと思はれる小室であつて、夫々數名の吏員が何やら事務を執つて居た。



阿弗利加奧地ダンガウモノダホーイ

肅なこと、議事の甚だ眞面目  
なことであつて此點は確に日比  
谷選良諸君の見學に供したい位  
である。

### 農家の如き宮殿

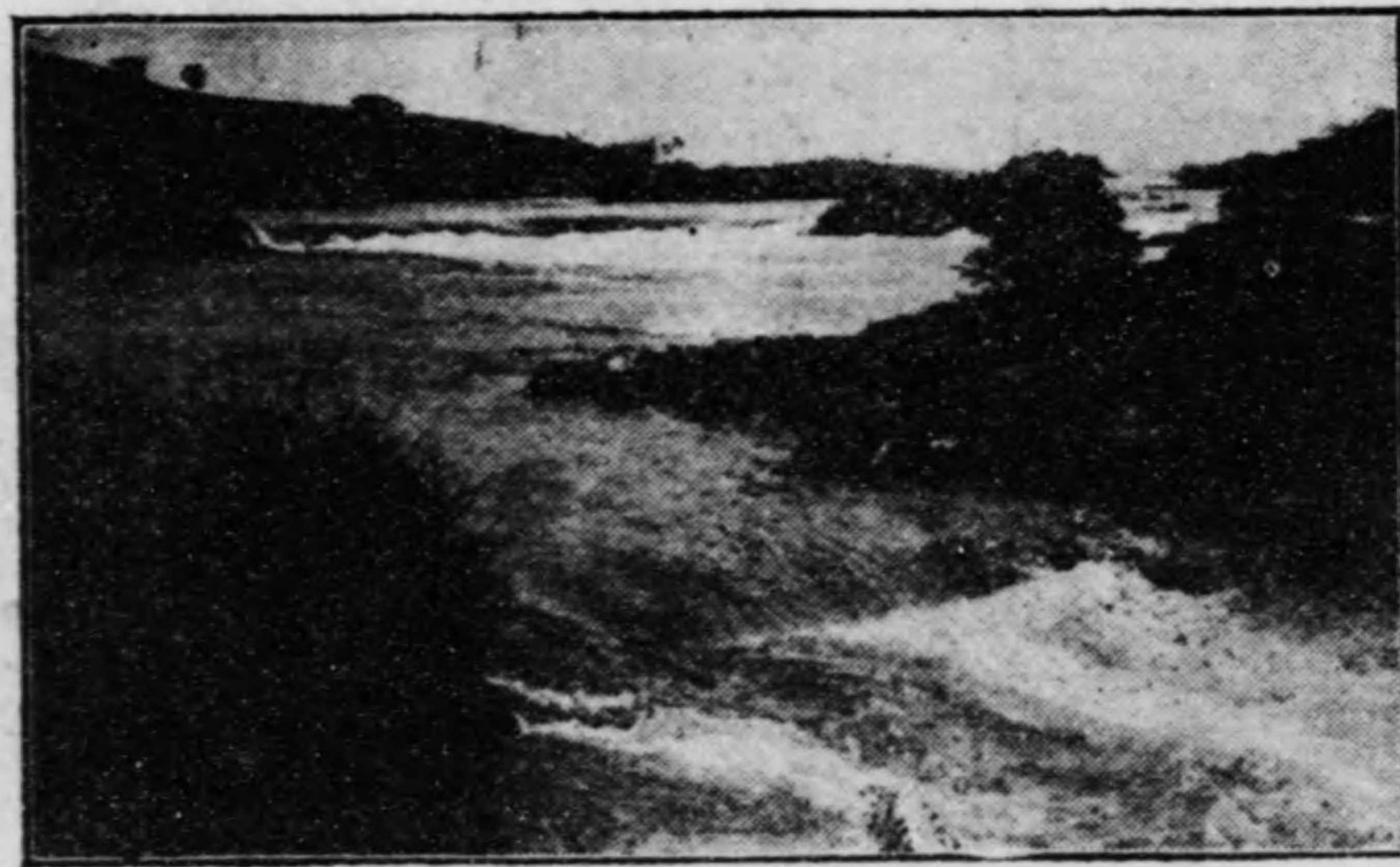
斯くして吾等は圖らずも、阿  
弗利加の奧地に於て、極めて有  
益な視察をなし夫より案内者の  
導く儘に背後の二室、並に附屬  
の小さな建物を一巡したが、孰



案内者の説明によると、初めの室が内務省、次が大蔵省、最後のが裁判所であつて、規模は無論小さいが、兎も角斯うして一通りの政治機關を備へて居るのである。是は云ふ迄もなく野蠻人に對する、英國政治の巧妙な所であつて、土人の大臣は吾等を右の各省に案内し、得意満面で、色々と其説明して呉れた。聽て其處を出ると少し離れた處に高い葦の矢來がある。夫より内が即ち宮廷であつて、其處に稍大形な一軒の茅葺家がある。是が即ちカバカの宮殿である。其外觀は恰も吾國に於ける普通の農家位であつて、土人の家屋としては、實に破天荒な大建物であつた。生憎此日カバカ殿下不在の爲め。遺憾ながら閱見の光榮に浴することを得ざりしも、殿下は王統三十二代の後裔であつて、御名をドウヂ、チュワと云ひ、皮膚の色は黒いことに於ては紛れなき阿弗利加人なるも、身長六尺有餘、極めて堂々たる風采の偉丈夫なるのみならず、嘗て英國に留學し、泰西の事情にも通ずる文明式の紳士として、内外人からは非常に人望を博して居る。尤も家屋の外觀は前述の如くなるも、其應接室は極めて、立派な西洋風に出來て居り、其一隅にはピアノ杯も飾られて居る。斯くして吾等一同は柵内の各所を一巡し、其處を解去したのは約二時間の後、稍薄暮に近い頃であつた。

### ナイル河の水源地

ヴィクトリア湖畔のジンジャの町から、約五哩、自動車で行けば十分位の處にリツボン、フォールスと云ふ瀑がある。是れこそヴィクトリア湖中のナポレオン灣から、同湖水の奔出する銚子の口であつて、瀑布のものは差して大きなものではないが、波靜かなるヴィクトリア湖も此瀑を落つれば埃及文化の母と云はれるナイル河となり、末は漫々たる地中海の水となるのである。吾等は道の極まる處で、自動車を棄て、カムバラから同行された山邊氏の案内で、近寄り難い草叢を押し分け、或は其附近の岩頭の上り、或は瀧口に近づき、絶景中の人と成つた。見渡



景光のスルーオフンボツリ  
しに所るす出奔の水湖アイトクイヅれ是に正  
地源水の河ルイナて



せばナボレオン灣を擁する兩の岬は、滴る様な緑の森で掩はれ、其間を突いて落下する奔流は、轟然飛瀑と成つて岸を打ち岩を噛み、白煙を上げ物凄まじい景色を呈して居る。是れ即ち波高き地中海に勇進する、ナイル河の門出であつて、見る者皆神氣昂然、其偉大さを感じずには居られない。顧みれば眺望絶佳の瀑壁の一角に「一八六二年七月二十八日スピーク茲に此ナイル河の水源地を發見す」との字を刻んだ銅板を据へ付けて居る。其當時此邊は全く世界から閉ざされた、暗黒の蠻土であつたので、ナイル河は世界文明の母、其文明の母は暗黒の幕を通じ、此處から流れて出たのである。其里程大凡四千哩、此邊も今にカイローから汽車が來る様に成るであらう。

### 悲惨極まる基督教史

ウガンダに就て最も見逃し難い事は、眞に血の沸く如き基督教奮闘の歴史であつて、熱烈な信昂、堅忍不拔の努力は、實に惰夫をして立たしむるに足るものがある。時は一八七五年、スタンリーが第二回目探險の際、ウガンダの地に來て見ると、其處には多少の回々教信者があるのみ殆ど宗教と云ひ得る程の宗教がない。然も土人は極めて伶俐なる事を認めたので、彼は此の土人を救ふ方法としては即ち神の道を宣傳するの外なしと考がへ、直に本國に向て檄を飛ばし、來れ、誰か信仰深き實際的布教者は來れ、然らば阿弗利加土人の救主と成らん、世界に於て異教の國は多しと雖ども布教地としてはウガンダに勝るものなし、諸君の機會茲にあり、諸君は此機會を逸すべきでない、ヴィクトリア湖畔の人民は諸君の來るを待ちつゝあると云ふ極めて激越な口調で英國の宗教界を刺戟した。其處で此の書翰が倫敦のデイリー・テレグラフ紙上に顯はれると、流石に英國宗教界の感動は非常なものであつて、數日の内に二萬五千磅の



傳道寄附金が集り、又海軍大尉ジョージ・スミツス、技師アレキサンダー・マツケー、牧師補シ  
ー・チー・ウイルソン、建築技師チー・ラーネイル、醫師ジョン・スミツス、土木技師ジー・ゼー・  
クラーク、工藝家ダブルユー・エム・ロバートソン、建築請負業ゼームス・ロバートソン等八名  
の布教志望者が現はれた。依て牧師補ウイルソンを隊長としウガンダ行決死隊を組織し、一同  
ザンジバルを経て南方のタンガニカに入り、暗黒地の旅行に上りたるが、途中孰も猛烈な悪疫  
の流行中心地であつた爲め、先づ第一の犠牲者としてゼームス・ロバートソン斃れ、續いてマ  
ツケー、クラーク、ダブルユー・ロバートソンの三名も亦病氣に罹り、已むを得ず本國に歸還す  
ること、なつた爲め、残員四名で前進を續け、一八七七年五月に至り、漸くヴィクトリア湖  
の南岸にあるカゲイと云ふ一寒村に到着した。目的地は即ち其對岸であつて、其處迄は最早一  
と飛と云ふ處である。彼等四人の喜は之を察するに難からぬ。

然るに不幸は何處迄も付き纏ふものと見へ、其處で又々醫師のスミツスを失つた。困難は素  
より彼等の豫期した所であるが、斯る慘事のあらうとは、神ならぬ身の知る由もなく、遂に三  
人協議の末、技師ラーネイル氏は暫時物資と共に其處に止り、牧師補ウイルソン及び大尉スミ

ツスの兩氏のみ目的地に赴くこと、なり、兩人は其處より土人のカヌーに乗つて、渺々たる湖  
水を横切り苦辛の末、漸くウガンダ四王國の一なるブガンダ王國に到着した。是れ即ち同年六  
月三十日であつて、之を當國に於ける基督教傳道の紀元となすべく、兩人の満足は之を察する  
に難からざるも、茲に最も悲惨を極めたのは、スミツスとオーネイルとが土人の爲めに殺害せ  
られた事であつた。

## 傳道根據地始めて成る

ウイルソンとスミツスの兩人は、ブガンダ到着後萬難を排して王室に近付き、其了解を受け  
傳道の根據地を作り、其他應急的設備を終ると共に、ウイルソンは其處に止り、スミツスはラ  
ーネイルを迎へるべく再び湖水を横切り、カゲイに赴きたるに、此の兩人は其の儘土人の爲  
めに殺害せられ物資は悉く掠奪せられたので。ウイルソンは只一人天外の孤客と成り、一時  
は途方に暮れたが、流石の彼は猛然として立ち家屋の築造、物資の集蒐、布教、土人の愛撫、  
其の他一切の責任を双肩に擔ひ、死力を盡して奮闘した。然も千苦萬苦は皆神の爲めなり、道



の爲めなりとなし、其信仰の熱烈なることは眞に吾人の敬服に堪へざる所であつた。然るに一八七八年十一月に至り、牧師アレキサンダー、マツケーが本國より到着し、ウイルソンは間もなく事故の爲め本國に引上げたが、此マツケーこそウガンダに在ること十有二年、波瀾重疊、同國宗教史上の立役者として、最も勇悍に奮闘した闘士であつて、一八九〇年病の爲めに斃るゝ迄土人と起臥を共にし、彼等に神の福音を傳へると共に、建築技藝其他日常の生活に必要なる、萬般の智識を授け、ウガンダの宗教並に文化史上に於て最も異彩を放つた第一功勞者であつた。今日土人の間に用ひらるゝ聖書の如きは、多く同氏の反譯に依り出來たものだと言はれて居る。

### ミツ巴の宗教戦

是より先ウイルソン一行の悲報が本國に傳へらるゝや、宗教界は之が爲め非常に衝動を受け、熱烈な多数の信仰家は踵を繼いで其跡を逐ひたるも、多くは悪疫の爲め途中に斃れ、偶々目的地に到着したる者も、事故の爲、或は疾病の爲、短きは數ヶ月、長きも一兩年にて本國に歸

還せざるを得ざること、成つたが、マツケーのみは獨り止つて、其奮闘を續けて居た。然るに同氏がウガンダに到着したのと殆ど同時に佛國からも舊教の教父等が多数に入込み、アラビヤ人に依つて率ひられる、從來の回々教と三巴に成つて競争し、孰も可なりの好成绩を挙げつゝ、ありたるに、一八八四年國王のムテサガ死し、其子のムワンガが王位を繼ぐに至り、同王は白人に對する猜疑心と、回々教側の隱密な運動とに依り、基督教の撲滅を企て、其信者三十二名を慘殺し、且つ其教會を焼き棄てた。然るに此時恰もゼームス、ハンチントンが新に阿弗利加熱帯地のビシヨツブに任せられ、一八八五年十月二十一日モムバサよりケニヤの通路を經、ヴィクトリア湖畔のブツガに到着したので、之を知つたムワンガ王は密に同地の酋長に命じて之を捕へ、其儘之を殺害した。

### 殺戮の血汁は教化の種子

此報が一度英國に傳へらるゝや、宗教界は勿論一般市民は驚愕措く所を知らず、タイムスの如きは極めて悲痛な論説を掲げ、殺戮の血汁は教化の種子なりと云ふ古語を引用し、斯る慘事



も其實神の試練なりと説き、益土人教化の必要なことを論述した、此に於て英國の宗教熱は旋風の如き勢を以て煽り立てられ、其結果倫敦より、二組の布教團が又々ウガンダを指して出發することとなり、ビシヨツプ、バーカーの率ゆる一隊は、モムバサ經由北路より、又牧師ブラツクバーンの率ゆる一隊は、ザンジバル經由南路より、互に道を分つて進みたるに、バーカー及びブラツクバーン先づ斃れ、其他多數の勇士も亦途中病魔に侵されて立つ能はず、二隊何れも悲惨を極めたるが、其報が英國に傳はるに及び或者は黑人傳道放棄説さへ唱へたが熱烈な宗教家等は之が爲め少しも辟易せず、却て一難毎に其勇氣を増し初一念を貫徹すべく、益々其決心を固くした。然るに其後國王の態度も漸次緩和し、布教者の努力と相待ち、稍一陽來福の曙光を見るに至りたるが、恰も一八九〇年伯林に於て英、獨協約締結せられ、ウガンダは英國の勢力範圍に屬すること、成り、英國政府は直に英帝國東阿商會と稱する特許會社をして、其經營に當らしむることとした。

是より先佛國はウガンダに於て英國と覇を争はんとし、英國が新教の力に依りて、其勢力を振はんとするに對し、佛國は舊教を助けて、英國を排斥せんとし、其形勢甚だ容易ならず。英

國政府は一八九二年ルガード大尉をウガンダに派遣し、會社の兵力を使用して土人を威壓且つ煽動し、口實を設けて佛國宣教師を逐ひ、英國の保護權を確立した。斯くして新教は英國政府を、英國政府は新教を助け、政教相並んで、其の目的を貫徹することに努力したるが、今日土人の信者は既に十萬を超へ、一般教育の如きも、多くは宗教家の手に依つて行はれて居り、基督教が阿弗利加土人の文化の向上に資する所、極めて廣大なることは何人も否む能はざる所である。



### 昔の奴隷賣買地と美しいザンジバル

日本からケニヤのモムバサへ三十三日、其モムバサから南方へ百五十五哩、僅に半日の航海でザンジバルに着く。此處は昔の奴隷賣買の中心市場であつて、其面影は今も尙雜然たる古風な、アラビヤ町に残つて居る。海岸にはマングローヴの林が生い茂つて、其後に椰子の森が亭々と其雄姿を顯はし、恰かも繪の具で染め出した様な、濃い緑が煌ら煌らする白い砂濱と對照し、如何にも熱帯地らしい氣分を漂はして居る。然も白壁赤瓦のバンガローや、椰子の葉で葺いた、土人の小屋杯が、ボツリ／＼と其間から見へかくれて居る様が、靜かな蒼い水面に其影を寫して居る。その光景は實に畫よりも美しく何共形容の言葉がないのである。斯ふ云ふ景色を繰り返へしながら、船は岸に沿ひ恰も其島蔭を縫ふ様に進んで行く、懸て緑の盡きた岬の一角を廻ると、其處はザンジバルの港で、港内には赤い帽子を被つたスワヒリ種族の土人が右往左往と頻りに舟を漕いで居る。大船巨船が幾艘となく碇を下ろし、何れも荷役に多忙を極め



宮王と港「ルバジンザ」

森の子郷て隔く遠見を旗國の色赤と宮王に面前  
りな便に泊碇の船巨船大く深水く廣内港る見を

て居り、其或者は煙を吐いて出帆の用意を整へ、港の前面には英國統監の官舎、税關、政廳等が堂々と建ち並び、其隣に黄色なペンキ塗りのサルタンの宮殿があり、昔ながらの赤い國旗を翻して居る。

此港はザンジバル島西海岸の要港で、同時にザンジバル王國の首府である。ザンジバル王國と云ふのはザンジバル島、ペムバ島並に其附近の小嶼島から成り立つて居り、是等の諸島は名義上ザンジバル王の領土であつて、其君主はサルタンではあるが、其實英國が保護の名に於て其實權を握つて居り、英國の領土と異なる所がない。併し是でも昔はアラビヤ人がザンジバルで笛吹けば阿弗利加奥地の黒奴が躍

ると云つた時代もあつた。遠い昔の歴史は暫く之を措き、中世以後サラセンの勃興と共に、亞



刺比亞人が東阿一帯を風靡し、ザンジバルを本據として、茲にザンジバル王國を樹立し、印度洋西岸の覇權を握つた壯觀は、古今を通じ世界の何國にも其追従を許さない。但し昔のザンジバルの繁榮は、主として奴隷賣買の中央市場として、對岸の大



宮離の王國

聖白りよ蔭の子椰るた叢鬱げめ望を之りよ岸海  
すば及亦も畫美の光風し見穩な旗國の色赤壁の

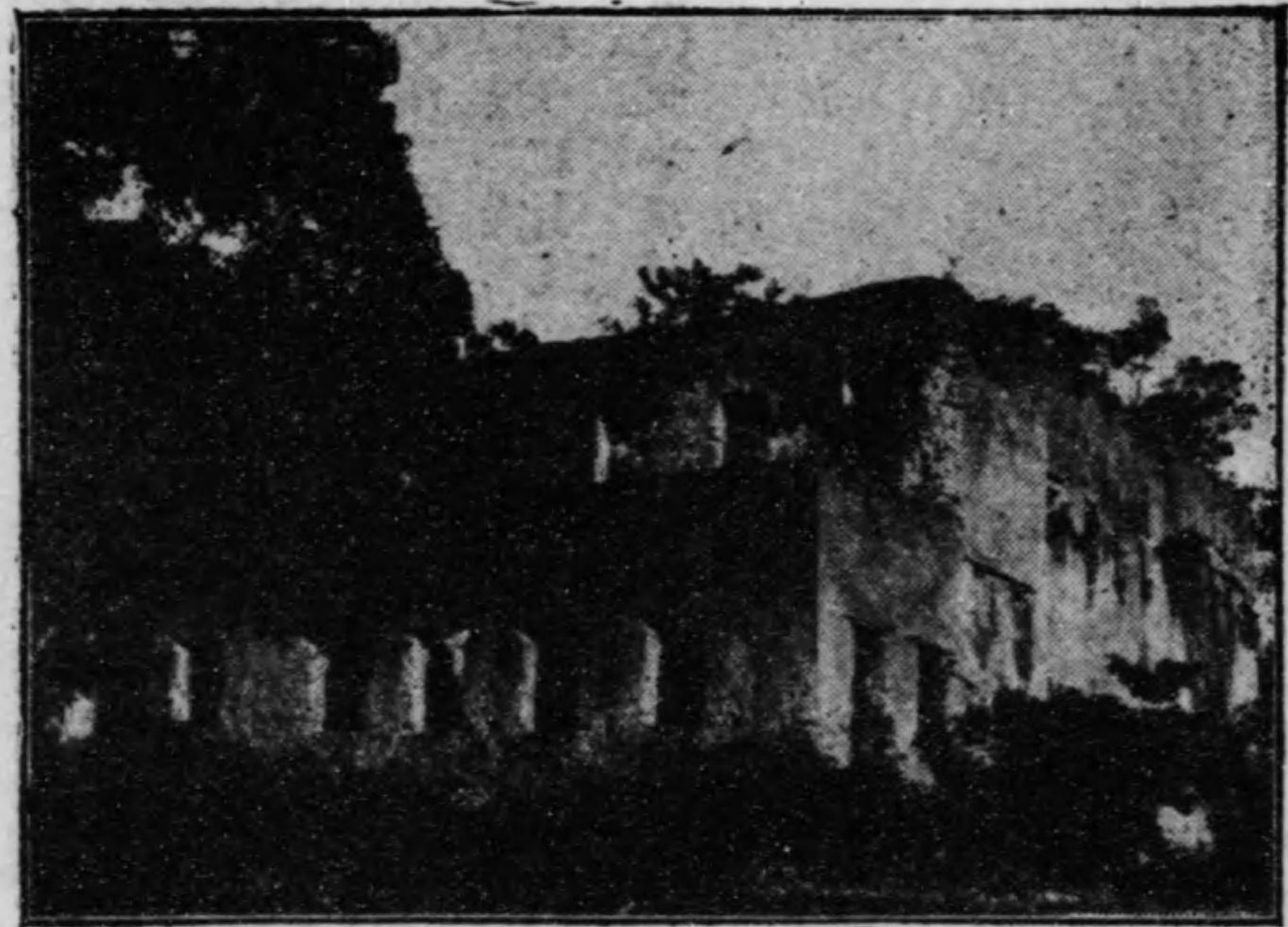
陸で狩り集めた黑人は一旦珠子繫にして此處に連れ來り、夫より東歐羅巴並に西亞細亞

ジバル名所の一つとなつて居る。併しアラビヤ王朝の榮華も今は南柯一朝の夢と成り、恰も半

死の如き其サルタンの宮殿から、物慾しさうに赤い國旗が揚つて居る杯は確に滑稽ではあるが、夫も同王朝全盛時代の名残と思へば、見るもの聞くもの皆感慨の種である。

各人種て混雜極まる市街

ザンジバルの町は嘗て東阿を風靡した亞刺比亞人の作品であつただけに、家は總て石、煉瓦の二階建又は三階建であつて其規模は中々雄大に出來て居り、入口にはサラセン式の繪模様を浮彫にした、鐵の頑丈な扉が這入り又家の周圍には高い石塀を廻らし、用心第一と云ふ堅固さであるが、時代を経て色が褪せ、壁が落ち、又は諸所が破れた儘に成つて居り、廢頽の空氣は争はれれい。殊に極端な東洋式である事は、街路が非常に狹隘且つ不規則なことであつて、



景光一ふ偲を代時ヤピフア



大通りの如きも、辛うじて自動車を通り得る位にて其他は人力車でさへ容易に通れない始末である。其處を土人其他色々な人種の者が、思ひ思ひに自國の服裝をしてウジャ〜と通つて居る。或者は路傍に佇たすんだり、寢轉んだりして、其間を駱駝、驢馬、山羊、人力車杯が行き違ひに通つて居るのだから、其混雜は實に想像以上である。併し阿弗利加探險時代のザンジバルは更に夫よりも、甚だしかつたと見え、スタンリーの第二回探險、即ち一八七五年の阿弗利加探險記に依れば、其當時のザンジバルは一八七一年の夫に比し、道路が非常に改善され、殆ど昔の面影を残さないと云ふ事を述べて居る。以て昔のザンジバルが、如何なるものであつたかを知るに足るのである。

### 土産物販賣店と商業中繼地

ザンジバルの町で殊に旅行者の目を惹くものは、土産物販賣店が軒を並らべて居る事である。品物は主として印度人の手工品、例へば眞鍮、金、銀、象牙、黒檀、椰子樹等の細工品、並に日本より輸入の雜貨即ち絹布、象牙細工、模造寶玉、其他の工藝品であつて、是等は皆印度



椰子樹の蔭に見る土人の町

人の商人に依り賣捌かれて居る。詰り此地は東阿弗利加に於ける交通の中心地であり、旅客の往來が頻繁なる爲め、是等土産品の賣行が盛んなのである。蓋しザンジバルの特色は東阿貿易の中繼地であることであつて中世以來アラビヤ人が、ドーと云ふ帆船で盛に東阿弗利加の沿岸を乗り廻はしたのは、其地理的關係上常に此ザンジバルを中心としたのである。さればザンジバルは雨來其隨力に依り今日の商業上の地位を維持して居るのである、が然し最近に至り對岸の大陸に於てモムバサ及ダレサラームが發展しつゝ、ある爲め漸次中繼地としての價値を失ひ衰微に傾きつゝ、ある。



新舊事物のコントラスト

一體東阿弗利加の都會地に於て最も面白い  
顯象は、各種各様な人種が雜居すること、  
新舊事物が並び用ひられて居る事である。  
ザンジバルに於ては特に夫が顯著であつて、  
大船巨船がアラビヤのドー艇と並んで港内に  
碇泊して居る雜觀もさうであるが、市街の光  
景が更にそれを證明して居る。髯の長い白衣  
のアラビヤ人、階級の澤山ある印度人、マホ  
メダンの風俗をしたスワヒリ土人、其他土耳  
其人、波斯人、歐洲人が各種各様な風俗をし  
て歩いて居る。或者はスタイリツシユな靴を



街市「ルバジンザ」の式「ヤピラア」  
の臺一に僅も雖と道要主く狭路道もるな大壯は屋家  
側兩てに路道其ち即は圖 すぎ過にるす通を車勤自  
し多店物産土は

穿き、或者は跣足である、自動車かホーンを鳴らしながら、疾走して居るかと思ふと、其後か  
ら土人が驢馬や駱駝を追つて居る。小規模ながら近代的、市場があるのに感心して居ると、其  
直ぐ前方にサムソン時代の幼稚な、マイルミルがあり、牛がくるくると、廻りながら頻りに、  
胡麻の油を搾つて居る。最も繁華な町の真中に寺子屋式の、アラビヤ人學校があり。其隣に活  
動寫真小屋のあるのも、亦面白い對照である。斯く算へ來たればザンジバルの滞在十日間、町  
は狭く小規模ではあるが可なり面白い見聞の種に富み、多くの愉快な印象を得た。

芳香馥郁たる丁字樹、綠滴る椰子の森

此の不思議な光景の内に於て、吾人に一抹の雅趣を與へるものは、此地の名産丁字である、  
蓋し丁字は丁字樹の蕾を、乾燥したものであつて、香水の原料となし、又は其儘香料として使  
用せらるゝものなるが、現今世界に於て使用せらるゝ丁字の、約八割半は此處から供給せられ  
て居るのである。されば吾等が船から一度足を、海岸に踏み入れ、先づ感ずるものは實に馥郁  
たる其芳香であり、更に又閑寂を求めて一步市外に出づる時は、見渡す限り、總てが椰子樹か



又は丁字樹で、其繁茂した緑の林が亭々と立ち並ぶ有様は、見るからに神氣を恍惚たらしむるものがある。然も吾等が島内を巡視した時は、恰も花時の十二月であつた爲、道も畑も總てが馥郁たる薫風に満たされ、四五月頃の米國カリフォルニアのオレンジ畑、我紀州の蜜柑畑も尙且つ及ばないと思はれた。因に此地方の産業は殆ど、丁字と椰子一の栽培に限られて居り、一ケ年の輸出高は丁字八百萬圓、椰子の實三百五十萬圓を下らない。

### ザンジバル王に謁見の記

ザンジバル駐在の英國統監サー、エー、シー、ホツリス氏は年齢六十歳位の老政治家で、一九〇四年頃元本邦駐劄英國大使であつた、サー、チャールス、エリオット氏がケニヤ總督であつた時、其書記官長を努めて居た人で、東アフリカに在るに約三十年、善く土人の言葉を解し其事情に通じ、英國官民の間に於て屈指の東アフリカ通である。其處で著者は一日其教を受くべく同氏を訪問し、種々質問中偶々ザンジバル王の事に及びし時、同氏は、余に向ひ若し同王を訪問し度くば紹介すべき旨を語られたので、早速希望する旨を答へると、同氏は直に電話で王宮に都合を問合せた所、明日午後二時ならばと云ふ返事であつたので、翌日其時刻に統監に伴はれ、團員諸君と共に同王を訪問した。王の宮殿はザンジバル港を前にひかへ、海岸通に在る英國政廳に向つて、左側に並立せる黄色なペンキ塗り木造の二階建である。英國統監府並に同政廳に比較し、甚だ貧弱ではあるが、庭前には昔ながらの赤い國旗を立て、玄關の兩側



には六吋の速射砲が二門並べてられ居る。吾等の自動車が門内に入ると、赤帽を被つた黒人の衛兵が最敬礼を以て迎へ、喇叭手が幾

人か並んで、国歌を吹奏し、廳てアラビヤ服の官人に案内されて、立關内に入つた。

### 恐縮した王様

#### 自身のお迎ひ

屋内の様子は普通の西洋式であつた。一同帽子を掛員に渡し、二階に案内されたが、階段には燃へる様な赤いカーペットを敷き詰めてあつて、統監が先頭に立ち、一同が夫れ



名は王國と云ひ又國王と稱するも政權一度去つて遂に歸らす英國の監視の下に生を食ふのみ

について行くと、階段の頂上に一人のアラビヤ人が出迎へて居るので、何れ式部官位の者であらうと思ひの外、統監は直にヒズ・ハイネツス（殿下）と其人を著者に紹介したので、偕ては是れがサルタンだと承知し、丁寧に握手を交換した。見ると年の頃は凡四十五歳位、身長五尺七八寸、身に長い裳の張つた筒袖の、黒いアラビヤ服を着し、頭に金色の低いマホメダン帽を戴いて居る。一體アラビヤ人は、目鼻其他の構造が優美で中々人品が善い、王様も皮膚の色は淺黒いが、眉目清秀と云ふ方で、如何にも貴族然たる優長な相貌であつた。吾等は統監と共に王様の導く儘、傍の調見室に這入る。室は三間に十間位の長方形で、海を前にし、眺望が頗る良い、床には一面に立派な赤模様のカーペットを敷き詰め、正面に緋緞子張りの肘掛椅子三個を、又兩側には色違の小椅子十數脚を並べ、其附近の程善い處に若干のチーテーブルを置き、總てが中々體裁善く出来て居る。其處で王様は先づ右の三脚中の中央の椅子に腰を下し、其右に統監を、左に著者を誘ひ、吾等より見て右側の椅子に團員、其下に宮中の高官を坐せしめ、吾等一行をザンジバルに於ける、開關以來の珍客として、優遇せられた。王様は吾等が坐に就くと、先づ温顔に笑みを浮べ極めて慇懃に土語、即ちスワヒリ語で吾等を歓迎し、旅行を



勞ふ旨の挨拶を述べられたが、スワヒリ語の達人である統監が夫を英語に通譯し、夫に對し著者も英語で、最も丁寧に此美しいザンジバルに於て、殿下の歓迎を受くることは、吾等の最も愉快とし、且つ光榮とする所である事、ザンジバルと我國との間には、既に若干の貿易關係が成立つて居ること、吾等の任務はザンジバルの、經濟事情を取り調べ、如何にすれば其關係が將來に持續せられ、又夫が大に増進せらるべきかを研究するにあること、並に右の調査に對しては、既にホツリス閣下より、多大な援助を受けて居ること等を言上すると、夫を又統監がスワヒリ語で通譯する。次に王は余に向ひ遠來の勞を慰め、且つザンジバルと日本との通商關係の増進を祈る旨を述べ色々世辭を並べられた。



達官大の人ヤピラアるけ於に前庭宮王

日本第一のスワヒリ語學者

更に王様は著者に向ひ、スワヒリ語を話せるかとお尋故、余は今回の旅行中、土人に吾等の好意を示す爲に、必要な言葉と無事に食事を爲し得る様、土人の給仕人に云はねばならぬ、必要な言葉とを少々存じて居る旨を答へ、ジャンボー(御機嫌は如何です)、リヨ(然り)、アバナ(否)杯其時に知つて居た土語を悉く其處へ浚け出し、其博學な所を見せた處が、王様は大變善ばれ、それ丈け土語が話せるならば、貴君は日本で第一のスワヒリ語學者であらうと云はれた。王様も亦頓智あり愛嬌ありと云ふべきである。斯くて談話中幾種かの西洋酒が出る、珈琲が出る。珈琲は自慢のアラビヤ種である。香氣の優秀なるは云ふ迄もない、夫より統監と三人にて色々談話を交換したが、話題は孰も當らず觸らずと云ふ、至極平凡な事計りであつた。當港へは歐洲戰爭中我軍艦の入港した事もあり、又近頃は大阪商船會社の、定期航路も開けて居る關係上、王様は多少日本の事を了解せられて居るもの、如く、非常に親み深い態度で、吾等を待遇して呉れ。一言一句極めて殷勤であつたのは、強ち御坐成りの挨拶にはあらざる



べく、畢竟孰も皆吾國民に對する、同王の好意に基くものと解せられ、吾等に取り今回の旅行中最も、愉快な印象の一つであつた。

### ダレサラームからキゴマへ

吾等の船が美しいザンジバルを後にし、大凡そ五時間程にして着いたのは、タンガニイカ委任統治地の、ダレサラーム港外であつた。海岸は例に依り見渡す限り、マンダローブと椰子の林で、濃い緑が碧い海に反影して居る有様は、何とも形容し難い風情がある。其間に萬緑中の紅一點とも云ふべき、堂々とした赤煉瓦屋の見ゆるのは英國總督の官舎、又少し離れた處に二つ計り赤いバンガローの、見へ隠れに並んで居るのも、是れ又英國人の建物で、其の景色に大きな變化はないが、熱帯地氣分の充滿して居る處に捨て難い趣がある。併し港の出入は餘程厄介なものらしく、其入口には北と南とにノースリーフ、サウスリーフと云ふ二つの淺瀬があり、夫から内への水路は其幅が非常に狭く且つ灣曲に成つて居り、内港に近い處は實に百二十



況状の頭埠港「ムーラサレダ」

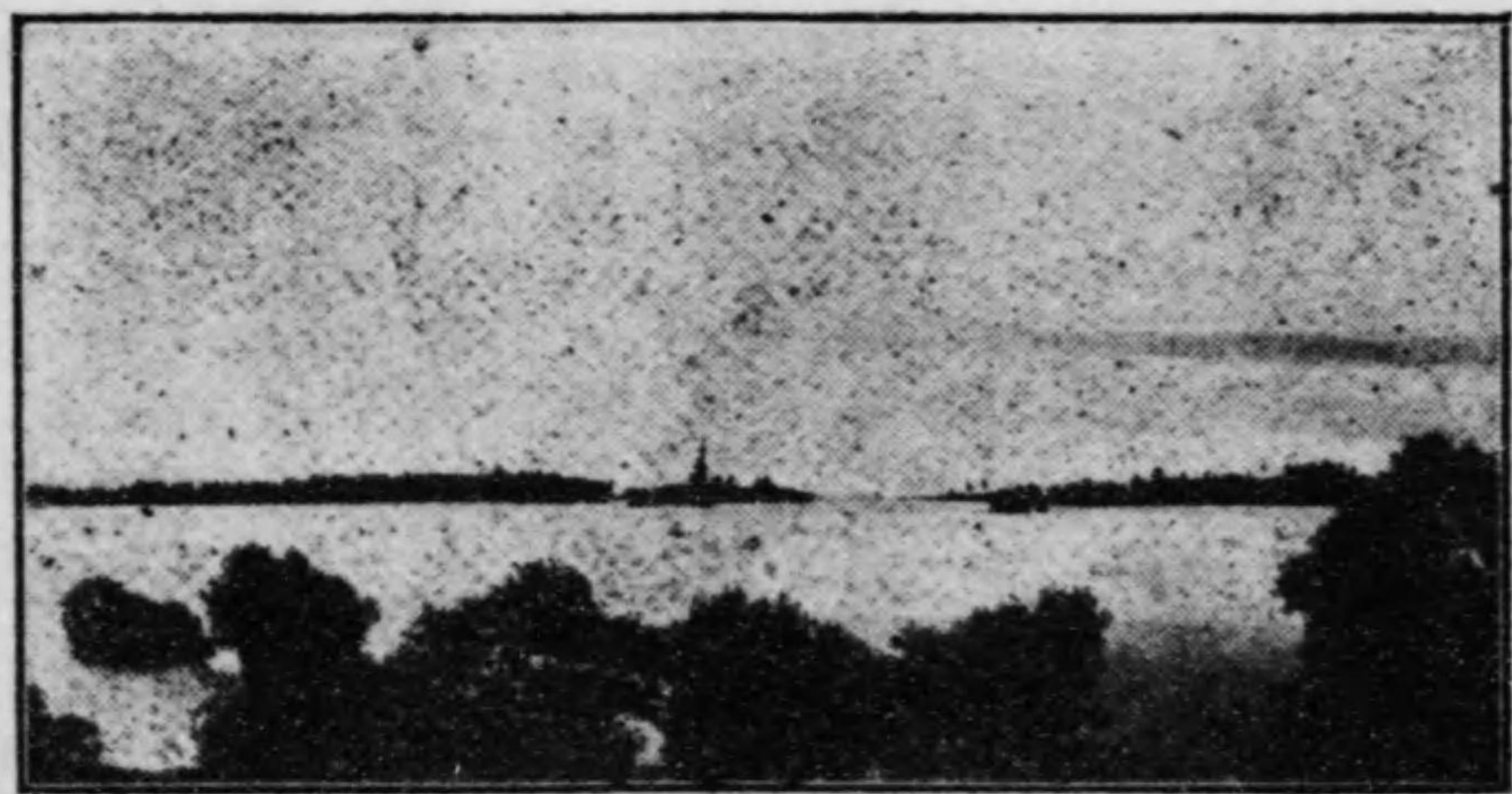
碼と云ふ狭さの上に、水深が僅に二十一呎であるから、餘り便利な港とは云ひ難い。然も船は沖係りであつて陸地との出入は、非常に面倒である。總て水路を通り抜けて内港に這入ると、内方の沿岸一帯に展開するのが即ちダレサラームの町である。蓋しダレサラームとは土語で平和の港と云ふ意味で、港内はさまで廣くはないが如何にも、靜かな平和らしい港である。歐滿大戰の時には此處にも戦争が襲ふて來たのであつて、其名残は今も尙港内の破れた一つの浮船梁と、二隻の小艇とに止められ、孰れも水面に赤腹を現はし、無情の波に洗はれて居る。

### 雄大な逕逸式ダレサラーム

ダレサラームはタンガニカ第一の港であり、又其首府である。殊に重要なのは夫がタンガニカの横斷鐵道たる、東阿中央鐵道の起點であることであつて、同



鐵道に依り其終點驛たる、キゴマを通じて白領コンゴに接続し、中央阿弗利加に對しても亦其吞吐港と成つて居る、蓋し此港は元タンガニカが獨逸領であつた當、獨逸政府の手により經營せられたので、其規模の宏大にして且つ秩序の整然たることは、如何にも獨逸人の計畫らしく、即ち其街路の敷石、アケシヤの並樹、下水、橋梁、公園、マーケットの設備等、總てが科學的に出來て居り、其孰も皆獨逸式である。此町に來ても我も第一に感ずることは、ホテルも、商館も、建物が皆非常な厚壁に出來て居り、氣候の炎熱なのに拘はらず、屋内に居れば意外に冷しい事である。尤も是は必ずしも獨逸式とは云ひ難く、ムムバサに於ても、又ザンジバルに於ても、アラビヤ人の建築は皆さうである、獨逸人が夫を眞似たか、又は自發であるかは不明なるも、兎に角ダレサラームには色々な特徴があり、夫がアングロサクソンの他の英領地



む望を口港りよ上陸港「ムーラサレダ」

ダレサラーム公園遙に港内の一部を見る

の市街と大分異なつた所が見出される。

### 市内の建物は印度人富豪の所有

ダレサラームに就て見逃し難いことは、當市の重なる建物は低大カリムジー、ジーヴアンジーと云ふ印度人の富豪に依りて、所有せられて居ることである。商店もホテルも、其他大抵は彼の貸家であるのみならず、官廳さへも或物は此の印度人から、借り受けて居るのであつて、ダレサラームは恰もジーヴアンジー町の様な觀がある。歐洲大戰の時此處にも英獨間に激しい戦争があつて、獨逸人が敗走した爲め其當時英國側で、全市の建物を獨逸人から没收し、



之を民間に拂下げたもので、其時此地方に居た、金持達は孰も獨逸の最終の勝利を信じ、進で



夫を買ひ取らうとしなかつたのである。然るにジーヴァンジー氏は大に山氣を出し、一手に夫を買ひ占めたのが、大に當つて右の結果に成つたのであるが、彼は非常な富豪であると同時に、中々の事業家であつて、當國の主産品サイザル、珈琲、落花生の廣大なる土地を所有し、當國から輸出する貨物の約七割は彼の出荷であると云はれて居る。一體東阿弗利加に居る、印度人は英國人に



景光の街アラア市ムーラサレダ

りあに央中側左街の此所張出社會式株花棉本日

對し非常に反感を有つて居り、其爲め日本人に對して極めて、好意的な態度を表して居る。當地のジーヴァンジー氏も亦其一人である。

### 市の人口と

#### 日本人

當地の人口は約五萬三千人、其内歐洲人約七百人、印度人二千五百人と見積らる。盛に我綿

布賣込並に、棉花買出しの爲に活動してゐる。

當港から他の重要港への距離は左の通りである。

- ザンジバルへ 四八哩
- モムバサへ 二〇三
- ダーバンへ 一七七八

### 四通發達のタボラ市

タボラは中央鐵道の要驛であつて、東の方ダレサラームから五三〇哩の内地に當りタンガニイカ湖畔の鐵道終驛キゴマ迄二四三哩、北はタボラ、シンヤンガ鐵道支線に依つて、グイクトリア湖畔のムワンザに通じ、夫より湖上汽船に依つてケニヤ及ウガンダの要地に通ずる事が出来る。尤も南の方には未だ鐵道支線が通じて居ないが、陸商路に依り



景光の街アラア市ムーラサレダ

然整序秩 景光の街アシーケア市ムーラサレダ  
ぶ偲を昔の代時逸獨



南方のニヤサ湖地方に達する事が出来る。蓋し此地は昔の豫商路の中心地であつて、アラビヤ

人の奴隷狩は多く此處を根據地として四方に暴威を振つたのである。但し地高は海拔三千六百呎もあつて、極めて温和な氣候を有し、人口は約二萬五千人、内印度人千三百人歐洲人は二百人である。

### 中央の大都市ドドマ



街人士と木並の子椰

ドドマはタボラとダレサラームとの中間に於ける中央鐵道の要驛であるのみならず、タボラに次ぐ大都會であつて商業の盛んな土地であり、産業も可なり發展して居るが他の記事と重復になる恐れあれば、茲に略す事とす。尙ほ外

國人居住者は印度人約四百人、歐洲人約八十人と算へられて居る。

### タンガニカ湖畔のキゴマ

キゴマはダレサラームから七七三哩距つた中央鐵道の終驛地であつて、タンガニカ湖東岸の要港である。而かもキゴマの對岸は即ち白領コンゴのアルバートヴキールであつて、中央阿弗利加奥地との貿易は、實にキゴマ又はアルバートヴキールを以て其仲繼地として居る。是れ日本對ダレサラーム貿易が日本對、コンゴ貿易の爲めにも重要な所以である。日本がコンゴに對して我販路を進張せんとするには、是非共ダレサラームに堅實なる基礎を定め、又は更に奥地のキゴマ又は對岸のアルバートヴキールを中繼地として、阿弗利加奥地の中心を支配する策を、講じなければならぬのである。因にキゴマに於ても、アルバートヴキールに於ても、商業は總て印度人に依つて獨占されて居る。人口はキゴマに於ては、印度人三百人、歐洲人百人と算せられ、湖上汽船は毎週一回發着する。地高は海拔約二、六〇〇呎、暑氣は可成り激甚である。



ムワンザとアコバ



「ーリントス」及「ノートスゲンイグリ」  
碑念紀合會

之は今下樹「ーゴンマ」る滴縁は地の合會雄二  
ートスゲンイグリ」て建を碑念記しら圍を柵に  
りせ刻と一七八一「ーレントス・ン

ヴィクトリア湖畔に於けるムワンザはヴ  
イクトリア湖の南岸に位し、ブコバは其西  
岸にあつて、兩港とも樞要の貿易港である  
が、孰も湖上汽船の發着地として、阿弗利  
加内地の重要地である。

ウジジはニ大偉人の會合地

ウジジはキゴマの南五哩の處に在るタン  
ガニカ湖畔の一寒村であつて、昔はアラビ  
ヤ人の隊商等が往復毎に足を止める宿場の  
如き處であつて、此方面では一番優勢な土

人の部落地である。しウジジが有名になつたのは、英國の探險家として有名な、リヴィング  
ストーン博士が病氣の爲め、此處で養生すべく、一  
時止まつて居つた處が、當時博士の消息がないの  
で本國に於ては大騒ぎとなり、又も探險家として有  
名なスタンリー氏をして、リ博士を救援すべく出發  
せしめ、たので、同氏は一八七一年十一月やつと此  
處にたどりつき、リ博士の無事なるを喜び、暫く同  
棲して居た爲であつて、今では兩偉人が始めて會見  
したと云ふマンゴー樹の下に夫を記念すべく「リヴ  
イグストーン、スタンリー一八七一年」と彫刻した石  
碑を建て、其周圍に柵を圍らし、阿弗利加に於て一  
つの名所となつて居る。



里の「ジツウ」所名  
「ーリントス」及「ノートスゲンイグリ」家險探大二  
す存向今「樹ーゴンマ」跡遺の時當 地の合會



## 有望なタンガ港と其他の諸港

タンガニカにはダレサラームの外に、タンガ港とバンガニ、バガモヨ、キルワ、リンヂの諸港がある。

タンガ港はケニヤに近い北方のタンガ灣内に在つて、其前面にタンガ島と云ふ可成り大きな島が横つて居る。其れが爲め風波の憂なく、然も水路の出入極めて容易なるのみならず、港内の廣潤な事に於て遙にダレサラームに優つて居り、殊に此港の特色とする所は、背後に最も氣候の好良にして、且つ土壤の肥沃なキリマンジャロの高原地を控へ、サイザル麻、珈琲、コブラ、牛皮等の物資の産出が盛んな事である。當領輸出品の約一割八分は當港から出され、將來頗る有望と認められて居る。現に此地方を開發する爲めにタンガ港を起點として、奥地のモシ迄、二百四十哩の間にタンガ鐵道が布設され、同所に於てウガンダ鐵道のヴォイ支線と接続し陸路もモムバサと交通の便が開けて居る。最近當市に於て吾神戸の企業家に依り、燐寸製造業が開始せられたとの事である。

## 世界第一の植物研究所

當市の郊外にアマニ、インスチチユートと云ふ有名な植物の研究所がある。之は獨逸時代の遺物であつて、其規模の雄大な事に於て世界第一と云はれて居るが、戦後手入れが行き届かない爲、大分敗壞したとの事なるが、最近領内の秩序も漸次整頓した爲め、本研究所も亦政府の注意する所と成り、幾分か回復の途に就きつ、ある如くである。

當市の人口は約一萬一千人、其内印度人千五百人、歐洲人二百五十人なるも、商業は他の都市に於けると同様、殆ど印度人に依り獨占せられて居る。

當港より他の重要港への距離は左の通りである。

北の方モムバサへ 七七哩

南の方ザンジバルへ 七三哩

南の方ダレサラームへ 一三六哩

其他の諸港は孰れも地方的の小港なるも、北より南に向ひ順次記載すれば、バンガニはタン



ガの直南に在る一小港で人口二千二百人。バカモヨは人口五千二百人、ザンジバルの對岸に在るドー船の重なる寄港地であつて、ダレサラームの發達する迄はカラバン道路の起點として重要な地位を占めて居た。キルワは南方の一小港で人口二千二百人。リンヂは葡領東阿の北方八十哩の處にあるルクレヂ河口の一小港であつて、同地よりマサヂ迄輕便鐵道が通じて居り、人口四千三百人と稱せられて居る。

## 歐洲人對土人問題

### 白土優越權争ひ

英領東アフリカの人口は一九二二年の國勢調査に依れば、歐洲人一九、一二六人、印度人其他の有色人九九五、六三人、土人二二、三二二、六九〇人、合計二二、四三七、七七九人。其内問題の中心地たるケニヤに於ては、歐洲人九、六五一、印度人其他の有色人三五、九八二人、土人二、六八二、八四八人、合計二、七二八、四八一一人なるが、右の内歐洲人と云ふのは主として英國人である。

然らば英國人は土人に對して如何なる態度を取りつゝあるかと云ふに、之を大別すれば二となる。即ち其一は徹頭徹尾土人の利益の優越なる事を認め、ケニヤの政治の根本的方針はケニヤをして土人のケニヤたらしむるにありとなすもの、其二は之と反對に白人の利益を優越なり



とし、ケニヤは之を白人のケニヤたらしめざるべからず、となすものであつて、從來第一説は英國政府に依つて支持せられ、第二説はケニヤ在住の英國移民に依つて主張せられて居るが、近年は英國政府も次第に是等の強硬な移民の意見に引き摺られ、漸次第一と第二説との中間説に傾きつゝある事は、吾人の大に注目すべき所である。

### 英國の押入強盜

蓋し英國が東アフリカ諸國を占領したのは、十九世紀の半ば以來歐洲列國の間に於て最も盛であつた帝皇主義の結果であつた。云はゞ一種の押入強盜に類するものであつて、少くとも其表面の動機は、當時アフリカの各地に於て、最も悲惨を極めた奴隸狩並に其賣買に對する宗教家の義憤から起り、蒙昧な野蠻人をして斯る不幸を免かれしめ、且つ之をして文明の恩恵に浴せしめ様と云ふのが其表面の理由であつた。是れ土人に對する英國最初の政治が、仁者の態度に出でざるを得ざりし所以であつて、餘り露骨な帝國主義的行動を執る事は、世間に對して大に憚らざるを得ざりし故であつた。況や當時東アフリカの事情は、未だ克く世間に傳へられ

ず、英國人は之を以て氣候酷惡にして到底歐洲人の生活に適せざる不健康地であると考へて居たのであつて、之を英國人の植民地となすが如き事は、彼等の夢にも想像し得ざりし所であつた。従て英國政府としては、アフリカを出來得る限り經濟的に、且つ英國のため價值あるものと爲す事を以て満足すべしとなし、少くとも表面の政策としては土人を指導し、土人に依つてケニヤを開發する事を其方針としたのである。所謂ケニヤをして土人のケニヤたらしむると云ふ事を、其政治看板と定めたのであつた。是れ誠に理の當然なことであつて、之に對しては何人も異議を挟み得ないのである。

### 勝手な理屈を付けた白人優越權主義

然し此政策はケニヤの内地が、氣候も善く又地味も豊かで、歐洲人の生活に適すと云ふ事實が知らるゝに及び大に其可否を問はるる事となり、相當識者の間に於ても可成反對の聲を聞くに至り、一九〇二年より一九〇四年迄ケニヤの總督として令名ありし、サー・チャールズ・エリオット（此人は先年本邦駐劄英國大使たりし事あり）は、一九〇五年出版の東アフリカと題す



る著書に於て、ケニヤの海岸に近き、底地が暑氣の酷烈なるに反し、内地の多くは五千呎の高原であつて、氣候が極めて温和なるのみならず、土地も亦非常に肥沃なりとて、頻りに歐洲人の植民地として適當なる事を述べた後、盛に白人の優越權を主張し、「我英國人にして此白人の優越權を認むる能はず、又ケニヤの高地に白人の植民地を作る事を政府の根本方針と爲す事を賛成する能はざるものは、大なる僞善者である。苟も歐洲人の制度理想及資質が、土人の夫れに對して大に優越なる事を信する者は、アフリカに白人の植民地を作る事が、未開の蠻地に歐洲文明の恩恵を與へ、人間の歴史の上に一の新紀元を開くものであることを拒み得ないのである。但し歐洲人の利益の優越なる事を認むると云ふ事は、決して土人に對し暴力を加へる事を許すと云ふ意味ではない。吾人は宜しく歐洲人をしてケニヤに美田を開かしむべし「土地の利用を知らざる遊牧の土人をして、之を自由にせしむべきでは無いと云ふのである」。云々と論じて居る。是れ白人の眞意を最も正直に、且つ露骨に云ひ現はしたものであつて、爾來英國政府の政策も、亦漸次此方針に傾き、一方に於て土人に對し土地留保の制度を設け、其居住區域を定むると共に、他方に於て高原地中の優良地を、歐洲人の移住の爲に開放し、大に英國人の移

住を奨勵し、從來の土人本位の政治に大なる變化を來したのみならず、右の高地に對しては別に記載せる通り、一九〇八年に至り印度人其他のアジア人の排斥をも斷行し、大に白人優越主義を發揮する事となつたのである。

### 看板と矛盾する英國の政策

流石に責任を重んずる英國政府としては、餘り露骨な行動も出来なかつた爲でもあるか、又其眞意が果して他にあつたであらうかと云ふ事は暫く之を別とするも、同政府は其後に於ても尙ほ屢々政府のアフリカ土人に對する根本的方針は、土人の利益を保護する事にありと云ひ、一九二三年印度人排斥問題解決の際、英國政府は土人と移住者との關係に付き、其根本方針なるものを發表し、其第一項に於て、「ケニヤは元來アフリカの一境土である。従て英國政府はケニヤに對する政府の政策としては、アフリカ土人の利益を保護する事を其根本方針とする。故に若し土人の利益と、移民の利益と抵觸する場合には、移民の利益は土人の利益に依りて支配せらるゝ事となる。ウガンダ、タンガニカに就ても亦同じ」云々との旨を宣明し、相變らず從



來の仁者の態度を維持して居るのであるが、右の方針は常にケニヤ在住の英國人多數の希望と相容れざるのみならず、政府の實際の政策とも一致するものではない。例へば二百六十有餘萬人のケニヤの土人の留保地が、曩に拂下又は貸下に依りて開放せられた少數の歐洲人の移住地に比し、遙かに狹隘なるが如き、又土人の労働を奨励するとの理由の下に、極めて高率の人头税を課するが如き、是等は同地の特殊の事情に鑑み強ち非難すべきではないが、實際と看板との矛盾することは掩ひ難き處である。

### 英人の我利説と仁義主義

民間側に於て「土人のアフリカ主義」を主張するものは、主としてアフリカ在住の宗教家であつて、彼等は土人の出稼は土人の家庭生活、並に彼等の間に最も必要とする從來の部落組織を破壊するものなりとて頻りに土人の自作農業を主張し、之が爲めに移住者が労働者の供給を杜絶せられ、事業の經營に困難するも、土人の利益保護の爲め、己むを得ずとの説を爲し、又「白人のアフリカ主義を」主張するものは、主としてケニヤに於て農業に従事する英國人の移

民であつて、彼等は白人の優越権を振り廻はし、土人の自作農業に反対し、土人の留保地の開放、土人に對する労働の強制等の如き我田引水の説を主張しつ、あるのであるが、彼等の内には南阿よりの移住者も尠からず、夫等の者は南阿一流の反有色人説を高調し、土人の教育を有害無益なりと説き、其最も甚だしいのは政府の仁義主義に愛想をつかし、植民地の獨立をさへ唱へつ、ありて極端な仁義説と、極端な我利説と兩々相並んで盛に議論を闘はしつ、あるも、政府の態度は漸次英國移民の意見に制せられ、灰色的の中間説に傾き、出先の官憲も亦之に引き摺られてゐる如き觀がある。

### 植民地知事會議の決議

果せる哉一九二六年ケニヤの首府ナイロビに於て開かれた植民地知事會議は此問題に論及し、左記要領の決議を通過した。

若し東アフリカを土人本位の政策に委ね、政府は單に土人を指導するのみにて、總ての生産を土人の手に任かさねばならぬものとせば、其結果は即ち生産の杜絶となり、物資を外國



に仰がんとする世界の經濟的要求に背く事となる。是れアフリカを二重政策の下に置き、土人と土人にあらざる者として、兩々相並んで生産せしめねばならぬ所以である。(中略)併し二重政策には免れ難い幾多の困難な問題がある。即ち文明國の政府は一方に於て、其人民の實質上の進歩を計ると同時に、其國土の生産力を極度に開發すべき義務がある。從て政府に取り最も必要とする所は、此二つの目的を調和し之を達成すべき最善の方法を求むる事である。云々。

### 英國の二重政策

是れ即ち「土人本位の政策には満足する事が出来ない。政府は土人の利益を保護する義務を有すると同時に、世界の爲に土地を開發する義務がある。而して土地の開發は、白人の手に依つて之を爲すべく、其爲には或程度迄、土人の利益を犠牲とする必要がある」と云ふのであつて、之を二重政策、即ちデュアル・ポリシーと云ふて居る。茲に於て英國政府も亦深く省る所あり、爾來研究中の處、一九二七年三月倫敦に於て植民地會議開催の際、東アフリカ英領

各地代表者と、植民大臣と協議の結果、東アフリカ聯邦問題に付調査する事となり、其際調査事項中に、前記知事會議の決議せる二重政策に關し、如何にして之を最も進歩的に政治上並に經濟上の問題に適用し得べきやとの一項を加へる事とした。斯くして歐洲人對土人の問題は、最早理屈の域を脱して實際上の問題となり、例へば土人の勞働教育、自作農業留保地、歐洲移民の事業助成の問題に付き、「白人のアフリカ主義」と「土人のアフリカ主義」とを如何にして最も實際的に且つ、合理的に調和すべきやは政治家の大に研究せねばならぬ所となつて居る。但し東アフリカに於ける土人の状態は、極めて幼稚であつて、未だ人種的自覺の域に達して居ない。從て政權に對する要求とか、又は自治の權利を主張するとか云ふ事は、全然ないのであつて、此點に於て東アフリカは南阿と大に事情を異にして居る。

### ブーア・ホワイトの不安

即ち南阿に於ては、歐洲人の人口百五十二萬人に達し、土人の人口四百七十萬人であつて。ケニヤの歐洲人約一萬人に對する土人二百六十萬人なるに比し、歐洲人の割合遙に優勢なるも、



南阿の歐洲人中には、所謂ブーア・ホワイトと稱する貧民、五萬人以上に達するのみならず、土人の智識は東アフリカの土人に比して大に優り、白人に對して反感強く、漸次其優越を否認せんとする傾向あり、同地の白人は大に不安の念を抱き、將來數に於て優勢な土人の爲めに迫害せらるゝ事なきやを憂へて居ると云はれて居る。是れケニヤに於ける南阿よりの歐洲移民が有色人に對し強き反感を有すに所以である。

### 印度人入るべからず

東アフリカに於て最も喧しい問題は、ケニヤ植民地に於て歐洲移民が頻りに印度人を排斥する事である。蓋し同植民地に於ける亞細亞人の人口は、一九二六年の統計に依れば、歐洲人の一二、五三九人に對し印度人二六、七五八人、アラビヤ人一〇、一〇二人、ゴア人其他四、三九一人、合計四一、二五一人であつて、印度人は數に於て最も超越して居り、夫が沿岸地方は勿論遠き偏避の奥地に於ても土人相手の商賣を獨占し、ケニヤ全體に於て牢乎として拔くべからざる深い根底を有するのみならず、彼等の多くは極めて低級であつて、衛生杯の事は少しも辨へず、土人同様な安價な生活をして居る故、歐洲人は經濟上之等と競争することは、到底出來ないのである。是れ歐洲人が印度人を排斥する重なる動機の一つであつて、之に對し印度人の憤慨するのは決して無理とは云ひ難きも、歐洲人の立場にも亦大に同情すべき點が無いではない、尤も茲に云ふ歐洲人と云ふのは主として英國人であつて、多少他の外國人も居るが、其數



は極めて僅少であつたのである。

### 抜くべからざる印度人の勢力

英國が此地方を占領したのは、一八九五年即ち今より約四十年前であつて、其の當時印度人は既に多數内地に入り込み、土人の間に可なり勢力を扶植して居たのであるが。惟ふに其の當時の英國人のかんがへでは之を氣候の酷熱な、歐洲人の生活に適しない健康不良の處とし、斯う云ふ處には極暑に慣れた印度人を利用するのが最も適當である。幸ひ印度人が既に多數同地に入り込んで居るから、之を活動させるには、本國とケニヤとの關係を密接にする爲め、充分便宜を與へなければならぬと云ふので、先づ印度人の移住に對して出来る丈の便宜を與へ、印度國立銀行を招いてケニヤ政府の預金銀行となし、同時に印度人移民の爲めに、預金及送金等の事務に當らしめ、ケニヤと印度との商業上の關係を密接ならしめる事とした。殊に英國政府は、ケニヤ占領後直にモムバサから西方の奥地、ヴィクトリア湖畔迄五八七哩の間に大陸横斷のウガンダ鐵道を建設すること、し、之に必要な多數の熟練及び不熟練の勞働者を印

度から輸入した所が、是等の印度人の多數は同鐵道完成の後、其儘其處に止まつて種々な商業又は職業に従事する事となり、彼等はモムバサ、ナイロビ、キスム等の諸要地は勿論、如何な僻遠の地方迄も深く入込み、上は堂々たる大貿易商より、中は官廳商社の事務員、下は下級の小商人、大工、左官の如き職人、自動車運轉手、家庭使用人等に至る迄、殆ど一切の事業又は職業を獨占し、ケニヤ全體に互つて抜くべからざる勢力を扶植した。

### 名をさけ實を取るずるい英國人の政策

然るにウガンダ鐵道工事の進捗すると共に、ケニヤの事情が段々と知れ、奥地一帯が非常な高原であつて、氣候も善く又地味も豊かで、歐洲人の生活に適して居ると云ふ事が知らるゝに及び、英國政府は從來の政策を一變して大に英國人の移住を奨励した。それが爲英國人の移住は増加する、彼等は段々白人の優越權を主張する。此土地を白人の植民地とせねばならぬ。印度人の様な者が居つて、ケニヤの總てを自由にするのは、怪しからぬと云ふ様な事を主張する者が増加する様に成り、遂に一九〇八年に至り當時の植民大臣、エルジン卿は右の高原地を歐洲



人の獨占地として留保する事となし、歐洲人以外の者には同區域内に於て、土地の拂下又は貸下を許さない事とす。蓋し歐洲人以外の者とは印度人を意味するのであつて政府の方針が、印度人排斥にありたる事は云ふ迄もない事である。尤も其方法は法律上の規定に依らず、單に行政上の手加減に依るのであつて所謂名を避けて實を取るの策を用ひた所は、流石に英國人の遺り方である。米國人の日本人排斥に比し遙に巧妙である。但し現在迄の所では、印度人は農業に對し餘り趣味が無く、從て排斥が農業の方面に限られて居た間は、印度人もさまで夫を苦痛としなかつたのであるが、英國人の印度人排斥は決して農業のみに止まらず、彼等は印度人が餘りに深く、且つ廣く土人の間に喰ひ入り、殆どケニヤの商業を獨占する事を不快としたのである。果せる哉印度人に對する英國人の排斥は手を更へ品を改め、種々な形に於て現れた。尤も印度人にも極めて多くの弱點がある。先づ第一に彼等は甚だ不潔であつて、衛生の何たる事を解しない。隣人としては誠に好ましくからざるものである。第二に彼等の生活の程度は、極めて底く、歐洲人にせよ他の何人にせよ、普通の文明人ならば、之と五分々々の競争を爲す事は不可能である。從て英國人の移民は是等の理由を口實として頻りに印度人排斥の聲を擧げた。

### 印度人と英人との睨め合ひ

先づ彼等は其手始として、一九一三年ケニヤ議會に於て、印度人の居住及び商業の區域を離隔する法律を制定した。尤も此法律は印度人の猛烈な反抗に遇ふた爲め、結局實施せられずして止まつたが、爾來ケニヤに於ける印度人と英國人とは常に反目する様になり、印度人は英國人の動作に對し大に警戒しつゝ、あつた處、一九一八年に至りケニヤに於て、戰時經濟調査委員の報告書中に、印度人の入國禁止を主張する意見が發表せられ、夫が非常に印度人の敏感を刺戟した。然かも當時印度人は恰もケニヤ議會に對する代表權の問題に關し大に其權利を主張しつゝ、ある際なりし故、直に檄を飛ばして本國の輿論を喚起し、之と相呼應して猛烈な反對運動を起し、印度人全體として、無差別平等の待遇を要望し、植民地議會及市會に於ける平等の選舉、及び被選舉權を主張して退かない。茲に於て印度人排斥問題は大に英國朝野の注意を喚起し、或は英國議會の討議となり、或は英國政府及び印度政府の協議となり。或は帝國會議の問題となるに至り、ケニヤに於ける英國人の意見も、亦中々強硬であつて、容易に讓歩の態度を



示さない。中には米國獨立の先例を引用し、極めて矯激な意見を唱へる者すらあつて。形勢が甚だ容易ならざるものとなりたるに依り、英國政府は再三委員を任命し、其解決に努めたるも容易に纏らず。一九二三年に至り同政府は遂に解決法を決定し、左記要領の通り發表した。

### 一、一般的政策

ケニヤは元來、阿弗利加の一境土である。従つて英國政府はケニヤに對する政府の政策として、阿弗利加土人の利益を保護する事を、其根本方針とする。故に若し土人の利益と移民の利益と衝突する場合には、移民の利益は土人の利益に依つて支配せらるゝ事となる。勿論歐洲人、印度人及アラビヤ人の利益は、夫々擁護せられねばならぬ、但し急激の變化は之を避くるを要す。ウガンダ、タンガニカイに對しても亦同じ。

### 二、將來の憲法的進化

從來ケニヤに對し自治制度を主張する者が尠くない、併し帝國政府の見るところにては、現在の事情に於ては目下の制度を以て其目的、即ち土人に對する政府の受託の任を全うし、且他の社會の合法的希望を満足せしむるに最も適當であると信ぜらる。但し將來自治制度を實行

する事に就ては、帝國政府は他の植民地に於て成功せる、英國傳來の主義及び多年の經驗とに依り最善の手段を講ずる事とする。

## 實際上の問題

### 議會議員

印度人に植民地議會に對する、代表權を與ふる事に就ては反對なきも、只問題とする所は代表の方法如何と云ふ事である。但し選舉の方法は(イ)共通選舉制、(ロ)階級別選舉制、の孰れかの方法に依るべきものなるが、帝國政府は(ロ)の方法に依るべきものと決定す。但し此方法は印度人と歐洲人とを區別し各人種を一の選舉區とし、各區に於て別々に議員を選舉する事とするのであつて、選舉及び被選舉資格を同一とし、議員の数を歐洲人十一名、印度人五名、アラビヤ人一名とする。但し官選議員の数は、追つて之を定め、官職及び官選議員の数を過半数とする、現在の制度は之を維持する。因に(ロ)の制度は他日土人に代



表権を與ふる場合に其の基礎となるならん。

### 參事會議員

總督の輔佐役たる參事會議員を同總督に於て任命する。現在の制度は之を維持す。但し目下の處印度人一名指名せられて居る。

### 市會議員

總督に於て市會議員を任命する現在の制度は之を維持する。但し目下の處市會は首府ナイロビにのみ存在す。

### 市内に於ける隔離問題

商業地に於ける歐洲人非歐洲人の隔離は之を實行せず。

居住地に於ける隔離は從來未決の結果、市内の居住地の拂下を中止し居りたる處、右は警

察衛生建築上の嚴重なる取締を勵行する限り、其必要なきに依り、居住地隔離の制度は之を廢止する。但し土人に對しては、別に居住地を設定し、出來得る限り之を隔離する。

### 高原地保留問題

高原地を歐洲人に留保する事を、法律の規定に依つて定むる事は、帝國政府の主義と一致せざるに依り、實行せざるも、右の土地を行政處分に依り亞細亞人に讓與せざる從來の方針は引き続き之を維持す。但し右の土地は亞細亞人に對し拂下のみならず、轉賣する事も之を許さず。

### 移民問題

帝國の他の領土より來る移民に對しては、非常の場合の外は其入國を禁止せず。但し好ましからざる移民は、人種國籍の如何を問はず之を禁止する必要あるも、現在のケニヤ移民法は其目的を達するに充分である。然し他日土人が向上し、移民入國の爲に職業を得るに困難



し、其利益を奪はるゝが如き事ある場合には、右利益保護の爲め相當の措置を採る。

前途危険の東洋人排斥

斯くして英國政府は、一時難關を切り抜け、夫にて表面上は暫く小康を呈するに至り、ケニヤ在住の歐洲人間には、印度人排斥協會なるもの存在し、早晚白人の天下を造らんとし、同時に印度人側に於ても、深く白人の横暴を憤慨し、全印度の同胞に訴へて、反英の氣勢を煽り、英、印間の政治問題として之に對抗せんとして居る。問題の前途甚だ危険の感なきを得ないのであるが、ケニヤに於ける印度人の問題は、同一の事情の下にあるウガンダ及タンガニカに於ても、早晚逢着する事あるべき問題なるのみならず、印度人の排斥は其實印度人を中心とする東洋人の排斥を意味するものであつて、東アフリカに於て既に大なる商業上の利害を有する我日本としては、大に此問題の成行に注意し、平素の警戒を怠つてはならないのである。

阿 弗 利 加 は 新 しい 且 つ 古 い 國

阿弗利加は新しい國であり又非常に古い國である、若し我等が突如として阿弗利加の名を聞く時は、直に未知の野蠻國を想像し、暗黒の幕にとざ、れた不可解の國を思ひ出さずには居られない。此の意味に於て阿弗利加は世界で最も新しい國である。併し此大陸には古い歴史があつて、其記録は甚だ不完全であるが、牽強附會の説も又随分澤山に含まれて居る。併し斷片的には尙幾多の信據すべき史談や、史蹟が残つて居り、之を詮索し且つ研究すると、其處には中々驚くべく、然かも興味の極めて津々たるものが頗る多いのである。例へば吾等が海路歐洲に往來する途中、スエズ又はポートサイドからカイローに出で、彼の廣大無邊な大砂漠の中から屹然と雄大な姿を現はして居る、ピラミッドやスフィンクスを見る時に、阿弗利加大陸の古い



昔を偲ばずに居られない。更に驚くべき事には其ピラミッド時代の埃及よりは、遙に古いと云

英領東アフリ加圖



はれるツータンカーメン王朝の文化の秀でて居た事である。夫は數年前から英國の考古學者に依つて、同じ砂漠の中から發掘せられて居る、同王朝の墓場の遺物に依て窺ひ知られるのであるが、此王朝の繁盛を極めた時代は今から五千年以上の昔時であると云はれて居る

が、埃及の文明は、殆ど其奥が知れない感がある。然も黑人帝國のアビシニアは其昔ツータン

カーメンに金銀を贈つた記録があると云ふのであるから、此國も亦非常な舊國である事が想像し得られるのである。

### 三千年前に於けるアフリカの文化

然らば南の方はどうかと云ふと、此處にも古い時代の文化の跡は確に残つて居る。例へば今より約三千年前地中海の沿岸で非常な豪華を極め、盛名を四隣に轟いた猶太王ソロモンの宮殿を飾つた金銀は何處から來たかと云ふと、夫は今日南ローデシアとして知られた南阿の山奥から送られたと云はれて居る。近頃トーマスツクの旅行案内書杯に南ローデシアの名所としてヴィクトリア大瀑布と共に盛に宣傳せられて居るジンバブエの城塞は太古の時代にサバ國として知られて居た亞刺比亞人の遺物であつて、其城廓内には、黄金を精鍊した遺跡さへ残つて居り、三千年の昔ソロモン王が其宮殿を飾つた、金銀は實に此處から得たと云はれて居る。阿弗利加は唯だ古代に相當の文化があつた丈で、對外的交渉は無かつたかと云ふと、無論大に有つたのである。先づ第一ローデシアからソロモン王の宮殿に、金銀を贈つたとすれば、夫



も重要な對外關係の一つであるが、夫よりも更に古いのはフェニシアとの關係である。蓋しフェニシアは古代に於て頗る航海業の盛んな國であつて、其當時阿弗利加沿岸に於て同國人が盛に活動して居た事は、史家の認むる所なるが、考古學者の説に依れば、此アフリカと云ふ地名はフェニシア語で、植民地と云ふ意味のアフリガーと云ふ言葉から轉化したものだと云ふ事である。多分フェニシア人が其全盛の時代に、阿弗利加に植民をして居たので、此大陸の植民地と云ふ積りでアフリガーと言ひ、夫が段々地名として用ひられ、今日の様に變化したものと思はれる。

### 阿弗利加の太古時代に於ける文明

フェニシア人が阿弗利加を相手として、活躍して居た證據には希臘の旅行家並に、歴史家として有名なヘロドタスの説に依ると、フェニシアの或航海家はスエズから東廻りで、阿弗利加大陸を一周し、ジブラルタルを経て三年の後、埃及のナイル河口に歸航したと云はれて居る。以て阿弗利加が太古の時代に於て、其當時の文明國から、かけ離れた暗黒世界でなかつたこと

が知れるのである。其後フェニシア人に次で希臘人、波斯人、羅馬人、杯も其全盛の時代には孰も此方面に於て盛に活躍したのであつて、其内に於ても希臘人の如きは紀元初年の頃ソマリ海岸に沿ひ、現今のダレサラーム迄往つて居り、又紀元八十年頃同國人の書き残した記録に依れば、其旅行隊の一團は二十五日間、内地に入り込み、二つの大きな湖水の邊に出で、白雪の高山を見たと言ふことを認めて居る。尤も或者は右の高山と云ふのは多分ウガンダのルウェンゾリ山であらうと云ひ、又他の者は夫をキリマンジャロ山であらうとも云ひ、孰れが正しいかは判断し難きも、兎に角希臘人が太古の時代に、此方面に於て活躍して居た事は、之を知るに難からないのである。然らば印度人や支那人は何うして居たかと云ふと、今から大凡千年程前に亞刺比亞人の書いた旅行記に依ると、現今の葡領東阿のベイラ港の附近にソファラと云ふ處があつて、其處に印度や支那の物品を商ふて居たと云ふ事であり、又近頃支那の陶器や貨幣等が南ローデシアのジンバブエ、タンガニカ海岸其他東阿の諸方から發見せられたと云ふ事である。尤も之は支那人が持つて往つたのか、又は誰か他の者が持つて往つたのか不明なるが、此事に付、最近大阪外國語校長の中目覺君は、其東阿弗利加旅行談中左の通り述べら



れて居る。

### 十五世紀始め支那人の東阿に於ける活動

支那人の東阿に於ける活動に付、支那の記録に明瞭に残つて居るのは、十五世紀の始、即ち明の永樂時代には支那に大變有力な航海者が現はれ、其内の鄭和と云ふ人は、明史の鄭和列傳と云ふものを見ると雲南の生で、俗に三保大監と稱せられて居る人であるが、此人は卓拔な航海家であつて、明政府の命に依り、南洋並に印度洋方面に遠航を試みた事が、前後七回に及んだと云ふ事が書かれてある。始めて出發したのが永樂三年、丁度西暦一四〇五年に當り、夫から大凡三十年間に七度航海をして居るが、鄭和傳には其航海地名として、阿弗利加の地名を三つ載せてある、夫は孰も伊太利ソマリーランドの地名であり、同人は紅海の方へも往つて居り、アデントメツカへも往つて居る、之が千四百年代の初めの方であり、葡萄牙人のヴァスコ・ダ・ガマが阿弗利加の東海岸を通つて印度へ往つたのは、一四九八年であるから夫より六七十一年早いのである云々。

### 亞刺比亞人の跳梁跋扈

東阿弗利加に於て最も早くから、其沿岸を航海し勢力を振つて居たのはアラビヤ人であつた。彼のフェニシア人が太古の時代に於て、美事に阿弗利加大陸を一周し得たのも、是等アラビヤ人から多大な便宜を受けた爲であると稱せられ、又ソロモンの爲に南ローデシヤ



一四九七年望峯を越え一週東阿弗利加に於て葡萄牙人の活躍の基礎を築きたる同國航海家「マ・ガ・ダ・コス・ア・ヴ」

の金銀を運搬したのも亦彼等であつたと云はれて居る。是れ畢竟當時の亞刺比亞人が非常に勇悍であつた爲である事は勿論であるが、併し亞刺比亞が東阿弗利加に對し、地理的に極めて形



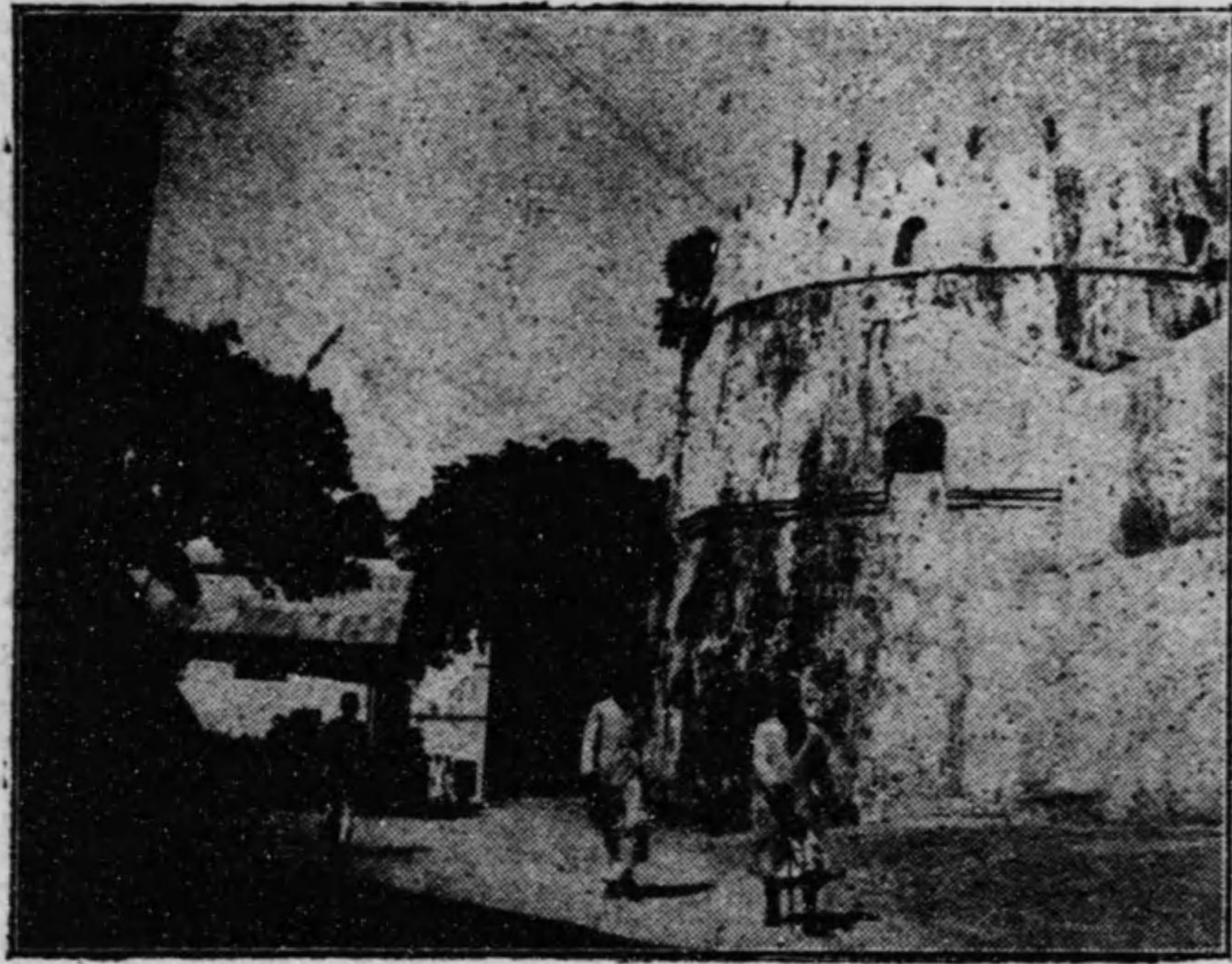
勝の位置を占めて居たのと、印度洋には五月から十月迄、西南の季節風が吹き、又十二月中旬から二月末迄、東北の季節風が吹く爲、アラビヤから阿弗利加の印度洋岸を航海するには、此季節風を利用し順風に乗じて、往復する便利があるからである。斯くて希臘、ローマの時代が過ぎ、歐洲の勢力が衰へてからは、東阿の天地は亞刺比亞人の獨占する所となり、彼等は今日ケニヤの貿易港として知られるモムバサ港、南のザンジバル、更に南のベイラに近い、ソファラ港を根據地として其勢力を扶植した。然るに歲遷り星變り十五世紀に至つて、歐洲人の所謂世界の陸地發見時代が到達した。一四八七年に西班牙の航海家、バーソロミュー・ヂアスが印度へ航海の途中、希望峯を廻つて東阿の海岸に出で、更に又一四九七年に葡萄牙の航海家ヴァスコ・ダ・ガマも同じ目的を以て希望峯を一周し、東阿海岸の諸所に寄港し、ソファアラ、モムサムビケ、ザンジバル、モムバサ等に就て知る事を得た。茲に於て葡萄牙政府は、東阿弗利加の沿岸が印度經營の仲繼地として、極めて重要な事を發見し、一五〇五年有力な遠征隊を派遣しアラビヤ人よりソファアラ、ザンジバル及びモムバサを奪ひ、翌年之に城塞を築き牢乎とした根據地を造つたが、アラビヤ人も亦屢々來つて襲撃を試み、大凡二百五十年の間夫が或時はアラビヤ人の

手に歸り、又或時は葡萄牙人の手に移り、戰爭の絶間が無かつたのである。結局葡萄牙は其本國の衰へると共に漸次勢力を失ひ、一七八九年モムバサ及ザンジバルの陥落を最後として、南方のモサムビケに退却し、往年の覇業は只之を其殘覺と口碑とに留むる計りと成つた。然も歐洲の天地は爾來次第に多事と成り、十九世紀の半頃迄約一百年の間、此地方の事は全く歐洲人の腦裏より忘れられ、東阿の天地は再びアラビヤ人の勢力に歸し、其跳梁跋扈に任す事となつたのである。



悲慘極まる奴隷狩

葡萄牙人がモンバサ、ザンジバルを退去した以來、東阿の天地は暗黒の世界と成つた。勿論アラビヤ人は昔の儘其活動を續けて居たのであらふ、併し彼等は今日の所謂文明國と没交渉であつた爲、其活動は單なる暗中の蠢動たるに過ぎなかつたのである。然るに十九世紀の初頭に至り、端なくも奴隷問題に關聯し。東阿弗利加は再び世人の注意する所となつた。蓋しアラビヤ人は夙に奴隷使用の習慣を有し、東阿弗利加に於ても、亦黒人を奴隷として之を自己の家庭又は農園の勞働者として使用しつゝ、あつたのであるが、後アラビヤ、土耳其、波斯其他諸國に其販路を發見するに及び、之を一種の商品と成し、極めて大袈裟な方法で、遠征隊を組織し廣く内地に入込み、或場合には中央阿弗利加を突破して、コンゴの奥地に入り込み、或は又遠く西海岸の地方に迄侵入し、手當り次第に土人を捕へ、珠子繫にして東海岸に連れ歸り、現今英國の保護領と成つて居るザンジバルを中央市場として、之を諸國に賣り飛ばしたのである。



ザンジバル島に於ける葡萄牙人時代の遺蹟

傳ふる所に依れば一千万人位の奴隷が同市場から輸出せられ、其幾倍かの土人が凄慘な奴隷戦の爲に斃れたと云はれて居る。尤も南北亞米利加にも多數の黒人が賣られて居り、其内合衆國に送られたもの計りでも約六百万人、其外玖瑪、ジャマイカ其他の西印度諸島等に送られしものが、三百萬人乃至四百萬人とのこと故、是等を總計すれば一千万人位になるであらう。併し是等は總て東海岸でなく、西海岸から輸出せられ、之を取扱ふた者は主として英國人であつて、アラビヤ人ではなかつたのである。

慘絶、凄絶なる奴隷の輸送

斯くして阿弗利加土人は一旦奴隷狩に遇ひ、其毒手に罹る時は親子も夫婦も兄弟も忽ち引き

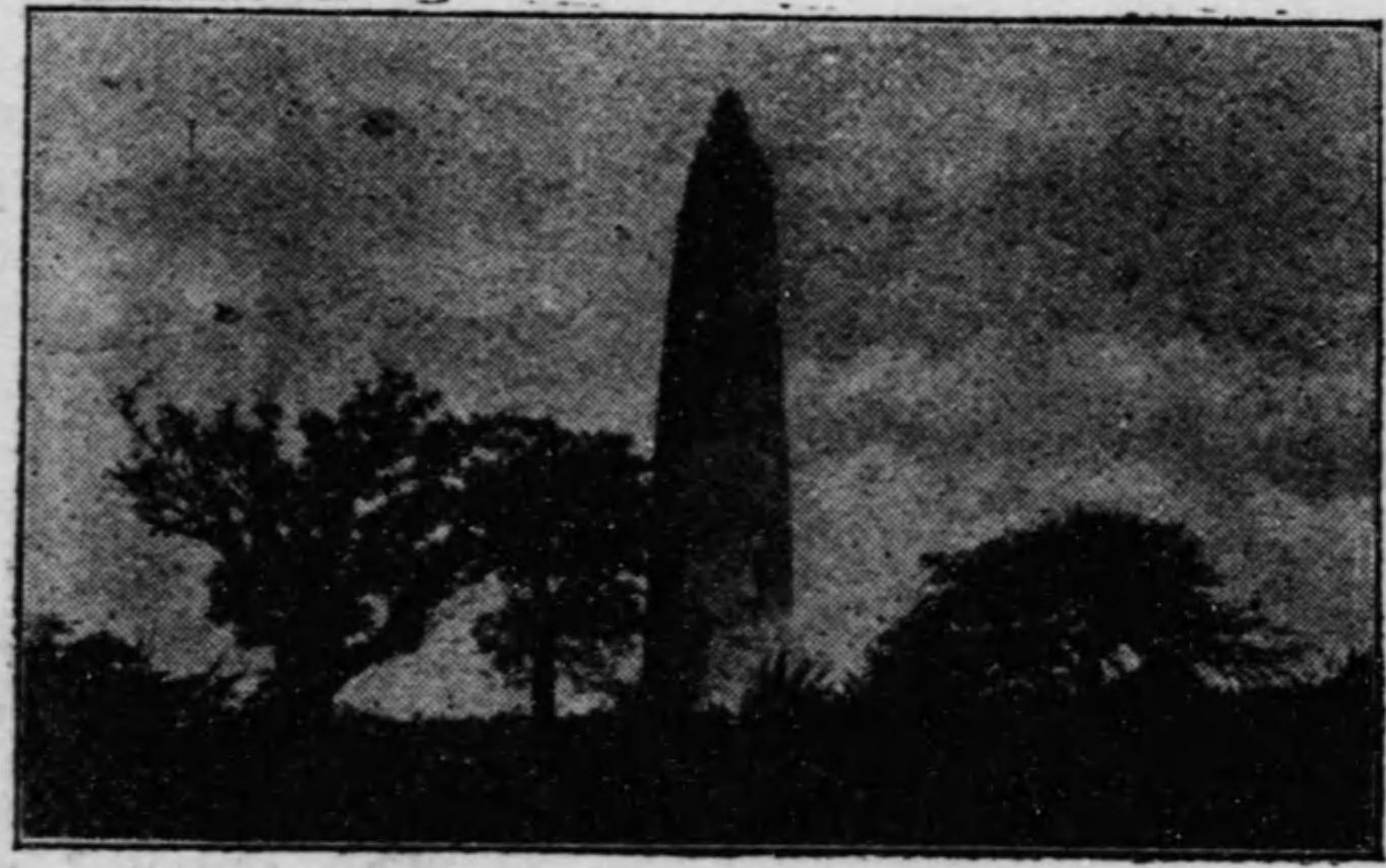


離され、賣手買手の意の儘に、或は東に、或は西に、轉々流離の不幸を見ねばならぬ其有様は恰も生捕られた野獸が、諸國の動物園に賣られて行くのと少しも變らないのであつた。殊に夫が亞刺比亞人の仕事であるから、衛生上の事は素より構はなかつたので、陸上並に海上の輸送中、虐待と不潔との爲、斃死した者の數は實に夥しいものであつたと云はれて居る。現に當時の實話として残つて居る所に依ると、嘗てザンジバルからアラビヤへ三百人の奴隷を小さな船で船詰にして輸送した。處が衛生状態は悪い、波は高い、忽ちにして多數の病人が出来たが、無慈悲な船主は重症の患者を破損した商品の如く海中に投下して處分した。又或他の場合に奴隷を輸送中天然痘が流行し、其過半が航海中に斃死したと云ふことも傳へられて居り。之に類似する話は殆ど枚擧するに暇がない。實に慘絶、凄絶の極みと云ふべきである。

轟々たる奴隷廢止の聲

茲に於て阿弗利加の奴隷問題は先に歐洲識者の注意を喚起し、奴隷廢止の聲は眞先に英國宗敎家の間に起り、轉じて轟々たる輿論の叫と成り。一八三三年英國植民地に於て、奴隷制度を

廢止したのを手始めとし、其後各文明國に於て、新條約を締結する毎に必ず奴隷賣買禁止の條項を挿入し、且つ軍艦を以て之が取締を強行する等、大に其防遏に努めたので、十九世紀の末に至り、ザンジバルに於ける奴隷市場閉鎖、並に賣買廢止を最後とし、阿弗利加に於ける奴隷狩及賣買は表面丈は兎も角も終熄した。併し此制度は多年の習慣に依り、自然に之を賣買するは道德上不當な事では無いと考へて居たので、假令法律で禁止するとも、實際上



「サマムモ」島に於ける牙葡の一舊蹟  
中央の塔は望樓にして左右の大樹「アマム」は此邊土地稍々高く遙く海に望む

維持せられたものなるのみならず、其使用に慣れた民族には社會上並に經濟上之を必要とした。従て之を一朝に廢止せんとする事は容易の事ではないのみならず、東阿に於ては之を取扱ふ者はアラビヤ人であつて、彼等は古來の習慣上奴隷其ものを人間の普通事と心得



之を勵行する事は決して容易な事では無かつた。従つて英國は一八九〇年にザンジバルと奴隷禁止の條約を締結し、ザンジバルは同年奴隷賣買禁止に關する、ブラツセル條約に加入したるも、同國が實際上其禁止を實行したのは漸く一九〇七年以後の事であつた。英國が一八九五年に東阿弗利加沿岸地方をザンジバル王より租借するに當り、同領内に於ける現在の奴隷は、之を合法のものと認めねばならぬ事と成り、同年以前の奴隷は條約上之を其儘承認した位である。以て奴隷廢止が如何に困難な事業であつたかを知るに足るのである。

## 探險時代來る

奴隷問題は單に奴隷狩及奴隷賣買に就てのみならず、阿弗利加自體に就ても、亦大に世界の注意を喚起した。是れ即ち阿弗利加探險時代の序幕とも云ふべきものであつて、其先頭に現はれたのは重に熱烈な宗教家及雄心勃勃たる、軍人又は軍人上りの志士であつた。即ち獨逸人クラツプフ、レブマン、英國人リヴィングストン、スピーク、バートン、グラント、カメロン、米國人スタンリーの如きは、所謂鐵中の錚々たるものであつて。彼等は孰も深く暗黒の内地に向つて突入し、先入未知の蠻地を踏破したのである。蓋しレブマン及クラツプフの兩人は、一八四八年モンバサに新設せられた、傳道教會の收師であつて、彼等は同年同協會に赴任すると共に深く内地を探險し、其結果レブマンはモンバサより約二〇〇哩の西方に、ケニヤの國境に近きタンガニカの東北部に於て、白雪皓々たる海拔一九七二〇呎のキリマンジャロ山を發見し、クラツプフは其翌年モンバサより約三五〇哩の西北方の内地に於て、四時白雪を頂く海拔一七〇



四〇呎のケニヤ山を發見した。而して兩人は孰れも土人及アラビヤ人との談話を基礎とし、遙か西方の奥地に三つの大湖水（今日のニヤサ湖、タンガニイカ湖、ヴィクトリア湖）の在ることを報告し、英國地理學協會からは大分嘲笑せられたが、佛國地理學協會からは名譽章を授けられ、大に世人の注意を喚起した。但し阿弗利加の内地に大湖水の存在することは、太古の時代に於て屢々埃及奇聞として傳へられ、誰云ふとなくナイル河の水源は、即ち此神秘な湖水であることが想像せられて居たのである。従つてレブマン、クラツプフ兩人の湖水談の如きも、或方面では取るに足らざる途説として嘲笑せられたが、又或他の方面では、其爲に昔の埃及奇聞迄が思ひ出だされ、其實在を信用する者も尠くなかつたのであつて、其爲大に世人の好奇心を刺戟し、阿弗利加探險熱を煽つたことが決して尠くなかつたのである。

### 三大湖水の發見

アデン駐在の英國海軍大尉バートン及スピークの兩人は英國外務省、東印度商會及英國地理學協會の後援に依り、此地方に對して大々的探險を企て、一八五六年相ひ伴なつて、ザンジバ

ルに赴き、夫より對岸のバガモヨと云ふ處を経て、現今のタンガニイカの内地に入り一八五七年ウンヤムウエジに着いた。所が其處で一人のアラビヤ人に出遇ひ、其者より遙か西方の奥地に三つの大湖水があることを聞いて、偕てはレブマン、クラツプフ等の湖水談も強ち無稽の囂語ではないと、心に領き、更に西へ西へと進み往く内、印度洋岸から約八百哩のウジジ、（後にリヴィングストーンとスタンリーの會合地として有名な場所）と云ふ處に至り、突然洋々たる大水面を發見した。是れが即ち今日のタンガニカ湖であつて、昔の埃及奇談やレブマン、クラツプフの湖水談の一部が茲に實現せられたのである。其處で兩人は一旦、ウンヤムウエジに引返へし、更に又第二の湖水を發見すべく、進路を北に向け出發する事とした。然るにバートンは不幸にして病氣の爲め其處に止り、スピーク一人豫定の進路を追ひ奥へ奥へと進み行き、一八五八年八月三日ムワンザと云ふ處で、又々廣大無邊の大湖水を見出した。是れ即ち三大湖水の第二のものであつて、茲にも亦埃及奇譚やレブマン、クラツプフの湖水談が事實と成つて現はれたのである。スピークは大に喜び、之をヴィクトリア・ニアンザ、（ニアンザは土語にて湖水の意）と命名し、夫よりウンヤムウエジに引き返へし、バートンを伴つてザンジバルに引



き上げ其處でバートンに分かれて倫敦に歸り、帝國地理學協會に右の發見事實、並にナイル河の水源が必ずヴィクトリア湖なる事を信する旨を報告し、更に其後援を得て一八六〇年グラントと共に倫敦を出發し、ザンジバルより前の通路を経て、ウンヤムウエジに至り、アラビヤ人よりヴィクトリア湖の西方に白雪の高山があり、又其北方に一つの鹽水湖がある事を聞き、一八六二年一月十六日バヒマ郡を経て、ウガンダ國に入り、同年七月二十八日ヴィクトリア湖の流出口を發見し、帝國地理學協會長の名に依り、之をリツボン・フォールズと命名した。是れ即ちナイル河の水源の發見であつて、埃及奇聞の謎は茲に始めて解決せられたのである。其れよりスピークは道を埃及スーダンに取り、一八六三年二月十五日ゴンドコロに至り、突然カイローより來れるサミュエル・ベーカー夫妻に逢ひ、互に既往を語り將來を談じ、暫く其處に止つた後、別を惜みつゝ、北の方カーツームに向ひ、カイローを経て一八六三年の春、凱旋將軍の如く倫敦の本部に歸着した。

而してベーカー夫妻は、一八六三年三月二十六日ゴンドコロを出發して南の方ウガンダに向ひ、翌年三月十六日現今のウガンダとコンゴとの國境に於て、南北に互れる長形の大湖水を

發見し、之をアルバート湖と命名し、ウンヨロ王國の首府カムラシに至り、ユニオンジャックの國旗を立て之を英國の保護國とした。

### リヴィングストンの救護

然るに當時リヴィングストーンは大に南阿を探險し、東方サンベン河の流域に遠征を試み、英國の爲にニヤサランド占領の基礎を作り、一八六五年に至り更に進んで、中央阿弗利加の探險を企て、深く内地に侵入したが、其後査として其消息がないのみならず、或者は彼の死を傳へ其の眞相が不明なりしに依り、米國紐育ヘラルド及英國のデイリー・ニュースの兩新聞社で其搜索並に救援隊を派遣することに成り、其任務をスタンリーに依頼した。スタンリーは直に旅行準備の爲め一八七一年一月六日、其當時暗黒な阿弗利加交通の中心地たりしザンジバルに赴き、此處で一切の旅装を調べ、土人の銃手、人足等一六三人を率ひて、對岸のバガモヨに渡り、更に三十人の土人を加へ合計一九三人を一隊とし、三月十一日西方の奥地に向ひ出發した。然るにリヴィングストンの所在は全く不明であつて、殆ど搜索の手掛もない、其處で其の



當時東阿弗利加内地の唯一旅行者たるアラビヤ人の通行するカラバン路と稱するタンガニイカの中央路、即ち現今中央鐵道の敷設せられて居るタボラを中心とする道路に沿ひ段々内地に進み行く内、一人のアラビヤ人に逢ひ、其の者から偶然タンガニカ湖畔のウジジと云ふ一人の白人が居ると云ふ噂を耳にした、スタンリーは素より半信半疑ではあつたが、之れに多少の力を得、取り敢へず其處を目標に進んで見ることにし、彌々西へ西へと奥地に向つて侵入した。

然るに暗黒時代の阿弗利加の事であるから、途中の困難は非常なものであつて、色々な毒虫に惱まされ、猛獸に襲はれ、殊に當時の事として、衛生などは問題にならざる惡状態に在つたので、熱病、赤痢、其他の惡疫の爲、隊員中に澤山の病人が出来、死人もあれば、落伍者もある。中には人夫中旅行に飽いて逃亡する者も少くなかつたのである。勿論不足の人数は行く先々で土人を雇ひ補充した事は勿論であつた。

### スタンリーとリヴィングストンの會見

最初の隊員中九月二十日迄に残つて居た者が僅かに五十六人であつたと云はれて居る。以て其旅行が如何に困難であつたかを知ることが出来るのである。併し勇悍なスタンリーの決心は金鐵の如く、彼は一難毎に益々勇氣を振ひ、動もすれば恐怖心に襲はれ然らずんば隔氣に満たされとんする隊員を鼓舞し、一路西に向つて進み、遂に十一月半に至り、約八百哩の蠻土を踏破して、一大湖畔に到着した。見渡せば湖面は際限の無い大海原で、夕陽は既に西に傾き扇々と錦波を其上に漂はして居る。是れ即ち目的のウジジであつて、隊員の歡喜したのは云ふ迄もない。茲に於て五十有餘の銃手は忽ち筒を整へ霹靂一聲天空に向つて砲射したので、此の響に驚いて物見高い多數の土人が駈け出して來た、其内一人の土人はスタンリーを見るや否や、直に英語で話しかけた。此者こそスタンリーと云ふリヴィングストンの従僕であつて、彼は告ぐるに主人の所在と其健在なることを以てした。流石に豪膽なスタンリーも胸の鼓動を押へることが出来ず、直にスージーに案内させリヴィングストンの偶居を訪ふべく道を急いだ。然るに凡一丁計り歩み行く内、多數のアラビヤ人に圍まれながら、褪せた綠色の線のある帽子を冠り、茶褐色の古びた上衣を着、不可思議な顔して立つて居る一人の白人を見出した。スタンリーは



肉躍り魂飛び殆ど吾を忘れて彼に飛び附ふとしたが、氣を押し鎮め、先づ貴君は、ドクトル。リヴィングストーンですかと問ひかけた、勿論彼は直に然りと答へつ、脱帽したので、スタンリーは電光の如く隻手を差し延べ、堅い握手を交しながら上帝に感謝の言葉を獻け、暫く相抱いて歡喜した。此劇的シーンには恐らく天地も震動したであらう、場所は路傍のマンゴー樹下、今は記念碑を設け柵を圍らし芳名を不朽に傳へて居る。蓋しリヴィングストーンは内地探險中健康を害したので、ウジジが割合に大きな土人の部落であり、諸事に便利な爲、暫く此處に滞在し保養しつゝ、あつたのである。スタンリーの日記に依れば、「ウジジでリヴィングストーンを見た時、彼は見る影も無く衰弱して居た。自分は數度戰場にも臨み、既に生の悲惨を嘗め盡して居るが、彼の經驗した多くの悲痛な探險談を聞いた時ほど、感動したことはない云々」と物語つて居る。以て如何に命がけの危険な、且つ困難な仕事であつたかを知ることが出来るのである。

### リヴィングストーン、スタンリーの決別

スタンリーは、暫くリヴィングストーンの許に滞在して居たが、其内同人の健康も大分回復

したので、頻りに歸國を勧めしも彼は尙大に爲すべき事のある旨を語り。其忠告に應じないので、スタンリーは止むを得ず同年十二月二十七日ウジジを後にして、獨り歸國の途に着いた。流石にリヴィングストーンも大に名残を惜み、スタンリーを伴ひながら彼方此方を探險しつゝ、翌年二月十八日相携へてアンヤンエンビーと云ふ處に至り、暫く其處に滞在し、三月十四日愈々最後の訣別を爲し、リヴィングストーンは再び奥地に入り、スタンリーはバカモヨを経て、五月七日ザンジバルに到着し、翌年倫敦に歸着した。

### カメロン大佐の阿弗利加大陸横斷

スタンリーが東阿弗利加に於て活動しつゝ、あつた間に、英帝國地理學協會も亦大に、リヴィングストーンの安否を氣支ひ、救援の爲更にカメロン大佐を派遣した。カメロン大佐は一八七三年ザンジバルに至り、大體に於てスタンリーと同一のカラバン路を傳ひタンガニイカの奥地に向つて進みしも、途中リヴィングストーンの訃音に接したので、彼は大に失望したが、其儘タンガニカ湖に向つて前進し、湖水を渡つてコンゴに入り、ルアラバ河を發見し、(後にスタンリー



一はそれがコンゴ河の上流であることを発見した、夫より進路を西南に取り、一八七五年西  
 阿弗利加の西海岸に到着し、阿弗利加大陸横断の第一人たる月桂冠を獲得した。

偉大なるスターリーの功績

リヴィングストーンの計報が一度歐洲に傳はるや、一般の人心を衝動し、世人は期せずして  
 阿弗利加の内地に對し、大々探險の必要を痛感した。茲に於て紐育ヘラルド及英國デイリー・  
 デレグラフは聯合して大々的探險の計畫を立て、再び其實行をスタンリーに委囑した。同氏は  
 一八七五年、前回同様ザンジバルからバガモヨに渡り、大體に於て前路を追ひ、ヴィクトリア  
 湖の南岸に至り、夫よりウガンダに入り、更にヴィクトリア湖を一周してウガンダに歸り、同  
 年十二月海拔一六七九〇呎の高山として有名な、ルウエンゾリ山の麓に出た。此山は紀元百五  
 十年に希臘の哲人プトレミーの作つた地圖に、ナイル河の水源地、月の嶺と認められたもので  
 あつて、スタンリーは一八八九年に至り此山を発見したが、右の旅行中には夫に氣付かないで  
 通過した。同氏は夫より再びウジジに赴きタンガニカ湖を渡つてコンゴに入り、カメロン

の発見したルアラバ河に沿ひ、二ヶ年の後西海岸のコンゴ河口に到着したが、ルアラバ河が  
 其實コンゴ河の上流であることを発見した。此旅行に於てスタンリーの最も大なる功績は、  
 彼がウガンダ滞在中英國の宗教界に向ひ、ウガンダに於ける宗教的未來の豊富なことを警告し、  
 其奮起を促す爲、極めて激越な挑戰状を送つた事であつた。其結果英國傳道教會より八名の決  
 死隊を派遣し、(内無事目的地に到着した者僅に一名)、次で佛國よりカソリック教會の一隊が之  
 に續いて乗り込む事に成り、夫よりウガンダに於て、多くの宗教家の活動を見る様に成つたの  
 である。併し其爲一八七九年より一八九九年まで二十年間、從來勢力のあつた回々教の一團と  
 共に、各宗派が三ツ巴と成つて大に宗教上の争擾を惹起した。蓋し新教は英國、舊教は佛國、  
 回々教はアラビヤ人の利益を代表したものであつて、是等の勢力の侵入は後日に至りウガンダ  
 の政事的運命に極めて重大な影響を與へたのであつた。



## 東亞弗利加分割せらる

奴隸問題が阿弗利加の探險を促し、阿弗利加の探險が阿弗利加自身に對して大に世界の注意を喚起した事は前述の通りであるが、當時は歐洲に於て、最も帝國主義の盛んな時代であつて、弱國を併呑することは、恰も強國の權利であるかの如く考へられて居たのである。斯る事情の下に無主物同様な野蠻地の大バノラマが次から次へと列強の目前に展開せられた、其狀況は、恰も猫に鷹の如く、果して英、佛、獨等の諸國は人類の幸福の爲と稱し、先を争ふて其占領を企てた。殊に英、獨兩國は其急先鋒であつた。即ち獨逸は其適役者たる奇才維横のカール・ペーテルを派遣し、土人の間に於て大に畫策せしめたが、彼は機敏にタンガニカの各地を廻り、土人の酋長と條約を結び、更にケニヤの沿岸並に奥地に入し、一抱の條約書を携へ歸國した。獨逸政府は之に承認を與へ、獨逸東阿弗利加會社を設立し、其經營に當らしむる事とした。是れ即ち一八八五年の事であつて、後年の獨逸東阿弗利加は實に其源を茲に發したのである。

而して英國も亦獨逸に劣らず、公私の代表者をして土人の間に活躍せしめ、先づザンジバルを藥籠中の物と爲し、ケニヤ及ウガンダに其勢力を扶植し、英國東阿弗利加協會をして公私の經營に當らしめたるが、一八八八年に至り其組織を一變して、英帝國東阿弗利加會社となし、之に各種の特權を附與し、東阿に於ける一切の經營に當らしめる事とした。然るにザンジバル王は豫てより東阿弗利加の廣大なる土地に對して領土權を主張し、北はソマリーより南はザムベジ地方迄、東は印度洋沿岸より西は奥地の湖畔地方迄は、古來アラビヤ人の通商地であると云ふことを理由とし、之をザンジバル王領であると云ひ、其主張は列國の利害と相容れない。其處で一八八六年十一月英、佛、獨三國間に於て協議の上、ザンジバル王の領土は、ザンジバル島、ムムバ島及其附近の諸小島、並に之と相對する大陸側に於てロヅマ河及タナ河間の幅員十里の海岸地に限り之を認めることを定め、右以外の土地に對する同王の領土權を非認し、同時にウムバ河口よりヴィクトリア湖畔に於ける南緯四度の地點迄一線を畫し、其南の内地を獨逸北の内地を英國の勢力範圍とすることを協定した。



## 列國間に於ける利割の錯綜

二六八

然るに其取極は實際に臨んで甚だ不明瞭な所が多く、獨、英間に於て絶へずザンジバル王を挾んで、爭奪が行はれたのみならず、佛國は一八六二年中英國と共にザンバルの獨立を承認して居る關係上、之を英國の勢力下に置くことを欲しない。且又佛國は豫てよりマダガスカル島に目を注ぎ、之に對し大に英國と覇を争ふて居たのであるが、一八八〇年の春、佛人宣教師の一人が馬島に於て殺害せられたのを機會とし、討伐隊を派遣して之を其保護國にせんとした。併し之には馬島政府が極めて手強く反抗したのみならず、英國も亦之を承認しなかつた。茲に於て東阿弗利加に於ける列國の利害は大に錯綜し、其關係が甚だ複雑と成つた。茲に於て各國の政治家は時局の危険と、且つ相互の不利益とを覺り、互に意思疏通の結果、一八九〇年七月英、獨協約に依り、東阿弗利加大陸分割に關する一八八六年の協約を一層明確となし、ウムバ河を界とし、南方即ち現今のタンガニカを獨逸の自由地域、又其北方即ち現今のケニヤ及ウガンダ並にザンジバルを英國の自由地域とし、英國は其代償として、獨逸が密に國防上の要地と

して非常に熱望して居た、ヘリゴラントを同國に讓渡する事とした。而して之と同時に英、佛協約に依り、英國は佛國がマダカスカルを其保護國とし、佛國は英國がザンジバルを其保護國とすることを承認した。是れ即ち東阿弗利加の分割であつて、一千萬人の黒人と、其廣大な國土とは、之に依つて其運命を定められ、東阿弗利加は遂に白人の天下と成り終つたのである。

## 英獨の妥協と國防上の要地

因にヘリゴラントはハムブルグ港沖にある小さな岩島であつて、嘗て丁抹領なりしも、ナポレオン一世の時以來英國の領土と成つたもので、英國側では此島を餘り重要とは認めざりしも、獨逸側では之を國防上の要地として非常に熱望して居たのである。尤も本問題協議中、英國の内閣員中には將來獨逸と開戦の場合には、ヘリゴラントが英國艦隊の爲に重要であると云ふ事を主張する者もあつたが、結局當時の總理大臣ソースベリー卿の意見により、東阿分割の犠牲として、之を獨逸に讓渡することにしたのである。尤も獨逸側に於ても、ヘリゴラントを軍事上の要地とし、其領有を熱望した者はウイルヘルム一世とビスマルクとであつて、軍事上



の知識の無い多数の國民中には、一個の小さな岩嶋と、東阿に於て最も大切な、ザンジバルの利權とを交換した事を愚なりとし、大に政府を非難した者も尠なくなかつたのである。

### 英、獨の勢力範圍

茲に於て獨逸は其自由地域と成つた、タンガニイカ全部を其領土に編入し、同時に曩にザンジバル王の領土と定めた、タンガニイカの海岸地を同王より二十磅にて賣收し、之を併せて獨逸東阿弗利加と命名した。而して英國も亦其勢力範圍内に於て、自由行動に着手し、ザンジバルを其保護國とし、ケニヤ及ウガンダは從來の儘英帝國東阿弗利加會社をして其經營に當らしめ、次て一八九五年ケニヤを其保護國とし、曩にザンジバル王の領地と定めたケニヤの海岸地を同王より租借した。

### 英、佛の宗教戰

然るに是より先、佛國は頻りにナイル河の上流地に於て、英國と覇を争ひ、英國が新教の力

に依り其の勢力を扶植せんとするに對し、佛國は頻りに舊教を宣傳し、英國排斥の運動を企てた。依つて英國はノーフォルク聯隊のルガード大尉(後のサー・フレデリック)をウガンダに派遣し、佛國側の勢力に對して斷然たる措置を取らしめた。依つて同大尉は直に現場に乗り込み、東阿弗利加會社の兵力を利用し、新教徒を煽動し、一八九二年一月口實を設けて佛國宣教師を追ひ、不順の土人を斃殺し、英國の權力を確立した。然るに最も困難なりしことは會社が此事件の爲に巨大な資金を費し、非常な財政難に陥つた事であつて、其結果會社は遂に解散の外なき窮狀に陥つた。若し會社を解散するとせば、英國の威信は忽ち地に落ち、新教の勢力が其根底から破壊せらるゝ事は明かである。其處で取り敢へず教會から補助金を支給して、應急的救済策を講じ、尋で一八九三年之を英國政府の手に移し、一八九五年九月ケニヤと共に之を英國の保護國とした。尤もケニヤ保護國は(從來は英國東阿弗利加保護國と云ふて居た)一九二〇年六月に至り之を英國直轄の殖民地とし、領内最高峰の名に因み之をケニヤ殖民地と改稱した。但し海岸地の租借は從來通り繼續し、之をケニヤ保護領と云ふて居る。然るに獨逸領東阿弗利加は歐洲大戰の結果巴里條約に依り、國際聯盟より委任統治地として、英國に譲り渡



され、爾來タンガニカ委任統治地の名に於て、英國の支配に屬すること、成つたのである。因に國際聯盟は右の委任條件として、土人の利益を保護すること、土人に對し公共の爲に必要なる場合の外労働を強制すべからざること、及國際聯盟に屬する各國民に對し入國、居住、旅行、商業、企業其他に關し完全なる機會均等の權利を認むべきことを指定して居る。

### 地理的概観

#### 面積と人口

英領東アフリカとはケニヤ殖民地及保護國、ウガンダ保護國、タンガニカ委任統治地、ザンジバル保護國、ニヤサランド保護國、北ローデシヤ、ソマリランド保護國の七ヶ國を併せ稱するのであつて其面積は約八十八萬平方哩、即ち我帝國の領土に比し恰も其三倍半に當り、其人口は約千五百萬人であつて其密度は、一平方哩に付十八人の割合に成つて今之を各領土別に比較對照すれば左の通りである。

領土名	面積	人口	日本との比較	一平方哩人口
ソマリランド	六八、〇〇〇	三四四、七〇〇	二割六分	五
ケニヤ	二四五、〇六〇	二、七三六、五一七	九割半	一一
ウガンダ	九四、一三一	三、一三六、九四六	三割七分	三三



タンガニカ	三六五、〇〇〇	十四割	四、三三八、三二一	一一
ザンジバル	一、〇二〇、二六十分の一		一一一、六八〇	一一〇
ニヤサランド	三七、八九〇	一割半	一、二九三、三九一	三四
北ローデシヤ	六八、〇〇〇	二割六分	三四四、七〇〇	五
合 計	八七九、一〇一	三十三割六分	一一一、四一六、二五三	一四

併し右の内最も優勢なのはケニヤ、ウガンダ、タンガニカである、又小さな島國ではあるがザンジバルは東アフリカの沿岸に於ける交通の中心點として、極めて重要な地位を占めて居る。因に東アフリカは北方の黑人帝國として知られるアビシニアを始めとし、右の英領又は保護國七ヶ國並に伊領二ヶ國、葡領及佛領各一ヶ國合計十三ヶ國を總稱するのであつて、其總面積百九十二萬九千平方哩、人口二千九百五十萬人に達して居る。

内地は總て高原地

東アフリカが地理的に最も變つて居る事は、内地が一帶に大高原に成つて居ることである。

尤も狭まい海岸地丈は低地なるも、海岸から西の方内地に入るに従ひ、土地が段々高く成り奥地一帶の地は總て驚くべき高原地に成つて居る。例へば北方のアビシニアは大抵海拔五千呎から八千五百呎、其南のケニヤは四千呎から八千呎、奥地のウガンダは千五百呎の處もあるが多くは三千呎から四千五百呎、タンガニカは二千五百呎から四千五百呎、更に南のニヤサランド、北ローデシヤ及葡領東阿の北部一帶の地方も亦三千呎乃至五千呎の高原に成つて居り、孰も富士山の中腹以上位の高さに達して居る。然もケニヤの奥地には有名な、一萬七千四十呎のケニヤ山、西方には一萬四千四十呎のエルゴン山、東方に一萬三千呎のセチマ山、一萬二千八百呎のキナゴツブ山等が巍峨として其雄姿を並べて居り、又ウガンダの西方の奥地には白領コンゴートの國境に一萬六千八百呎のルウエンゾリ山があり、タンガニカの東北には音に聞えた一萬九千七百二十呎のキリマンジャロ山と、一萬四千九百六十呎のメル山とが白雪皓々として天空に高く聳へて居る。是等諸山を中心として其附近は總て山岳地帯を形成し高原上に又一段の高原を形造つて居る。



不思議な地球の龜裂

東アフリカに於て最も奇異な現象はグレート・リフトヴァレー又は大地溝として知らる、地球の大龜裂が其奥地を南北に縦斷して居る事である。即ち南の方南領東アフリカの沖合より起り、同國中部ベイヤノ海岸に沿ひ、サムベジ河の流域を経てニヤサランド、タンガニカ及葡領東アフリカの三國に在るニヤサ湖に至り、夫れより北に進んでウガンダ、ケニヤ及アビシニア三國の間に在るルードルフ湖と成り、更にアビシニアの高原を貫通して紅海に達して居るのであるが、紅海其ものも亦之に連続する一つの地溝であつて、其北端より更に小亞細亞に入り、死海及ヨルダン河と成つて居る。而して中部のニヤサ湖とルードルフ湖との間に於ては、夫が東西の二條に分かれ、西の方に於てはタンガニカ湖、キヅ湖、エドワード湖、アルバート湖等と成つて白領コンゴ、タンガニカ及ウガンダの間を通過し、東の方に於てはタンガニカのエヤシ湖、マトロン湖、ケニヤのマガジール湖、ナイバシヤ湖、ナクル湖、ハリング湖と成つて兩國の中央を縦斷し、更に此中間の地帯にはヴィクトリア湖があり、キナガ湖があり、世界に於

て比類なき湖水連續の一大地帯を作つて居る。是れ實に驚くべき地球の異跡であつて、吾人の不思議に堪へざる所である。

大陸の陷没

東アフリカは多くの點に於て印度半島に似て居り、地質學者の説に依れば、右の兩大陸は元北印度洋の北半を占めて居た舊大陸に依りて一連の地帯と成つて居たのであるが、太古の時代に地球の大變動があつて、右の舊大陸が海中に陷没した爲、今日の如き形の大陸と成り、同時に東アフリカの内地に於ても、土地の大龜裂を生じたものなるが、此大龜裂が即ち右の大池溝であつて、其低き處には多くの湖沼を湛へ、湖沼と成らざる處は偉大な溪谷と成つて残つて居る。是れ即ち此地方で多數の大湖水が、連續的に並んで居る所以であつて、陸上に於ては溝の幅は廣い處が六十哩、狭い處でも四十哩に及び、深さは普通千五百呎位に達し、紅海の如きは最も深い處が大凡七千五百哩に達して居ると云はれて居る。然も陸上の溝内には幾多の死火山を包藏し最も明瞭に昔の噴火の跡を残して居る。此偉大な光景はケニヤのウガンダ鐵道線又は



タンガニカの中央鐵道で、此地方を旅行する時汽車の窓より悠々と其一班を窺ひ得るも、何分其幅が數十哩に渡つて居るので、夫が地溝であると云ふことが氣付かれない。只非常な斷崖に適當な勾配を附し、其處を急轉直下して千數百呎の谷底に至り、再び對岸の高原地に攀じ上るのであつて、其間に幾多の湖水もあれば、又休火山もあり、四圍の光景の壯絶な事は眞に世界の最大不思議と云ふべきである。但し右に就ては嘗て英國のクレゴリー博士によつて詳しく研究せられ、其結果は千九百二十年七月英國地學協會に於て、又千九百二十一年ゼ、リフトヴァレー・エンド、ゼラロチーと題する同博士の著書に依り發表せられて居る。

神秘を極める湖水の様々

因にヴィクトリア湖は米國のスーパーリア湖に亞ぐ世界第二の淡水湖であつて、長さ二百五十五哩、幅百五十五哩、水面の廣さ二萬六千八百餘平方哩に及び、我九州と四國とを併せたよりも稍大きく、古代には夫よりも更に大きなものであつたと云はれて居る。又之に亞ぐものはタンガニイカ湖及ニヤサ湖であつて、タンガニカ湖は長さ四百二十哩、幅四十哩、水面の廣さ約

一萬二千七百平方呎、ニヤサ湖は長さ三百六十哩、幅五十哩、水面の廣さ一萬二千平方哩なるが、其他ルードルフ湖と云ひ、アルバート湖と云ひ、又エドワード湖と云ひ、孰も皆ヴィクトリア湖には及ばないが世界に於て稀な大湖水であるのみならず、夫等が無數の小湖と共に次から次へと連續的に並んで居る有様は實に地球上の一奇觀であつて、世界の他の方面に於ては決して見られない珍現象である。但しヴィクトリア湖は太古の時代に埃及人に依り、神秘的なナイル河の水源地として傳へられ、又希臘人プロレミーの地圖にも載せられたこともあり、其後時代の變遷と共に此方面の事は世人の腦裏から忘れられ、爾來阿弗利加の内地は全然暗黒の幕に閉ざされ、外人の近寄り難い不可解の地と見做されて居たのであるが、此湖水は前に述べた通り一八五八年スピークが其南方から、一八六八年ベーカーが其北方から、又一八八三年トムソンが其東方から發見したものであつて、夫がナイル河の水源であることは一八六二年スピークに依りて確められたのである。

有名な湖水の發見



タンガニカ湖は一八五八年バートン及スピークに依りて発見せられ、夫がルアラバ河の水源である事が一八七三年カロメンに依り、又其ルアラバ河と云ふのが其實コンゴ河の上流であることが、一八七五年から一八七七年に亘るスタンリーのコンゴ探険に依りて発見せられたのである。又ニアサ湖は十七世紀の昔葡萄牙人に依りて紹介せられしものなるが、夫がザンベシ河の一支流である、シレ河の水源であることはリヴィングストーンに依りて発見せられたのであつて、地溝内の諸湖中最南の地位を占めて居る。最後に特筆すべきことは是等の湖水は孰も世界に於て最も珍奇な魚介に富んで居ることであつて學者は之に依りて湖水創造時代の極めて古きことを證據立て、居る。

## 気 候 と 衛 生

### 暑くない熱帯地

世人は阿弗利加と云へば直にサハラの大砂漠とか、又は皮膚の眞黒な土人を聯想し、氣候が炎熱で草木も燃へる様な酷暑の國である如く想像して居る、併し東阿弗利加に關する限り事實は正に之と反對であつて、海岸附近の外は總て非常な高原地であるが爲め、氣候が大變に緩和されて居り、其暑さは恰も我國の初夏位である。勿論熱帯地であるから日中は日光の直射が可成り強く、從て外出する時にはヘルメットの様な厚い、且つ後頭部を保護する種類の帽子を用ゆる必要もあるも、其暑さは決して世人の想像する如く猛烈なものではない。然も日没頃から夜分にかけては寧ろ寒さを感じる位であつて、ケニヤの首府ナイロビと云ふ名前は「寒い」と云ふ意味の土語である。其位置は約南緯一度半の熱帯地ではあるが、海拔五千五百呎の高原



上に在る爲、暑さが極めて穏かなるのみならず、夜分は外套なしには外出し難い位である。殊に其奥地のキクユ、エスカープメント、サンミット杯の如きウガンダ鐵道沿線の諸地方は、地高が海拔七千呎乃至八千五百呎に達して居るから、夜分の寒さは恰も我國の冬の如くである。是れ阿弗利加に就て世人の想像する所と全然異なる所である。

低地の炎暑は流石に猛烈

併し低地は流石に熱帯の阿弗利加である。其暑さの酷しいことは恰も焼くが如く、是れなれば土人の色の黒いのも決して無理ではないと思はれる。海岸の水邊にはマングローヴと云ふ熱帯地の海岸に特有な川柳が生へ茂り、其背後には至る處に椰子の林が亭々と聳へて居る。駱駝が馬子に引かれて居るなど、總てが如何にも熱帯地らしく、ケニヤのモムバサ港、タンガニカのダレサラーム港、ザンジバル島のザンジバル港等が總てそうである。けれども長く孟買とか西貢とかの様な極く暑い地方に居た人達の話に依ると、阿弗利加の低地の暑さも實は是等の地方の酷暑時よりは、幾分か淺き易い感じがするとのことである、詰りモムバサ、ダレサラーム杯の暑さも、評判や外見ほどの事は無いのである。殊に海岸地方には日没頃から海風が吹くので戸外は俄に冷涼となり、心氣の爽快を感じることは、到底他の地方に於て味ひ難き所である。

聚 雨 と 長 雨

茲に此地方に就て特筆すべきことは、印度洋を中心として一定の季節風（モンスーン）が吹くことである。即ち五月から十月に亘つて西南風が吹き、十二月中旬から二月末に亘つて東北風が吹くのであつて、此季節風の間、方向不定の風が吹き、熱帯地に尤も特有な聚雨を齎らすのである。従つて東阿弗利加には此季節風を爽んで一年に二回雨季があることになつて居る。即ち最初の雨季は三月より六月に至るものであつて、之を長雨と云ひ、其期間が長く雨量が多い。次の分は十月より十二月に至るもので、之を短雨と云ひ、其期間が短く、雨量が少ないことに於て前者と相違して居る。尤も場所により時期の遲速雨量の多少等の相違はあるが、概して南の方が北の方よりも雨量が多く且つ早い、奥地の方が海岸よりも雨量が少く、且



つ遅く、土地の最も高い處は濕度が多く雨量も亦稍多い様である。

### 不良な衛生状態

東アフリカの氣候の凌ぎ易いことは前に述べた通りであるが、然らば其衛生状態は何うであるか、夫は極めて悪く、衛生専門家の説に依れば、低地は勿論高原地に於ても、晝夜氣温の變化が甚だしいから、呼吸器病に冒され易いのみならず、海拔四千呎以上の地方は空氣が稀薄で心臟の爲に宜しくない、従て氣候は凌ぎ易いが醫學上決して理想的健康地とは云ひ難い。殊に當地方には至る處に悪性の流行病がある。例へばマラリヤ、微毒、ペスト、回歸熱、天然痘、下痢病、呼吸器病、象皮病、各種の皮膚病其他多くの熱帶地に流行する悪疫は、大抵此地方に於て見出さる、のみならず、睡眠病、砂蚤腫等の如き特殊病さへも流行して居り、決して生活の適地とは云はれないのである。

### マラリヤ熱の流行

其の内最も流行の盛んなのはマラリヤで、我等が今回の旅行中至る所の病院に付て聞く處によると、何れの地方に於てもマラリヤの流行せざる處は無く、殊に雨季と雨後とに於て最も甚だしいとの事である。マラリヤ其のものは決して致命的病氣ではないが、若し夫が黒水病に變ずると大抵は助からぬ。各地の政府當局者は無論マラリヤの撲滅は、蚊の退治が必要なる事は知つて居る。併し殖民地政府の財政は孰も貧弱であるから、徹底的に衛生上の設備をなし、蚊の退治をする程の力がない。

但し開港地は多少衛生的設備はあるが、夫はほんの眞似事に過ぎず、一般旅行者にとつては實に危隨千萬の事である。吾等も此旅行の爲マラリヤの豫防に就ては大分研究し、蚊取線香など澤山持参して居つたので、部屋では生命がけの積りで盛んに夫を燻らしたものである。世間では一般にマラリヤの豫防として毎日少量の、キニネを服用する様ではあるが、吾等は同行の梅本醫學博士が、斯道の専門家として夫に反對であつたから、其意見に従ひ斷じてキニネを用いないことにした。同君の説に依るとキニネはマラリヤ原蟲の撲滅には何の力もなく、従て夫を飲んでもマラリヤ豫防の効能がないのみならず、却てキニネに對する原蟲の抵抗力を



増す事に成り、他日本當のマラリヤに侵された場合、キニイネの効力を減ずる結果となるのみならず。キニイネを常用する人は黒水病に罹る危険が多く、殊に黒水病に罹れば大抵死ぬのだから、キニイネを常用する事はマラリヤの豫防にならず、却て黒水病を誘導し、死の機會を招く様なものであると云ふのである。併し梅本君の説には専門家の間にも大分反對がある、著者は敢へて物知り顔に生兵法を説かんとするのではない、専門の問題は宜しく専門家をして語らしむべき事とするも、唯吾等の旅行地がマラリヤの流行地であり、吾等は夫を斯くして豫防したと云ふ事を報道するのは敢て無用にあらずと信じ、一言附記するものである。

恐るべき睡眠病の襲撃

阿弗利加で最も恐るべき病氣は學名をトリバノゾームと云ふ、一種の睡眠病である。此病氣は恰もマラリヤが蚊に依つて媒介せられる様にチエー・チエーと云ふ蛇に似た吸血蠅に依つて媒介せらるゝのであつて、人間でも獸類でも此蠅に咬まれる時は忽ち睡眠病を植え付けられ、其多くは死ぬのである。それで甚だ奇體なことには此蠅は何れも速力の早いものに飛び付く習

慣があつて、自動車とか汽車とかは勿論、牛とが、馬とか又は、野獸杯が走つて居ると、直に此蠅が来て飛び付くのであるが、夫れに咬まれたが最後忽ち睡眠病に侵されるのである。従て此蠅の居る處には如何なる野獸と雖も棲息すること出来ざるは無論、農業に牛馬を使用すること杯は絶対に不可能である。現に此病氣の流行する地方は、ヴィクトリア湖畔一帯の地方であつて、其處には牛馬は素より如何なる野獸も棲息して居ない。ウガンダ邊では今より數年前、非常に猛烈な睡眠病に襲はれ、土人が二十萬人も死んだと云はれて居る。吾等一行はタンガニイカで此病氣の流行地を通過中、屢々此蠅に襲撃せられ、孰も三回又は四回以上咬まれた爲、大分神経を惱まされたが、其都度斯ふ云ふ時の用意に豫て持つて居たヨジウムチンキ瓶を取り出し消毒したものである。

荒武者蠅に咬まれて色を失ふ

或時一行中の荒武者を以て任する一人は汽車で睡眠中何かに咬まれたと見へて、翌朝針の穴程の傷跡を見出した。先生忽ち顔色を失ひヨジウムチンキを塗つた迄はよかつたが、前後左右



の人毎に其傷口を示し、大丈夫であらうかなど、心配顔に尋ねて見た。併し徒者揃の同行者は誰も夫を大丈夫だとは受合はないのみならず、却て一同はからかい半分に睡眠病の潜伏期は大凡三日間だと云ふから、夫迄刻々に驗温を怠らぬ様に仕賜へ杯と如何にも親切らしく言ふ者もあつた。斯くなるさすがの荒武者の先生も頼む所は只醫博士一人である。其處で先生博士に向ひ頻りに潜伏期から發病迄の経過を質問する杯、大分心配な様子であつた。博士は仁者の美徳を發揮し、傷の元は蛋と診断したので先生始めて安心し、其の元氣を回復したなぞは其當時の一笑話として残された事であるが、實は決して餘所事ならず、一行中の者誰彼なく孰も内心ビク／＼ものであつた。因に東阿弗利加の睡眠病に就ては、國際聯盟に於ても之を人道上の大問題と爲し、ウガンダのカムバラ市に睡眠病の研究所を置き、専門の技師を派遣して大に其研究を續けて居る。

### 指先に喰ひ付く砂蚤とペスト

又阿弗利加には至る處に砂蚤と云ふ蚤に似た微細な蟲が居り、夫が人畜の足の爪と肉との隙より指先に喰ひ付くのであるが、喰ひ付かれたが最後たちまち局部は腫れ上ると云ふ厄介な病氣があつて、非常に土人を悩まして居る。處が此奴中々狡猾と見へ、旅行者が夜寝る時靴を床上に脱き棄て、置くと、何時の間にか其内に潜り込み、翌朝靴を穿くと、忽ち指先に喰ひ付く爲飛んだ浮き目に逢はされる者が尠くないとの事である。併し吾等は豫て其話を聞いて居たから、蚤取粉を澤山用意して置き、夜寝る時には必ず夫を靴の内に散布し、此奴に對し大に機先な制したものである。尤も都會地で相當の旅館に宿る場合には孰も掃除が行き届いて居るから砂蚤の心配などは決して無いのである。

尙驚く事は至る處にペスト患者のある事である。無論旅館に寢轉んで居たり、市中の往來を見たゞけでは何の流行病も無い様であるが、病院に往つて見ると随分色々な患者が入院して居る。ペストも亦其一つであつて、餘り氣持の善いものではない。但し最も危険地と目せられて居る處は、ウガンダ一圓及ヴイクトリア湖に沿ふたケニヤ及タンガニカの奥地であると云ふことである。



全土人の七割半は梅毒

東アフリカには種々な悪病が澤山あるが其内尤も土人に取り悲惨な害毒を流しつゝあるものは梅毒である。是は土人の間に比較的新しい病氣であるが、現今では都市は勿論如何な偏避の部落に於ても盛に流行して居り、或地方の如きは其人口の約七割半迄は、此病氣に侵されて居ると云はれて居る。蓋し近年土人の多くが市街又は他の地方に出て、勞働する爲自然悪風に感染し、其儘部落に持ち歸り、次から次へと傳播させるのであるが、彼等は無論治療法も知らなければ又衛生法も解しない、従て一度此病氣に感染すれば生涯治癒することは決してないのである。目下東アフリカには土人の間に死産と幼兒の死亡が非常に多い、其原因は素より種々あるが、其大なる禍根は梅毒であつて、若し此状態が改善せられず病毒が此勢で漫延するものとせば土人は到底其滅亡を免れないと云はれて居る。

土人の皮膚病と歐洲人

梅毒と共に土人の間に於て、其惨害を極めつゝあるものは、ヨース即ち學名をフランベジアと云ふ皮膚病であつて、外見が梅毒に類似する爲、屢々夫れと混同せられて居るが、是れ亦各地に於て盛に流行して居る、政府はサルバルサンの注射を施療し、本病の撲滅を計りつゝあるも、何分無智な土人相手の事故、豫期の目的を達する事は決して容易でないと云ふことである。併し最後に一言附け加へて置かねばならぬ事は、東阿一帶の地方に於ける衛生状態は右の通り不良ではあるが、其處で活動して居る人達は存外平氣であつて、孰も皆非常な元氣に満たされて居る事である。彼等は如何なる悪疫も人々の注意次第で之を避けることは、決して困難ではないと言つて居る。現に之等の悪疫の爲に斃れる者は無智な土人であつて、歐洲人中には極めて稀れである。



## 政治組織の概要

### 諸王の威厳と安全とを保護する英國の政治

當方面の各國は或は殖民地として、或は委任統治地として、或は又保護國として英國の支配に屬し、夫々英國皇帝より派遣する、總督又は統監に依り支配せられて居る。併し此形式に依る英國の政治は大體に於て、大局の利害に關する一般的事項に限られ、土人の生活に關する日常の簡單なる事項は土人の自治に任し、無用の干涉は成るべく避ける事を努めて居る。殊にウガンダ及ザンジバルに於ては諸王國とは古來の條約上の關係もあり、旁々今尙舊來の制度を維持し、諸王の威厳と其安全とを保護して居る。

最近外務省より發表した、著者の東アフリカ事情報告書には英領東アフリカ諸國の政治に關し、大要左の通り記載して居る。



ケニヤの政治(沿革)

ケニヤはザンジバル王より租借せる幅十哩の海岸地帯と、其奥地の英領地とを併せたものであつて、右の海岸地帯は一八八六年米獨佛三國協約の結果ザンジバル王の領土と決定せられ、其後一八九五年英國政府に於て同王より租借し、之をケニヤ保護領と稱し、又其背後地は一八九〇年英獨協約の結果英國の勢力範圍となつたのであつて、一八八八年以來英國政府が英帝國東阿商會と稱する特許會社をして其開拓の任に當らしめたるものなるが、一八九三年に至り之を英國政府の手に納め、一八九五年九月之を其保護國となし、東阿弗利加保護領と名付けたるも、一九二〇年六月之を英國の殖民地に變更すると共に、領内最高峰の名に因み之をケニヤ殖民地と改稱したものである。

中央政治

現在の行政長官はガヴァナー即ち總督であつて、英國殖民大臣に直屬し、ケニヤの行政を總

理すると同時に軍司令官の地位を與へられて居る。但し輔佐機關として參事會を有し、總務長官、財務部長、土人部長、醫務部長、及總督の指名に依る者若干名(現今は三名)を以て之を組織して居る。

行政部の組織は總務、司法、土人、財務、醫務、鐵道、土地、農業、土木、税關、(以上各部長官を議會の官職議員とす)教育、郵便の各部に分かれたれ、一切の事務は總務長官を通じて行ひ、總督不在の時は同長官が之を代理することに成つて居る。

又行政部と相並んで立法議會があり、政府の豫算並に法律は總て殖民地議會の協贊を要する事と成つて居る。其議員は官職議員十名、總督の指名官吏十名、土人の利益を代表する總督の指名議員一名、及び選舉議員十七名(内白人十一名印度人五名、アラビヤ人一名)合計三十八名より成り、其過半数は全然總督に依りて支配せらるゝのみならず、議會の決議は總督の署名に依りて其効力を生ずるものなれば、總督の意見に添はざる事は如何なる事と雖も法律の効力を生ずる事が出来ない。然も總督は植民大臣の指揮並に監督に服するものなれば、ケニヤの政治は結局英國政府の專制政治と云ふ形に成つて居る。是れ當國在住英國人の甚だ好ましからず



とする所なるも、英國政府が現に印度人並に土人に對して取りつ、ある政策は彼等の最も不満とする所であつて、彼等の見る所に依れば斯る政策が本植民地に行はれる所以のものは、必竟此制度の結果なれば、該問題解決の爲めには寧ろ百尺竿頭一步を進め、本制度の改正に向つて猛進せねばならぬと云つて居る。惟ふに英國移民の意見は甚だ我利的であり、又感情的な嫌はあるも、其半面に於て一道の眞理がないではない、然し窮極の問題は在住者の素質如何と、幾百萬人の土人、並に數萬人の印度人に對する英國政府の責任如何と、云ふことにあるのであつて、英國移民の云ふ如く、簡單に形付けられるものでないと思はれる。

### 地方政治

地方政治は非土人事務と土人事務とに分れ、非土人事務は全國を十州(プロビンス)に分ち、各州に州長(レシデント・コムミツシヨナー)を置き總務長官(コロニアル・セクレタリー)の監督に屬せしめて居る。又土人事務は全國を七州(プロビンス)に分ち、各州に州長(シーニア・コムミツシヨナー)を置き土人部長官(チーフ・ネチーブ・コムミツシヨナー)の監督に

屬せしめ、各州を二十六區(ディストリクト)に分ち、各區に區長を置き州長の監督に屬せしめて居る。

各土人村に村長(ヘッドマン)を置き、土人の名望家を以て之に任じ、村内の秩序維持、布令の示達等の事務に當らしめて居る。

各土人區に土人評議會(ネチーブ・カウンシル)を置き區長を議長とす、但し議員は一部を政府に於て任命し、他は土人をして指名せしめ、其任期は二年とす、土人評議會の職務及び權限は飲食物、給水、救助、道路、橋梁、衛生、教育、農業、市場、牧畜其他土人の福利に必要な事項に付決議し、區内の必要に應ずる爲め土人に對し課税又は賦役を命ずる權限を與へられて居る。但し部落の爲にする土人の賦役は無給であつて三ヶ月毎に六日間の定めである。

### ウガンダの政治 (沿革)

ウガンダ保護國はブガンダ、トロ、ウンヨロ、アンコレの諸王國より成立し、英國政府の保護の名に於て支配せられて居るのであつて、一八九〇年英獨協約の結果此地方が英國の勢力範



園に屬すると同時に、英國は直に英帝國東阿商會と稱する特許會社をして、其經營に當らしめたものである。然るに佛國は豫てよりウガンダに於て英國と覇を争ひ、英國が新教の力に依り其勢力を扶殖せんとするに對し、佛國は舊教を宣傳し、之に依つて英國を排斥せんとしたるにより、英國は一八九二年新教保護を名としルガード大尉（後のサー・フレデリック）をして會社の兵力を使用して土人を煽動せしめ、口實を設けて佛國宣教師を逐ひ、不順の土人を盡殺し、之に依つて英國の權力を確立し、翌年之を會社より英國政府の手に移して英國の保護國となし、一九〇〇年に至り改めてブガンダ、トロ、アンコレ王國と條約を締結し保護の事實を明にした。但しブンヨロ王國との間には條約無きも、右三王國との條約に準じて之を支配して居る。

### 中央政治

英國政府は右條約の結果ウガンダに統監を置き、ブガンダ國エンテベに駐在し、保護政治の任に當らしめて居る。但し統監の下に行政會議及立法會議を置き、之を其輔佐機關として居ることは他の諸領に於けると同様である。

行政會議は總務、法務、財務、醫務、農務、教育の各部長を以て組織し、立法會議は右六部長及統監指名の非官吏三名（現在は歐洲人二名、印度人一名とす）を以て組織して居る。但し其目的は統監の専斷を避くるにあるも、右は單に統監の輔佐機關たるに止まり、何等統監の行爲を束縛すべき権限を有するものではない。但し統監の政治は一般的施政に關してのみ行ふのであつて、土人の生活に關する日常の事項又は彼等自身の内部の事項に就ては、成るべく從來の組織を重んじ、之を土人の自治に任んずる方針を取つて居る。

### 諸王國の政治組織

各王國は一九〇〇年のウガンダ條約の規定に依り、英國の保護の下に議會其他の機關を通じ英國政府の承認する方法に於て、其管轄内の土人を直接に支配する事を許されて居る。各王國中最も政治組織の整備せるものはブガンダ國であつて、其王をカバカと稱し、其下に總理、司法長官、財務長官を置き、以て一般行政の任に當らしめ、又別にルキコと稱する議會を設け、右の各官、各部長及王の任命せる者を議員とし、總理を議長とし司法長官を副議長と



して居る。但し決議は王の裁可並に英國總督の承認を経るにあらざれば効力を生じないことに成つて居る。

國內を分つて二十郡とし各郡に土人の郡長を置き、英國統監の承認を経てブガンダ王が之を任命する、但し郡長は土人に對し裁判權、課稅權を有し、道路の維持及土人の事件處理の任に當つて居る。他の諸王國の政治組織は大體に於て之に類するに依り省略する。但しトロ國王はムカマ、アンコレ國王はムカベ、ウンヨロ國王はカバレガと呼び、何れも議會の制度を有し、之をルキコと呼んで居る。

土人王國に於ける政治の組織は大體右の通りなるも、歐洲戰爭の際多數の青年等、英國政府の徵發に依り渡歐の結果、彼地の文物に觸れ、民族自決、其他當時流行の民主的標語に感染し、英國の政治に反感を抱く者を生じ、且彼等は土人議會の組織が全然貴族的にして、議員が王の任命に依るものなる事を難じ、之を民衆的に改め選舉制度を採用せん事を主張しつゝ、あるも、英國政府は之に耳を籍さすと云ふ。

### タンガニイカの政治 (沿革)

東阿に於ける古き昔の歴史は之を別とし、近年の出來事としては其の端を奴隸問題に發し、尋で歐洲探險家の活動と成り、大に世人の注意を喚起するに至りし事は曩に述べた通りなるが、今茲に現在の制度を述べれば左の如くである。

#### 中央政治

行政は總督(ガヴァナー)の權限に屬し、總督は英國殖民大臣に直屬し、其指揮及監督を受く。首府をダレサラームに置く。

總督の下に其輔佐機關として參事會を置き、總務、司法、財務、衛生、教育、土人部各長官を以て之を組織す。

當領に於ては從來議會の制度なかりしも、一九二六年に至り始めて其制度を設け、總督を議長とし、議員の數を二十三名以内とす。但し其内十三名は參事會議員及鐵道、稅關、土地、農務、土木、郵便各部長官、ダレサラーム地方長官の官職を有する者とし、他は非官職者中より



總督の指名を以て之に任ず。即ち立法部は全部總督の支配の下に置かる、ものであつて、參事會と共に總督の單なる輔佐機關たるに過ぎないのである。但し右に依れば、非官職議員は十名以内の規定であつて、現在は其内七名のみ指名せられ、他は空位と成つて居る。

タンガニカは其委任統治地たる特殊の政治的地位を有するも、交通上並に經濟上ケニヤ及ウガンダと漸次親密なる關係を有し、關稅及貨幣は右の兩國と共通の制度を採用して居る。

### 地方政治

本領土は十一州（ロヴィブンス）二十二地方（ディストリクト）に區分せられ、各州及び地方には夫々英國人の州長官、並に地方長官を置くも、ブコバ、ムワンザ、タボラの各州には世襲的酋長を有するに依り、其自治を許し、其他の地方に於ても成るべく土人の自治を認むる方針を採つて居る。尤も海岸地方にはアキダと稱するアラビヤ人其他の外來人を酋長とする地方がある。夫等の地方に於ては漸次土人の酋長をして此種の外來者に代はらしむる方針なりと云ふ。

### ザンジバルの政治（沿革）

アラビヤ人が太古の時代より久しく此方面に於て活躍し、其後葡萄牙人の侵入と共に、東阿の天地は是等勢力争ひ、争鬪の巷と成つた事は曩に述べた通りである。然るに十八世紀の末に至り東阿沿岸のアラビヤ人は、マスカット王の力を藉りて葡萄牙人を撃滅し、爾來同地方は同王の支配に屬すること、成つたが、一八五六年同王セイイド、サイドが居をザンジバルに移すに及び、ザンジバルは、東阿弗利加及アラビヤ兩地の國都と成り、アラビヤ人がザンジバルに於て笛吹けば湖畔地方に於て黒奴が踊るとさへ云はれて居た、以てザンジバルが其當時東阿に於て如何に重要な地位を占めたかを知ることが出来るのである。

然るに其後時移り物變つて、東阿は歐洲強國の争奪の巷と成り、一八八六年英、佛、獨三國協約の結果、ザンジバル王の領土はザンジバル及ムバの兩島及、其對岸の大陸に於て、ロヅマ河及タナ河間に於ける幅十哩の海岸地に局限せられ、尋て一八九〇年の英、佛、協約に依りザンジバルは英國の勢力範圍に屬する事と成りたる爲、英國は直に自由行動に着手し、ザンジバルの



領土を以て英國の保護國と爲し、一八九五年に至り、右の海岸地を英國の租借地とし、ザンジバル王に對し英國より、年金一萬一千磅及別に右の租借料として、二十萬磅の年利六千磅を交付する事とした。斯くの如くにして英國はザンジバルを以て、自國外務省の所管に屬せしめ駐在官を派出し、之を同政府の主席大臣となし、以て同領の政治に關與せしむる事と爲したるも一九〇六年右の組織を改め、英國の直接支配と爲し、一九一三年に至り之を英國植民省の所管とした。

### 現在の制度

當領にはサルタンと稱するザンジバル王あり、名義上當領の主權者なるも、實權は英國統監(レジデント)に依り握られて居り、サルタンは只名義上或程度迄從來の榮譽を認められて居るに過ぎないのである。

當領には從來議會の制度なかりしも、一九二六年改革の結果議會及行政會議を設け執も左の通り組織せられて居る。

#### 甲、議會

議會は英國統監、總務長官、財務長官、司法長官及統監の指名せる官吏五名、(現在はザンジバル島知

事、ムムバ島知事、醫務長官、教務長官、農務長官とす)及非官吏議員六名に依つて組織せられ統監を議長とす。

法律は議會の通過及サルタンの署名を必要とするも、統監の副書がなければ其効力を生じない。

#### 乙、行政會議

行政會議はサルタン、英國統監、總務長官、財務長官、司法長官を以て組織せられ、サルタンを議長とす。



## 英領東阿聯邦問題

英領東阿弗利加に於て、ケニヤ、ウガンダ、タンガニイカを打つて一丸となし、若し出來得るならば、ザンジバル、ニヤサランド、北ローデシヤをも之に加へ東阿弗利加聯邦を組織せんとする事は、豫て現在の政治組織に満足しない、ケニヤ植民地の一部の英國人に依りて、唱導せられつゝあつた處、右の運動は最近に至り非常に有力となり、殊に之に隣接する「タンガニイカ」に於ても漸次賛成者を生じ、英國政府も亦次第に之に引摺られつゝあるが如き觀を呈して居る。蓋しケニヤに於ては、從來同地英國人間に於て、猛烈な印度人排斥の運動があつて、英國政府は該運動者と、之に對抗する印度の排英者との間に在りて其の板挟みと成り、非常に當惑しつゝある次第なるが、若し右の聯邦運動が其功を奏し、東阿在住歐洲人の間に自治が許さるゝものとせば、印度人の地位は極めて危険と成るのである。

## 印度人排斥は日本にも大影響

然るに茲に謂ふ所の印度人排斥なるものは、其實印度人を中心とした東洋人の排斥を意味するのであつて、我國にも亦頗る重大な關係があるのである。現に最近我國の東阿貿易は驚くべき急速の進歩を爲し、我國よりの木綿の輸入は、ケニヤ、ウガンダ、タンガニイカの三國に對し一個年約七百萬圓以上に達し、將來も亦非常に有望と見做されて居る。是れ東阿聯邦問題が我國にも頗る重大な關係があり、其成行に就ては、我國に於ても大に注意せねばならざる所以である。

但し聯邦組織の動機に就ては、或者は之を以て、英國政府がケニヤに於て印度人問題を持て餘まし、其責任を植民地政府に轉嫁せんとの下心から、故意に計畫したものであるとの説を爲すも、右は餘りに穿ち過ぎた話であつて、實の處は同植民地に於て、英國人移民の増加するに従ひ、彼等は自然に自己の勢力を自覺又は過信し、現在の官僚政治に不満を感じ、彼等の傳統的政治の理想たる、自治制度を求めんと希望を起し、總て關係深き隣邦を聯結し、一大自治の聯邦を作らんと計畫を生んだのであつて、印度人問題は之に油を注いだ如き感が無いではないが、其主たる動機が彼等の單純な自治の要求である事は決して疑ないのである。現に英國



政府は一九二三年東阿弗利加各領土に對する施政方針なるものを發表し、其第二項に於て、「從來ケニヤに對し自治制度を主張する者が尠からざるも、帝國政府の見所に依れば、目下の處現在の制度を以て最も適當と認む。同植民地に對し將来自治制度を施行する事に就ては、他の植民地に於て成功せる英國傳來の主義並に多年の經驗とに依り、最善の手段を講ずべし」との旨を發表した位であつて、同政府は寧ろ現在の制度に戀々として居たものと思はれる。

### 英國移民の聯邦組織運動

其處でケニヤ在住の英國人等は、政府の斯かる態度を以て不満足なりとし、頻りに制度の改革を主張した。然るに一九二四年英國労働黨内閣の時に當り、同國議會に依つて組織せられた東阿調査委員會は、同地の實狀調査の結果、「東阿に聯邦制度を設くる事は、之を尙早と認むるも、各植民地間には幾多の共通問題が存在するに依り、各行政部をして克く其意志を疏通し、事務の連絡を保たしむる事は極めて必要なりと認むる」旨を報告し、大に英國朝野の注意を喚起した。茲に於て英國政府に於ても覺る所あり、一九二六年ケニヤの首府ナイロビに於て、關

係地方の知事會議を催ふし、種々な共通問題を討議せしめたが、同國在留民側に於ても、ケニヤの有力者デラメヤ卿の發起にて一九二五年タンガニカに於て、又一九二六年北ローデシヤに於て東阿有志者大會を催し、大に東阿英領各地聯合の氣運を助長した。茲に於て聯邦組織の運動は、自治の叫びと共に次第に濃厚と成り、最近ケニヤに於て議會議員選舉の際、各議員候補者は大抵之に賛成する政見を發表する等、其意見は漸次具體化せらるゝに至りたるに依り、英國政府も亦次第に之に引摺られ、從來の態度を變更するに至りたるもの、如く、一九二七年春倫敦に於て植民地會議開會の際、同會議に出席の東阿植民地知事と協議の上、同問題に關し特別調査委員會を組織し、根本的に之を調査研究せしむる事となし、同委員長には財政に造詣深き。ヒルトン・ヤング、委員には印度人問題に精通するサー・レジノールド・マント、東阿土人の教化事業に經驗深きサー・エッチ・オールダム及サー・ジョージ・シユスターの諸氏を任命した。

### 東洋人を支配せんとする歐洲移民

然るに英國移民の自治と云ふのは、彼等の單なる自治と云ふのではなく、其實土人及東洋人



の在住者を歐洲移民の支配の下に置かんとするのであつて、ケニヤに於ては二百七十萬人の土人、及四萬有餘の東洋人を、一萬二千人の歐洲人の支配の下に置き、ケニヤ、ウガンダ、タンガニカの三國を聯結する場合には、一千萬人の土人と七萬有餘の東洋人の運命を、一萬八千人の歐洲人の支配に屬せしめ、又ザンジバル、北ローデシヤ、ニヤサランドをも之に加入せしむるものとせば、千二百萬の土人と十萬の東洋人を二萬人の歐洲人の支配の下に置かうと云ふ不自然極まるものなるのみならず、彼等の主力とも云はるケニヤの英國人は、豫て白人優越主義を振り廻はし、土人及印度人に對する英國政府の政策を手緩るしとし、印度人に對しては極端な排斥を主張し、土人に對しては其自作農業に反對し、其留保地を白人の爲に開放し、白人の爲に其勞働を強制せんことを主張して居るのであつて、印度人及土人に取り危険此上もないのである。尤も英國政府と雖も必ずしも心かち一々之に反對するのではない、只印度人問題に關しては印度の排英運動に恐を抱き、之に對して出来るだけ妥協的態度を採り、又土人に對しては大に世間の思惑を顧慮し、白人優越主義と土人優越主義とを折衷し、白人の利益と土人の利益とを並行せしめ様と云ふ、所謂二重政策なるものを採用しつゝ、あるものであつて、土人及印度人

の立場より云ふ時は、英國政府の態度は決して満足と云ふわけには行かないが、併し現在の制度に於ては同政府は彼等の爲めには我利的な歐洲人に對して、或程度まで利害の調節者と成り、其安全瓣と成つて居る。殊に印度人に取りては必要に臨み印度政府の力を借り、英帝國の問題として運動すべき餘地を有するも、聯邦制度の下に於ては、夫が全然不可能となるのである。左れば印度人は聯邦制度を以て、非常に危険なりとし、本國人と相呼應し、極力之に反對して居り、英國政府も亦之に耳を藉さないわけには行かないのである。従て英國政府に於て、此際若し東阿に聯邦組織を設けるか、又は他の何等かの方法に依り、之に自治制度を許すとせば、先づ其先決問題として、是等の土人、印度人、及び其他の非歐洲人の將來の安全を如何にして保證すべきやと云ふ事に付き、大に研究すべき必要がある。

### 土人の利益を保護するは英政府の義務

是れ英國政府の政治上並に道徳上の重大義務なるのみならず、少くともタンガニカは委任統治地であつて、土人の利益を保護することが委任統治の條件として規定せられて居る關係上



之に對して誤なき事を努むるは、同政府の條約上の義務である。尤も土人の現在の状態は極めて低級なるに依り、彼等の政權に關しては、近き將來に於て何等かの問題を生ずべき恐なきも、國家の永久の組織を定むるに當つては、彼等に對する經濟上、並に社會上の問題と共に彼等將來の政治的地位に就ても、豫め考慮し置く必要があると思はれる。又印度人に對する問題は目下の處ケニヤに於ける印度人の問題に過ぎざるも、ウガンダ、タンガニイカに於ける状態も亦ケニヤの夫に類するものなれば、是等の地方に於ても、早晚之と同一の問題に逢着すべく、單なるケニヤ限りの問題として之を等閑に附するわけには行かないのである。況んや此問題は既に英國及印度間の政治問題となつて居り、若し一步を誤る時は、英帝國に取り極めて重大な結果を生ずる恐があるのである。従て英國政府としては、此際英國移民の意見を尊重し、聯邦組織を許すとしても、無條件にて之に印度人、及土人を引渡すわけには行かないのである。

### 英國政府の研究事項

茲に於て英國政府は、本問題に關する特別調査委員會を設置するに當り、各植民地間に聯邦

又は或他の共同組織を設置する場合に其方法、並に該組織の内容は之を如何にすべきや等の問題に付き研究すると共に、土人並に印度人其他の異人種の待遇、政權分配の方法等に就ても之を研究する事を必要なりとし、該委員に對し左の項目に付き調査すべき旨を命令し、其旨一九二七年七月ホワイト・ペーパーを以て發表した。

- 一、諸種の利害共通の事業就中運輸、交通、關稅、稅關行政、科學的研究及び國防に付き、聯邦又は他の密接な同盟の方法に依り、中央及東阿弗利加諸政府の協力を、一層有効ならしむる方策如何。
- 二、右の組織中に現今又は他日編入すべきものは如何なる邦國となすべきや。又タンガニイカは統治委任規定第十條中、「本規定に違反せざる限り、稅關、財政並に行政上の事項に付き、隣邦と聯邦又は同盟を組織する事を得る」事と成り居る處、同條を最も有効に實行する方法如何。
- 三、「(イ) 聯邦議會又は他の共同機關設置の結果として、(ロ) 各邦に住所を有する移民をして一層政務に參與せしむる爲め、(ハ) 四項の趣旨に依り終局に於て土人の利益が一層直接に代表せられ得る爲」各邦の立法議會の組織を如何に定むべきや。
- 四、東阿弗利加知事會議の建議せる、二重政策（土人と非土人として兩々相並んで發達せしむる策）を經濟上並に政治上の問題に適用する方法如何。



五、本組織の運用を容易ならしむる爲め、各邦間の交通を改善する方法如何。  
 六、右各事項に對する意見は財政上の見地より報告すべし。  
 以て如何に英國政府が印度人及土人の問題に付き苦心しつゝ、あるやを察するに足るのである。

### 文明に同化するまで土人の舊慣を維持

斯くして委員一同は一九二七年十二月より翌年五月まで、英領東阿弗利加の各地を巡廻し實地踏査の上、一九二九年二月倫敦に於て其報告書を發表したるが、同報告書は先づ黒白人の接觸が二十世紀の大問題なることを喝破し、更に此地域は將來人類の食料及原料の供給地として極めて偉大な潛勢力を有することを述べた後、該地域の開發は土人をして之を爲さしむべく、白人の任務は主として土人の生産を奨励し、且つ之を援助するにありとて「土人の生活を安定せしむる様彼等の爲に充分土地を留保すること、各留保地内に於ては原則上歐洲人に借地を許さざること、土人に生産を奨励し且つ其生産物賣捌の爲保護の方法を講ずること、鐵道の輸送

に關し歐洲人の爲に特惠制度を設けざること、歐洲人の企業の爲土人の生活を犠牲にすべからざること、土人が西洋文明に同化するに充分な時まで其舊慣を維持せしむるころ」等の要目を擧げ、次に此地方に自治權を與へることは不可なりとて、大要左の通り述べて居る

「此地域に於ける白人の移住者は極めて尠く、且つ將來に於ても、氣候其他の關係上著しく増加すべしとは思はれず、又土人は文化の程度極めて低く、近き將來參政能力が發達すべしとは考へられない。從て該地方に自治を許すことは、少數の白人の移住者の爲に多數の土人の利益を犠牲とする虞がある。故に英國政府の執るべき賢明な政策は、文化の幼稚な土人の後見人たる責任上、自ら施政の局に當り、土人の文化發達の爲、適當の方法を講じ、其結果に依り漸次之に自治を許すこと、なすべきである」云々。

### 聯邦組織は早尙

又同報告書は、聯邦組織の問題に付、之を政治上の團體と爲すことは、未だ其時期にあらずとて、大要左の通り述べて居る。



「土人は文化の程度極めて低く、未だ一國民たる意識が發達して居らざるに依り、斯る未開人を大多數の住民とする地方に、自治的聯邦組織を許すことは未だ其時期でない、然かし是等の諸地方をして互に協力せしめ、且つ英國政府との關係を密接にすることは、極めて望ましきに依り、地理的にも、經濟的にも聯絡の容易な、ケニヤ、タンガニカ、ウガンダの三地方を一團とし、又北ローデシアニア、ニヤサランドを一團として連結し、其各々に中央行政機關を設置することを必要とする。併しザンジバルは島嶼であつて、其地理上並に其他の關係上特別の事情を有するに依り、之を別個の組織とするを可とするも、科學的研究其他特種の問題に就ては他の植民地と協力せしむることを必要とする」云々。

斯くして該委員會は以上の方針に基き、右の團體の組織を左の如くすべしと主張して居る。

### 甲 暫定的方法

- 一、一人のハイコンミッショナリーを任命し其權限を左の通りする。
- イ 關係各植民地に於ける土人政策に關する問題を研究すること
- ロ 各植民地の共通の利害問題に付統一ある管理機能を増進し、相互間の紛議に對し、公平な基礎に

於て其解決を爲すこと

ハ ケニヤの政治組織の改正に就ては、同地方限りにて審議し、其方法を設くること

### 乙 恒久的方法

- 一、右の準備事業進捗し、政府に於て適當と認められた時は、ハイ・コムミッショナリーを廢して總督を置き、植民大臣と植民地との連鎖とし、其職務及び權限を左の通りとする。
- イ 總督は植民大臣に代はり、植民地の行政及び立法を監督すること
- ロ 英帝國の利益を確保し、本國政府の責任遂行に遺憾なきを期すること
- ハ 各人種間に正義の均衡を維持すること
- ニ 各植民地をして、共通の利害問題に關し協力せしむること
- 三、總督の輔佐機關として一般事項、運輸、關稅に關し審議會を設くること。
- 三、現在の制度は準備期間中成るべく之を變更せず、各植民地のガヴァナー即ち知事の稱號の如きも其儘之を存置すること。

### 丙 倫敦に於ける諸機關の改革

- イ 東部及び中部阿弗利加に於ける政策を協議する爲、五名乃至八名の委員より成る諮問會を組織す



ること

ロ 財政委員會及び交通委員會、又は財政交通委員會を設置すること、之には國務大臣に屬する財政及び交通顧問を委員とし、是等委員會の議長を本項(イ)の諮問會の委員とすること

丁 ケニヤ ウガンダ タンガニカの立法議會

イ ウガンダ、タンガニカの立法議會は變更する必要なし

ロ ケニヤに關しては總督の任命と共に又は其任命後、現在の官吏議員四名を非官吏に改め、土人の利益を代表せしめること

ハ 或時期の後漸次現在の官吏議員を減じ、土人の利益を代表する非官吏議員と改めること

ニ 議員の被選舉資格を教育財産制に改め、從來の人種階級制を廢し、共通選舉制に改めること

ホ 右の改革と共に總督に對しグイートー即ち法案否認の制度を設くる權限を與ふること

ヤング委員會の報告は大要右の通りなるが、英國政府は尙調査の要ありとなし、植民次官サー・サミューエル・ウィルソンを東阿弗利加に派遣し、更に實地に就き本問題を踏査研究せしめたるに、同官は昨年十月其結果を復命したるが、同官の意見も亦東阿弗利加に聯邦制度を設くることに反對し、同地方全體の統治に就ては之を英國植民大臣の權限とすべきも、各植民地知

事の上に高級の委員を任命し、之に關稅、鐵道、港灣、郵便、電信、國防等の共通問題を統轄せしめること、すべしと云ふのであつて、其主義とする所は大體に於て、ヤング委員會の意見と大差なきも、政治上歐洲人と同等の待遇を得んとする印度人の豫ての要求に對しては、漸進的に時期を待たしめんとするにあるが如く、印度人としては甚だ飽き足らずとするもの、如くである。

英國政府の苦しい立場

之を要するに、東阿弗利加聯邦問題は以上の如く、種々な利害問題が錯綜するに依り、夫が將來如何に進展するやは、容易に豫測し難きも、英國政府の今日の立場は、英國移民の要求に對して強く反對し難く、去りとして彼等に印度人及土人を無條件で引渡すことも出來ざるに依り、結局はヤング委員會の意見の如く、差當り非政治的にケニヤ、ウガンダ、タンガニカの三國だけを聯合し、夫以上の事は之を他日の機會に譲ること、爲すにあらざるか、之には印度人側にも異存がない模様なれば、これだけは最も實現性あるものと思はれる。併しケニヤ以外の植民地、即ちウガンダ、タンガニカにては、ケニヤの有志者に對して多大な反感を抱き、ナイロビより



支配せられることを喜ばない。殊にタンガニカには獨逸人の居住者が多數あつて、彼等は内心英國人の優勢な、ケニヤと事を共にすることを好まない、同時に英國人は近年獨逸人のタンガニカ歸還を以て、平和的侵略なりと云ひ、同地方の將來のステータスに對して、危険の念を懐きつゝ、ありとのことなれば、此問題の決定せられるまでには、尙幾多の波瀾曲折は免れないと見られて居る。

### 偉大なニツの横斷鐵道

英領東阿弗利加には偉大な二つの横斷鐵道がある。一はケニヤのウガンダ鐵道であつて、他はタンガニカの中央鐵道である。蓋しウガンダ鐵道は一八九五年、英國がケニヤに保護權を確立すると共に、其勢力を奥地に伸張する爲、其建設に着手し翌年工事を起し、一九〇二年に完成したのであつて、モムバサより西方の奥地ヴィクトリア湖畔のキスム迄、五七八哩の蕃地を殆ど一直線に横斷して居り、之により千古未開のケニヤの内地は勿論、遠くウガンダ迄の通路を開き、引いてはスーダン、白領コンゴ並にタンガニカの湖畔地方に向つて印度洋への出口を與へ、東阿の奥地開拓に一轉機を畫することゝなつたのである。

此鐵道の通ずる處は、殆ど山がなく、河も亦極めて稀であつて、モムバサの海峡、並に其附近の急坂地と奥地に於ける大地溝の邊りを除いては、大抵亘々たる平地のみなれば、線路の敷設は差した難事であつたとは思はれないが、當時の阿弗利加は事情不明の暗黒地であり、惡



疫充滿の不健康地であつたのみならず、建築材料は勿論下級の工夫と雖も、悉く之を國外からの輸入に仰がねばならなかつたのである。況や此地方は有名な獅子の巢窟であつて、工事中人畜の被害は非常なものであつたと云はれて居る。之が爲巨額の工費と努力を要した事は之を想像するに餘りあるも、其計畫の遠大なことは、流石に英國人であることを思はせる。尙此鐵道は其後數條の支線が敷設せられ、聊か牛の歩みの感が無いではないが、ケニヤ内地の交通も、將た又ウガンダ、タンガニイカとの奥地の連絡も、漸次改善せられて居る。

### 寢具もボーイもない列車

ゾオイ驛から西に向ひタンガニイカのモシ迄ゾオイ支線が敷設せられ、之に依りてタンガニカのタンガ鐵道と接続し、同國北部の要港タンガに通じ、併せてモシ方面の貨物を吸集しマガチー驛から有名なマガチー湖迄マガチー支線が架設せられ、之に依つて埋藏無限と云はれる同湖水から曹達の輸出を可能ならしめ、ナイロビ驛からシカ迄支線を通じ、遠からず之をタナ河迄延長して、北方の肥沃地を開發せんとし、更に最近はナクルからウアシン・ギシユーを経て

ウガンダのブツガ鐵道迄ウアシン・ギシユー支線を完成し、茲に始めてウガンダの奥地と、モムバサとを連結しウガンダに對し印度洋へ直通の出口を與へること、成つたのである。但し本鐵道列車には寢臺の設備は有るが、寢臺ボーイも無く、又寢具も無い。従て一般旅客も毛布枕等を携帯し、自ら寢臺を作らねばならぬのであつて、丁度印度内地の鐵道旅行と同様である。又列車には食堂等の設備が無いから、食事の時には一定の停車場で三十分間停車し、驛内の食堂で支度をする事になつて居る。阿弗利加の旅行に是位の事は敢て不自由とすることに足らざるも念の爲茲に附言して置く。

### タンガニイカの中央鐵道

タンガニイカ中央鐵道は元獨逸が同地領有中東阿經營の中堅として建設した、東阿横斷の大鐵道であつて、ダレサラームからタンガニイカ湖畔のキゴマ迄、延長七七三哩を東から西に向ひ一直線に布設せられて居り、ケニヤのウガンダ鐵道と並行し、恰も阿弗利加の中原に向つて其覇を争はんとするの觀がある。蓋し本鐵道は大體に於てアラビヤ人のカラバン道路に沿ふて、



建設せられたのであつて、嘗にタンガニイカ内地の交通に必要なのみならず、タンガニイカ湖以西の白領コンゴに對しても印度洋への通路を扼するに足るのである。尙奥地に於て最も重要なタボラ驛から、北方のシンヤンガ迄一條の支線があり、遠からずヴィクトリア湖畔のムワンザに延長せらる、管であるから、落成の曉にはダレサラームとヴィクトリア湖畔の豊饒地とを連結し、同地方開發の一大動機と成るべきは敢て疑なき所である。尙タンガニイカには右の外にタンガ鐵道とて北方のタンガ港から、モシ迄四〇哩の鐵道があり、同地にてウガンダ鐵道のヴォイ支線に接続して居ることは前に述べた通りである。但し是等の鐵道に於てもウガンダ鐵道と同様寢具は總て旅客自ら携帶すべく、食事も一定の停車場に於て爲す事になつて居る。

### 設備のよい獨逸人經營の鐵道

茲に一言附加へて置き度い事は、ケニヤの鐵道が萬事應急的簡便式なのに反しタンガニイカの夫は停車場其他の設備が總て永久的に出來て居る事である。是は前者が全然英國人に依りて經營せられ、後者が獨逸人の手に依り建設せられた爲であつて、兩國人の性格と其經營方針の

相違を見ることが出来るのである。惜ふに右の兩鐵道は孰も東阿非利加に於ける交通の中堅となり、地方開發の先驅と成つて居るものであるが、他日コンゴ方面に於て、横斷鐵道の敷設せらる、時に至らば、之と接続して阿弗利加横斷の幹線となり、又英國政府の理想とするカイローケーフ間縱斷鐵道完成の曉には、之れと連絡し本大陸に於て最も重要な交通路の一つと成るべき運命を有するものがある。



黒人帝國アビシニア



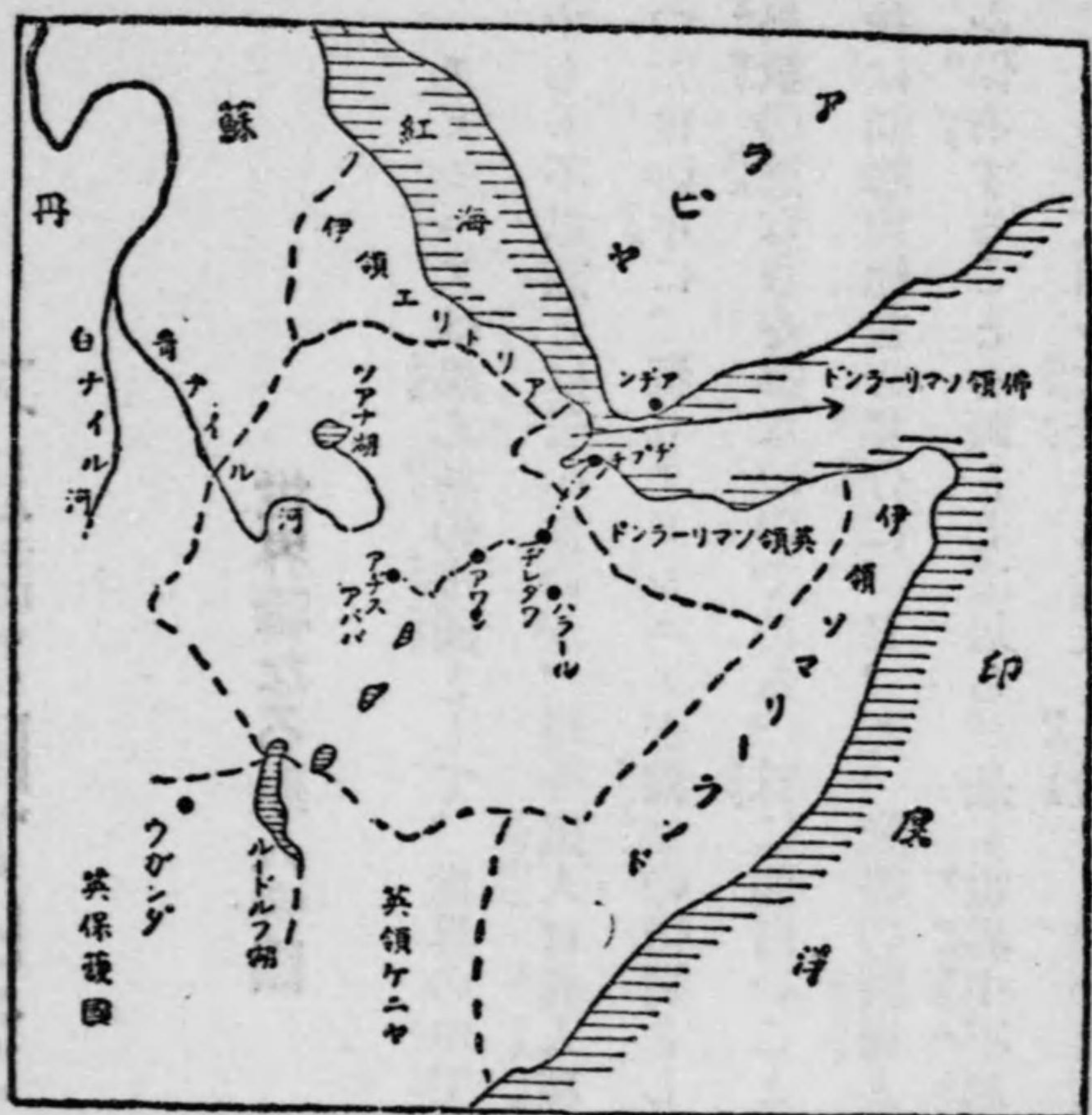
## 不思議な國アビシニア

### 世界稀なる黑人帝國

アビシニアは黒ん坊の帝國として、世界の中で最も不思議な國である。併し黒ん坊の帝國必ずしも不思議とは云へないが、現今黒人は異人種の爲めに、支配せられて居るものと相場の極つた世の中に、獨りアビシニアが獨立の帝國として、世界列國の間に伍すると云ふ事は、聊か異數の感なきを得ないのである。殊に面白いことは彼が國際聯盟の一員であることであつて、彼は同聯盟總會の場合に、日、英、米等の諸國と共に世界の政局を動すに足るべき、一票の力を保有することを誇として居る。是も世界中不思議の一つである。併しアビシニアは世界に於て最古の文明を代表する埃及と匹敵する程の舊國であつて、近頃英國の考古學者の手に依り、墓地の發掘から非常に有名と成つた、ツーターン・カーメン王、——昔の埃及王朝歴代の内に於て、



特に文化の秀でた時代の王様——に金銀財寶を贈つた事があると云ひ、或は又昔イスラエル人が、埃及で排斥せられた時、カナーン



ないのである。

の故國即ち後の猶太に逃れた際、其内の數千人が、本隊と離れて道を失ひ、幾年か紅海の沿岸を彷徨ふた末、其當時月の嶺と歌はれた、風光明媚の山地に落ち着き、土人と雑婚して段々發展したのが、今のアビシニアなりとも稱せられ、由緒澤山な國柄なるのみならず、其風俗と云ひ、其習慣と云ひ、實に奇々怪々な事が極めて多く、之を世界の不思議國と云ふも、敢て過言では

### 地理的に天佑の國

アビシニアは歴史的に珍奇な國柄であるのみならず、地理的にも亦大に變つた特色のある國である。先づ第一に阿弗利加の東北隅に於て、恰も茶碗を伏せた如き形の山國であり、然も其多くは五千呎乃至八千呎の大高原であつて、其周圍は殆ど砂漠によつて包まれ、然らざれば山又山の天險である。一夫道に當れば以て萬夫を支ふるに足ると云ふ趣がある。是れアビシニアが長く世界各國より隔絶せられ、地球上の別天地として、孤立の地位を保つて居た所以であつて、阿弗利加に於ける各地が、或は奴隸狩の災厄に遭ひ、或は歐洲諸國の餌食となつて、立つ事の出来ないにも拘はらず、獨りアビシニアが其危難を逃れ、太平の夢を貧つて居る事の出來たのも、畢竟斯る地理的天恵の御蔭である。然も其面積は三十五萬平方哩に互り、恰も我國本土の四倍に相當する大きな國であるが、惜むらくは海岸線が無く、四方は皆歐洲強國の領土に依つて取り圍まれ、北には伊領エリトリアと佛領ソマリアランド、西には英領埃及蘇丹、東には英領及伊領ソマリアランド、南には英領ケニア及ウガンダと云ふ風に、歐洲諸強國の領土



が周圍に並んで居て、恰も囊中の鼠の様な趣がある。只幸にして是等諸國の間に勢力均衡の問題が喧ましく、一國のみの拔驅をゆるさない其御蔭によつてアビシニアは外國からの侵入に就ては、先づ以て安全である。併しアビシニア人は何處までも、自力で其國を支へて居ると思ふて居る。お目出度い哉アビシニア人、彼は世界を知らざるお山の大将である。

### 氣候と衛生

アビシニアは山の國であり、赤道には近いが土地が高い爲に、氣候は恰も温帶國の様である。首府アヂス・アババの如きは海拔八千呎であるから、暑さも寒さも共に穏かである。著者が此處に滞在したのは一月から二月に互る冬の最中であつて、日本ならば寒風凜烈と云ふ季節であつたに拘はらず、爰は早く既に陽春の和氣に恵まれ、百花爛漫と咲き亂れて居た有様は恰も我國の新緑正に酣なる四五月頃の如くであつた、然も盛夏の時でも決して酷暑と云ふものが無く、是等は熱帶地高原の特色であつて、他の地方に於ては到底見られない所である。併し低地は無論暑氣が酷烈で、衛生状態悪しき爲め、マラリヤ、熱病等最も多く、其他の熱帶性の病氣

は大抵流行して居る。殊に四月から十月迄の雨期と、其直後とに最も甚だしいと云はれて居る。尤も是等の惡疫は高原地と雖も多少無いではないが極めて稀である、其代はり高度な地方は空氣が稀薄である。のみならずアジスアババの如きは非常な乾燥地であるから、心臓又は呼吸器の弱い人には宜しくないと云はれて居る。

### 瘧毒と病院

土人の間に最も多い病氣は瘧毒であつて、皮膚病も又尠なくない、然かも彼等には衛生の思想無く、爲めに人口は年々減少しつゝ、ある有様である。尤も首府には病院が三つもあり、其一は政府の經營、其二是攝政の經營、其三是米國長老教會の經營せるもので、一と二は佛國の醫師、三は米國の醫師が管理して居る。是が全國を通じての衛生設備であつて、他には何にものもなく、病氣をすれば只自然の淘汰を受けるのみである。

其の内米國長老教會の病院に就ては面白い奇篤な話がある。夫は今から數年前の事であつたが、主任のラムビー博士が病院建設の爲め、米國で資金募集の遊説中、一夜オハイオ州の片田



舎で演説會を催した處が、聽衆の中から一人の百姓風の男が其總豫算を尋ねたので、建物其他内外の設備一切で、五萬弗と云ふ事を答へると、其人が即座に全額の寄附を申出た爲め、其後援により此病院が出来上つたのださうである。寄附者は昔少年時代に汽車の密乗をして、大怪我をしたので、其時母に非常な心配を掛けた爲め、爾來其恩に酬ゆる爲、なき母の記念に病院を建てたいと思ひ續けて居たので、今其心願を果したのである。奇篤の人と云ふべきである。

### 驚くべき地球の龜裂

東アフリカに廣大無邊な地球の龜裂が有り、其全線は遠く南方の葡領東阿の沖合から、北に向つてアビシニアに入り、更に北方に於て紅海と成り、夫より亞細亞大陸に於てバレスタインに入り、死海及びヨルダン河と成つて居る事は。アビシニアは海拔五千呎乃至八千呎の大高原なるに拘はらず、夫が深さ一千呎乃至二千五百呎、幅數十哩と云ふ驚くべき大溪谷となり、深い處に漫々たる水を湛へ、ルードルフ湖を始とし、ステファニー湖、シヤモ湖、アバヤ湖、アワ

サ湖、シヤラ湖、ランガラ湖、アビヤタ湖、ズワイ湖其他の無數の沼湖を出現し、夫が連續的に並んで居る有様は實に天下の偉觀である。然も此地帯は到る處、山岳重疊と云ふ有様であつて、山水の美が兼ね備はり、其の風光の明媚なことは、瑞西の夫に比し決して劣らないと云はれて居る。

### 土人は皆黒ん坊

アビシニアの人口は色々に見積られて居るが、最も少いのは四百萬人、多いのは千三百萬人と云ふて居る。何れも精確な根據のあるものではないが、其の内最も信ずるに足るものは一千万人と云ふ説であつて、英國政治家年鑑は此説を採用して居る。云ふ迄もなく土人は皆黒ん坊であるが、夫が色々の種族に分かれて居り色の極く黒いのや、薄黒いの、頭の毛の大縮れや小縮れ、顔の柔和なの、獐猛なの等多種多様であるが、其内容の最も優れて居るのは、クーチツクと云ふ種族であつて、人口の約三分の一を占めて居る。現今チグレ、アマラ、ゴージヤム、シヨア等の北部及中央高原に居る土人は、主として此種族に屬し、現皇室の如きは其最も純血



なるものと云はれて居る。蓋し此人種は他の阿弗利加の土人と同様に、此地方に於ける有史時代の最初の人種とも云ふべきネグロ人種と、後から流れ込んで来た、ハミチック人種との混血から出来た雑種であつて、此國の土人の内でも最も歐洲人の血液の多く流れて居るものである。尤も同じクイック人種の内にも、割合に黑人種の血の多く這入つて居る者もあり、又後から移入したセミチック人種其他の異人種との雑婚に依りて、變化を受けた者もあり。其混血の程度に依り種々な種族を生じて居るのであるが、其の體格は概して中肉中脊、眼は茶色、髪は黒色、皮膚は薄黒く銅色を帯び、中にはトリブ色を加味するものもある。

更にガラと云ふハミチック系の大種族が有る。是はアビシニア人口の約二分の一を占め、人數に於ても最も優勢ではあるが、被征服者として見下され、純アビシニア人の内には算へられない。此人種は現今此國の西南及南部一帯の高原に居り、アルシ、ハラール等の地方を含む東方一帯の地方にも可なり多く發見せられるが、皮膚の色がクイックよりも遙に黒く、顔の造作も大に劣り、如何にも獐猛さうである。尤も中央高原に住む者は多くクイックと雑婚せる爲、其差違が顯著でないが、遠隔の地方に住む者は著しく相違して居るのみならず、男女共裸

體の上に毛皮を着け、原始的な生活を營んで居る。

女の裝飾に電線を失敬

東南及東部地方にソマリー人、東北部地方にダナキル人と云ふのがある。是は孰も遊牧の種族であつて、極めて獐猛な相貌をして居り、文化の程度は極めて幼稚である。但し彼等の最も澤山居る處は鐵道沿線のソマリーからヂレタワ、アルシに至る一帯の地方であつて、鐵道は屢々彼等から妨害せられ、殊に女の腕輪頭飾等の材料として、電線を盗まれるには最も困まるとの事である。併し



者男の族種「ラガ」るな猛獐



彼等の武器は主に手槍であつて、銃器を所持しない爲、甚だしい騷擾を爲す迄には至らないとの事である。

此外に眞黒なネグロ人も澤山に居る。是は西の方蘇丹、南の方ケニヤ及ヴガンダの國境に互る一帶の地方に居る大種族であつて、皮膚の色が最も黒く、頭髮は黒くてこまかく縮み、唇厚く、鼻低く、容貌の醜惡な、且つ智識の低い人種であつて、生粹のアビシニア人は之を輕蔑してシヤンカラと云ふて居る。

持て餘す奴隸狩と家畜の略奪

此國の奴隸は嘗て英國との條約に依り、表面禁ぜられて居るが、實際には、今も尙廣く用ひられて居り、夫等は總て此地方から狩り立てるのである。尤もアビシニア人が奴隸狩をする場合には、國境等は少しも顧慮しない。英國領又は其保護國たるスーダン側にも入れば、ウガンダ又はケニヤ側にも入るのであつて、夫等の地方に於て手當り次第に土人を捕へて、連れ歸るのである。勿論家畜の略奪等は朝食前の事であつて、英國でも之が僻地の出來事であり、又標

悍な土人のする事であるので、如何ともし難く、殆ど持て餘まして居るとの事である。

以上は極く重立つた種族であつて、此外にも小さい幾多の異種族があるのみならず、更に又夫が内面的に多數の人種に分れて居り、各々異なつた習慣や風俗を維持し、違つた言語を使つて居るのであるから、其錯雜たる事は想像するに難からぬのである。



皇統連綿三千年

アビシニアの最も珍とすべき事は、夫が古來皇帝に依りて支配せられ、皇統連綿として今日迄三千年の間、絶へないと云ふ事である。傳ふる所に依れば、紀元前一千年の頃、其當時文明の中心たりし地中海の沿岸に於て、最も威勢を振つて居たのは猶太國王ソロモンであつた。彼は非常に豪華を極め、金殿玉樓を構へ、天下の美女を集めて尙ほ飽く事を知らず、時にシバの女王として知られた、アビシニアの女王マゲダと云ふのが、沈魚落雁とも云ふ様な絶世の美人だと云ふことを聞き、使を送つて其入宮を促した。然るに女王も亦豫てソロモン王の英名を聞き、且つ深く猶太の文化に憧れ、大に王を敬慕して居たから、忽ち意志が疏通したと見え、俄に吉日を卜し、盛儀を凝して山を下り、遙々王の宮殿に幸じた。そして其後間もなく其間に生れたのが玉の様な黒ん坊の皇子であつた。是が即ちメネリツク第一世と云ふ、現在のアビシニア皇室の祖先であると云はれ、アビシニア人は之を甚大なる誇として居る。

世界一舊國を誇るアビシニア帝國

斯くて皇子は翌年母王と共に、一旦アビシニアに歸つたが、纏て再び猶太に赴き、ソロモン王の許で教育を受くる身となり、型の如く智徳兼備の素質を發揮し、父王の寵愛を受け、充分な修養を積み、十八歳の時、母の國に歸る事と成り、猶太人一萬人を率い、アビシニアに於て最も要害な且つ地味の豊かなチグレの高原に都を定め、國の基礎を固めたと云はれて居る。然るに面白い事には皇子が猶太を去るに臨み、彼は密にモーゼの十戒を認めた國書を奪ひ、之を携へてエルサレムを飛び出したのである。併しソロモンの宮殿に於ては直に之を知つたので、忽ち追手の兵を差し向けた。皇子は捕へられては大變だと斗りに、間道から急で紅海の岸に駆け付けた。處が、大地が裂けてアビシニア迄の抜け道が出来たので、皇子は一行の者等と共に夫を通つて、難なくチグレ州のアキサムと云ふ處に抜け出した。然るに不思議にも大地は再び裂け目を元の如く閉じたので、追手は皆土中に埋められたが、惜い事には其時右の國書が抜穴の中に取り残され、今も其儘アキサムの土中に埋つて居ると云ふことである。其眞偽



は素より保護の限りではないが、同国外務大臣の話に依れば、皇統の三千年間連綿たる事は、皇譜にも歴然と載つて居り、何等疑の餘地が無いとの事である。尤もアビシニアが今日の如く帝國として統一せられたのは、一八八九年以後の事で、其れまでは群雄が各地に割據して互に争ひ、戦亂が絶えなかつたのであつて、今の皇室の勢力も或時は微弱



世二第ケツリネメ帝先の興中アニシピア

リアンと云ふのが、中央の高原に於て穴に威を振ひ、遂に一八八九年に至り、國內の群雄を壓倒し、略ほ統一の大業を終へたので、メネリツク第二世として皇帝の位に即き、中興の英主と

と成り、又或時は強大と成り、其間の變遷は實に窮り無かつたのであつたので、十九世紀の末に至り、其皇孫のシヨア國王マ

仰がれる様に成つたのである。其處でアビシニア人は、此國が由緒の正しい、世界第一の舊國であると云ふ事を誇とし、勅語の冒頭には皇帝の形容詞として必ず「征服者たる猶太の獅子王、神の選君、諸王の王、エチオピア皇帝云々」と云ふ嚴めしい文句を並べて居る。目出度しと云ふべきである。

因にアビシニアと云ふ言葉は、夷敵と云ふ意味のアラビア語であつて、同國人は其國號をエチオピアと云ひアビシニアと呼ばれる事は喜ばないと云ふことである。

### 歴史から見たアビシニア

昔々大昔アビシニアの山地に埃及から退去した、イスラエル人の部落が出来たとか、又は今のアビシニアの皇室は、ソロモン王の後裔であるとか、云ふ事は前に述べた通りであるが、何處迄夫が事實であるかは勿論不明である。或は全然無稽の妄説であるかも知れないが、併し兎に角アビシニアが非常な舊國であり、今の皇室に古い由緒のあることだけは疑はれない事實である。但し此國が今日の様に一の帝國として統一せられたのは、一八八九年以後の事であつ